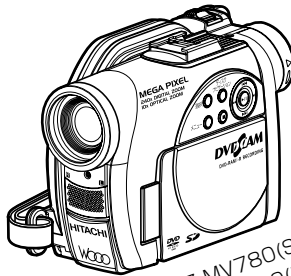
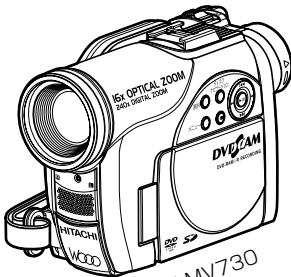
# DZ-GX20形
# DZ-MV780(S)形
# DZ-MV780(R)形
# DZ-MV780(A)形
# DZ-MV730形

# 取扱説明書

本機で撮影するには、DVD-RAM規格に準拠した8cm DVD-RAMまたはDVD-R for Generalに準拠した8cm DVD-Rが必要です。

このたびは、日立DVDビデオカメラをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
お読みになったあとは、保証書とともに大切に保存してください。
同梱のCD-ROMを開封する前に必ずP.225をお読みください。
この取扱説明書ではDZ-MV780/MV730のイラストを表紙のみに記載しております。
操作方法はDZ-GX20と同様です。

この取扱説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

この英文は、米国のUL規格に基づき安全上の注意を記載するものです。

# Important Information

**WARNING : To prevent fire or shock hazard, do not expose this unit to rain or moisture.**

**WARNING : To prevent fire or shock hazard, use the recommended accessories only.**

CAUTION

*RISK OF ELECTRIC SHOCK DO NOT OPEN.*

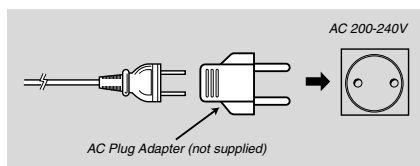
**Identifications of caution marks**

This symbol warns the user that uninsulated voltage within the unit may have sufficient magnitude to cause electrical shock. Therefore, it is dangerous to make any kind of contact with any inside part of this unit.

This symbol alerts the user that important literature concerning the operation and maintenance of this unit has been included. Therefore, it should be read carefully to avoid any problems.

**CAUTION :** TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK, DO NOT OPEN. NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE. REFER SERVICING TO QUALIFIED SERVICE PERSONNEL.

**Note:**

*The AC adapter can be used around the world. An AC plug adapter is required in some foreign countries. If you need one purchase it from your Hitachi distributor.*

In addition to the careful attention devoted to quality standards in the manufacture of your video product, safety is a major factor in the design of every instrument. But, safety is your responsibility too.
This page lists important information that will help to assure your enjoyment and proper use of DVD video camera/recorder and accessory equipment.

# IMPORTANT SAFETY INSTRUCTIONS

**1** Read these instructions.

**2** Keep these instructions.

**3** Heed all warnings.

**4** Follow all instructions.

**5** Do not use this apparatus near water.

**6** Clean only with dry cloth.

**7** Do not block any ventilation openings. Install in accordance with the manufacturer's instructions.

**8** Do not install near any heat sources such as radiators, heat registers, stoves, or other apparatus (including amplifiers) that produce heat.

**9** Protect the power cord from being walked on or pinched particularly at plugs, convenience receptacles, and the point where they exit from the apparatus.

**10** Only use attachments/accessories specified by the manufacturer.

**11** Use only with the cart, stand, tripod, bracket, or table specified by the manufacturer, or sold with the apparatus. When a cart is used, use caution when moving the cart/apparatus combination to avoid injury from tip-over.

**12** Unplug this apparatus during lightning storms or when unused for long periods of time.

**13** Refer all servicing to qualified service personnel. Servicing is required when the apparatus has been damaged in any way, such as power-supply cord or plug is damaged, liquid has been spilled or objects have fallen into the apparatus, the apparatus has been exposed to rain or moisture, does not operate normally, or has been dropped.

**14** The apparatus shall not be exposed to dripping or splashing and that no objects filled with liquids, such as vases, shall be placed on the apparatus.

# もくじ

カメラ編



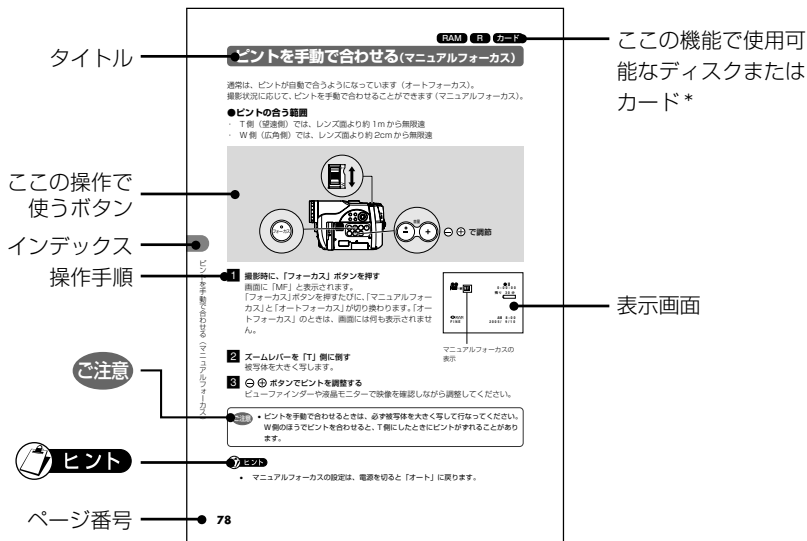
## ディスクナビゲーション機能

## パソコンと接続する（DZ-GX20/MV780）



## その他

# 本書について

この取扱説明書は、「はじめに」「本体の準備」「基本編」「応用編」「ディスクナビゲーション機能」「パソコンと接続する」「その他」に分かれています。ほとんどが次のようになっています（「とにかく撮って見る」は除く）。ページによっては配置などが異なる場合もありますが、基本的には同じ説明方法です。
よくお読みいただき、正しくお使いください。

* 本機に搭載されている機能のなかには、使用するディスクやカードによって、使用できる機能に制限があります。
ご使用になるディスクやカードがその機能に対応しているかどうかは、右上のマークで識別してください。

RAM　:DVD-RAM ディスク（☞ P.198「用語解説」）
R　:DVD-R ディスク（☞ P.198「用語解説」）
カード　:SD メモリーカード（☞ P.198「用語解説」）

## 本書内の画面について

実際にご覧になる映像とは異なる場合があることをご了承ください。

## DZ-MV780(S)、DZ-MV780(R)、DZ-MV780(A)について

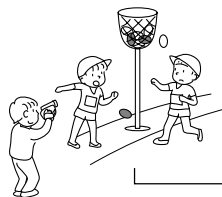
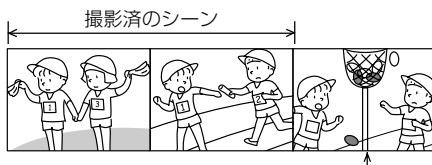
DZ-MV780(S)とDZ-MV780(R)とDZ-MV780(A)の違いは本体の色だけで、操作方法は同じです。本書では DZ-MV780 と記載します。

# こんなことができます



## 再生途中でもすぐに撮影できます （☞ P.56、64）

テープのように撮影開始場所を探したり、頭出しする必要がありません。
再生を途中で止めて、そこから撮影を開始しても上書きされることはありません。

再生を途中で
止めて…

すぐに撮影を
開始しても…

上書きされることはありません

## 見たいシーンがすぐに再生できます （☞ P.115）

テープのように巻き戻す必要がありません。
見たいシーンを選んですぐに再生できます（ディスクナビゲーション機能）。

## ディスクナビゲーション機能を使ってオリジナルムービーを作りましょう （☞ P.135）

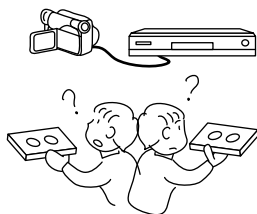
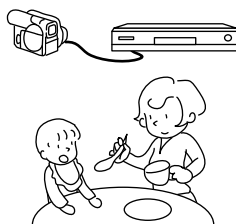
いらない場面を削除したり、シーンを並べ替えたりして、自分だけのムービー作品を作ることができます（プレイリスト）。

編集前

編集後

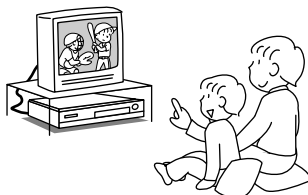
### 面倒だったビデオ編集も簡単にできます （☞ P.91）

お子様のシーンだけを編集してビデオにダビングする作業は、大変です。
本機を使えば、ディスクナビゲーション機能のプレイリストでお子様のシーンだけを集めたオリジナルムービーを作り、それを再生してビデオテープやDVDにダビングするだけです。

今までは…
ボタンを繰り返し押さなくてはいけなかった。

これからは！
本機を再生し、ビデオデッキやDVDレコーダの録画ボタンを押すだけ。

### パソコンを使ってオリジナルDVDを作成できます （☞ P.173）

同梱のソフトウェアCD-ROMを使用して、オリジナルDVDを作成することができます。
作成したDVDディスクは、DVDプレーヤー／レコーダーやDVD-ROMドライブで再生することができます。

オリジナルDVD作成中

DVDを再生

# 安全にお使いいただくために

## 注意事項の記載方法

本書では、本機を安全にお使いいただくためにご注意いただきたいことを、3段階に分けて記載しています。

 **危険**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡したり重傷*[1]を負う危険が差し迫って生じることが想定される事項を説明しています。

 **警告**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡したり重傷*[1]を負う可能性が想定される事項を説明しています。

 **注意**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害*[2]を負ったり、物的損害*[3]が発生したりする可能性が想定される事項を説明しています。

***[1] 重傷**　失明、けが、やけど（高温・低温）、感電、骨折、中毒などで後遺症が残るもの、または治療に入院や長期の通院を要するものを指します。

***[2] 傷害**　治療に入院や長期の通院を要さないけが、やけど（高温・低温）、感電などを指します。

***[3] 物的損害**　家屋、家財、および家畜、ペットに関わる拡大損害を指します。

## 重要な説明を示す記号

重要な説明が一目でわかるように、以下に示す記号を使用しています。

| 記号 | 説明 | 記号 | 説明 |
|---|---|---|---|
|   | 「注意」していただきたい内容を示します。 |  水ぬれ禁止 | 「水にぬらすことを禁止する」ことを示します。 |
|  禁止 | してはいけない「禁止」行為を示します。 |  風呂、シャワー室での使用禁止 | 「風呂場やシャワー室などでの使用禁止」を示します。 |
|  分解禁止 | 「分解禁止」を示します。 |  | 「強制」記号です。必ず実行していただきたいことを示します。 |
|  ぬれ手禁止 | 「ぬれた手で扱うことを禁止する」ことを示します。 |  | コンセントから必ず「電源プラグを抜く」ことを示します。 |

## ⚠ 危険

| | | |
|---|---|---|
| **リチウム電池の取り扱いに注意する** | リチウム電池を取り扱うときは、次のことを守ってください。<br>・火や水の中に投入しない<br>・火に近づけたり、加熱しない<br>・ショートさせない<br>・鍵などの金属物と接触させない<br>・分解・改造しない<br>・衝撃を与えない<br>・高温場所（60℃以上）で使用しない<br>万一液漏れしたときは、よくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。液が身体や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。 | <br>禁止 |
| **バッテリーパックの取り扱いに注意する** | 発熱・破裂・火災・液漏れなどの原因となるので、バッテリーパックを取り扱う際には、次のことを守ってください。<br>・火のそばや炎天下で充電しない<br>・指定外のバッテリーパックを使用しない<br>（専用バッテリーパック　型名：DZ-BP14S／DZ-BP14SJ／DZ-BP21SJ／DZ-BP7SJ（DZ-GX20では使用できません）） | <br>禁止 |

## ⚠ 警告

| | | |
|---|---|---|
| **異常なときは使わない** | 煙が出ている、変なにおいがするなど異常なときは、ただちに使用を中止し、バッテリーパックやACアダプター／チャージャーなどの電源を外してください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。修理については、販売店にご相談ください。お客様による修理は危険ですから、絶対にお止めください。<br>本機を落としたりして強い衝撃を与えると、ケースが破損し、異常な状態になることがあります。 | <br>禁止 |
| **分解・改造しない、カバーを開けない** | 本機・ACアダプター／チャージャーを分解・改造すると、火災や感電の原因となります。カバーの内部には、電圧の高い危険な部分もあります。内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。 | <br>分解禁止 |

# 警告

| 項目 | 内容 | 表示 |
|---|---|---|
| **内部に異物を入れない** | 本機・AC アダプター／チャージャーの内部に水や金属類、燃えやすいものを入れないでください。火災や感電の原因となります。万一異物が内部に入った場合は、すぐに使用を中止し、バッテリーパックや AC アダプター／チャージャー・電源コードを外して販売店にご相談ください。 |  禁止 |
|  **自動車などの運転中は使わない** | 自動車・オートバイ・自転車などの運転中に撮影や再生をしないでください。交通事故の原因となります。 |  禁止 |
| **歩きながら使うときは、周囲の状況に注意する** | 歩きながら使用すると、転倒や交通事故の原因となることがあります。また、不安定な場所での撮影は、転倒や転落などにより事故や大けがの原因となります。撮影するときは、周囲の状況に注意を払ってください。 |  |
| **雷が鳴るときは使わない** | 屋外で使用中に雷が鳴り出したら、安全のため使用を中止してください。 |  禁止 |
| **AC アダプター／チャージャーを水にぬらさない** | 風呂場やシャワー室などの水のかかるところで AC アダプター／チャージャーを使用しないでください。火災や感電の原因となります。 |  風呂、シャワー室での使用禁止 |
| **AC アダプター／チャージャーは電源コンセントの近くで使用する** | AC アダプター／チャージャーは、電源コンセントの近くで使用してください。タンスの裏や机の下など、手の届きにくいところの電源コンセントには差し込まないでください。 |  |
| **AC アダプター／チャージャーのケースを破損しない** | 万一落としたりしてケースを破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。 |  |
| **AC アダプター／チャージャーは風通しのよい広い所で使用する** | AC アダプター／チャージャーは、風通しのよい広い所で使用してください。内部に熱がこもり、ケースが変形するだけでなく、火災・やけど・感電・故障のおそれがあります。周囲の風通しをさえぎるせまい場所や、物の近く、またはその中で使用しないでください。 |  |

| | | |
|---|---|---|
| **電源コードを破損しない** | 電源コードを破損しないよう、取り扱いの際は、次のことを守ってください。<br>・刃物などで傷つけない<br>・ねじらない　・無理に曲げない<br>・重いものや角が鋭利なものをのせない<br>・加熱しない　・引っ張らない<br>・加工しない　・束ねない<br>・敷物などでおおわない<br>万一コードが破損した場合は、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店にご相談ください。そのまま使用すると、火災や感電の原因となります。 | 禁止 |
| **電源プラグは完全に接続する** | 電源プラグの接続が不完全なまま使用すると、接触不良で発熱し、火災の原因となります。 | |
| **たこ足配線をしない** | 火災の原因となります。 | 禁止 |
| **電源プラグに異物を付着させない** | 電源プラグにほこりや汚れ、金属などの異物が付着したまま使用すると、発熱し、火災や感電の原因となります。異物が付着したときは、電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で異物を取り除いてください。 | 禁止 |
| **市販の電子式変圧器は使わない** | 海外旅行用に市販されている電子式変圧器にACアダプター／チャージャーを接続しないでください。火災や感電の原因となります。 | 禁止 |
| **ショルダーストラップを首に巻きつけない** | 窒息の原因となります。 | 禁止 |
| **同梱品のビニール袋に注意する** | 同梱品が包装されているビニール袋をかぶると、窒息の原因となります。 | |
| **リチウム電池を放置しない** | リチウム電池を取り外したときは、幼児の手の届かないところに保管してください。<br>万一、お子様が飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。<br>廃棄および保管するときは、テープなどで絶縁してください。<br>リチウム電池の廃棄方法につきましては各自治体により異なります。お住まいの地域の指示に従って廃棄してください。 | |

| | | |
|---|---|---|
| **バッテリーパック、ショルダーストラップ、グリップベルトは正しく取り付ける** | 取り付けかたが不完全なまま使用すると、落下などにより、けがの原因となることがあります。 |  |
| **水にぬらさない** | 本機に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。故障の原因となります。雨天時、降雪時、海岸や水辺での使用時には、特にご注意ください。 |  水ぬれ禁止 |
| **レンズ・ビューファインダーを太陽光に向けない** | レンズ・ビューファインダーを太陽光に向けたままにしておくと、集光により発熱し、火災の原因となることがあります。 |  |
| **航空機の中では使わない** | 航空機の中など、使用を制限または禁止されているところでは使用しないでください。本機の出す電磁波により、航空機の計器類に影響を及ぼすことがあります。 |  |
| **幼児の手の届くところに置かない** | ディスク挿入部のふたなどに手を挟まれて、けがの原因となることがあります。お子様が触らないようご注意ください。 |  手を挟まれないよう注意 |
| **内部の部品にふれない** | ディスク挿入部のふたを開けて、中に指を入れたり、内部の部品にふれたりしないでください。けがの原因や故障の原因となることがあります。 |  |
| **不安定な場所で三脚を使わない** | 倒れてけがの原因となります。 |  |
| **三脚を付けたまま持ち運ばない** | 持ち運んでいるときの振動や衝撃により、三脚のねじがゆるんで本機が落下し、けがの原因となることがあります。 |  |
| **かゆみ・かぶれ・湿疹などに注意する** | 製品や同梱品の材質には充分な配慮を行っておりますが、お客様の体質や体調によっては、かゆみ・かぶれ・湿疹などを生じることがあります。そのような場合は、ただちに使用を止め医師の診断を受けてください。 |  |
| **本機を落とさない** | ガラス部分が壊れ、けがの原因となることがあります。またバッテリーパックが破損すると、液漏れにより、けがや周囲の汚損の原因となります。 |  |

| | | |
|---|---|---|
| **電源コードや接続ケーブルに注意する** | 電源コードや接続ケーブルに足を引っ掛けると、転倒したりけがの原因となることがあります。 | |
| **ディスクの取り出しに注意する** | ディスクやバッテリーは、長時間使用すると高温になります。電源を切って十分時間が経ってから取り出すようにしてください。 | |
| **電源コードを引っ張って抜かない** | コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。コンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。 | 禁止 |
| **ぬれた手でプラグの抜き差しをしない** | AC アダプター／チャージャーのプラグを抜き差しするときは、ぬれた手で触らないでください。感電の原因となることがあります。 | ぬれ手禁止 |
| **本機や電源コードを熱器具に近づけない** | 機器表面や部品が劣化するほか、火災や感電の原因になることがあります。 | 禁止 |
| **長期間使わないときは、電源プラグをコンセントから抜く** | 電源プラグをコンセントにつないだまま長期間放置すると、火災の原因となることがあります。 | |
| **AC アダプター／チャージャーを振動の多いところに置かない** | 振動によって内部部品が破損すると、発熱し、火災や故障の原因となることがあります。 | 禁止 |
| **AC アダプター／チャージャーをほこりや湿気の多いところに置かない** | 内部にほこりや水分が入ると、火災や感電の原因となることがあります。 | 禁止 |
| **AC アダプター／チャージャーを油煙や湿気の当たるところに置かない** | 調理台や加湿器のそばに置かないでください。火災や感電の原因となることがあります。 | 禁止 |
| **リチウム電池の向きに注意する** | リモコンに電池を入れるときは、極性に注意してください。向きを間違えて入れると、電池の破裂や液漏れを招き、火災やけが、やけどなどの原因となります。万一液漏れしたときは、よくふき取ってから新しい電池を入れてください。液が身体や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。 | ＋ |
| **バッテリーパックやリチウム電池の保管場所に気をつける** | 直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所を避けて保管してください。 | |
| **リチウム電池に直接ハンダ付けしない** | 火災や感電の原因となることがあります。 | 禁止 |

# 取り扱い上のご注意



## 使用上の注意

### 液晶モニターの取り扱いにご注意ください

- 液晶モニターは、とても繊細な表示装置です。特にモニター表面は壊れやすいので、強く押したり、叩いたり、先のとがったもので突いたりしないでください。
- 表面を押すと、表示ムラができることがあります。表示ムラがなかなか消えないときは、いったん電源を切り、しばらく待ってから入れ直してください。
- 液晶モニターを下側にして本機を置かないでください。
- 本機の液晶モニターは、使用しないときは閉じてください。

### 液晶モニター・ビューファインダーについて

- 液晶モニターやビューファインダーは非常に精密度の高い技術で作られています。全表示画素（液晶モニターは約12万画素、ビューファインダーは約20万画素相当）のうち0.01%以下の画素欠け（黒い点）や常時点灯（赤・青・緑）するものがあります。これは現在の技術の限界であり、不良ではなく、録画には支障ありません。
- 寒冷地など本体が冷えきっている場合や電源を入れた直後は、液晶モニターやビューファインダーが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

### 正しい持ちかたをしてください

- ビューファインダーや液晶モニターをつかんで本機を持ち上げると、ビューファインダーや液晶モニターが外れて、本機が落下することがあります。

### 衝撃を与えないよう、ご注意ください

- 本機は精密機械です。硬いものにぶつけたり、落としたりしないよう、十分注意して取り扱ってください。
- 三脚を使用するときは、本機をしっかり固定し、極度に振動、衝撃の大きいところで使用しないでください。

### 砂やほこりがかからないよう、ご注意ください

- 細かい砂やほこりが本機･ACアダプター／チャージャーの内部に入ると、故障の原因となります。

### 水や油など、液体がかからないよう、ご注意ください

- 本機・ACアダプター／チャージャーの内部に水や油が入ると、感電や故障の原因となります。

### 製品表面の熱について

- 本機、ACアダプター／チャージャー、バッテリーは製品表面が多少熱くなりますが、故障ではありません。

### 接続したテレビの画面について

- ディスクナビゲーション画面や静止画、カメラ画面を接続したテレビに表示したままにしないでください。テレビの画面に焼き付きなどの損傷を与えることがあります。

### 環境の温度にご注意ください

- 気温40℃以上の暑いところや、0℃以下の寒いところで使用すると、正常に撮影／再生できないことがあります。
- 本機とパソコンをつないで使用するときは、室温で行なってください。また、長時間連続使用しないでください。気温の高いところで長時間使用すると、本機が熱くなり正常に動作しなくなることがあります。
- 海岸の砂の上や締め切った車内などに長時間放置すると、故障するおそれがあります。

### 太陽に向けないでください

- レンズやビューファインダーに直射日光が入ると、本機が故障したり火災が発生するおそれがあります。
- 液晶モニターを直射日光に当てたまま放置すると、故障の原因となります。

### テレビやラジオの近くで使わないでください

- テレビ画面にノイズが出たり、ラジオに雑音が入ることがあります。

### 強い電波や磁気のあるところで使わないでください

- 電波塔の近くやモーターが含まれる電化製品のそばなど、強い電波や磁気のあるところで使用すると、映像・画像・音声の記録時に雑音が入ることがあります。また、正常に記録されている映像・画像・音声でも、再生時に雑音が入ることがあります。本機が故障することもあります。

### 油煙や湯気の多いところで使わないでください

- 本体ケースが変形したり、故障の原因となります。

### 腐食性ガスがあるところで使わないでください

- ガソリンエンジン、ディーゼルエンジンなどの排気ガスや硫化水素のような腐食性のガスがあるところや温泉地域など硫黄成分の多いところで使用すると、外部および内部端子が腐食し正常に動作しなくなることやバッテリーパック取付け端子が腐食し、電源が入らなくなることがあります。

### 超音波加湿器の近くで使わないでください

- 加湿器に入っている水の水質によっては、水中に溶けているカルシウムなどが空気中に飛散し、本機の光学ヘッドに白い粉として付着して、本機が正常に動作しなくなることがあります。

### 殺虫剤などがかからないようにしてください

- 本機の内部に殺虫剤などが入ると、レーザーピックアップ部のレンズが汚れ、本機が正常に動作しなくなることがあります。殺虫剤などを使用するときは、本機の電源を切り、ビニールシートなどでカバーしてください。

### 市販の8cmCDレンズクリーナーを使用しないでください

- 一般的な使用では、レンズクリーニングは不要です。
- 8cmCDレンズクリーナーを使用すると、本機が故障するおそれがあります。
- ご使用になる場合は、日立マクセル社の8cmDVDディスク専用品をお使いください。

### 露つきにご注意ください

・ 冬にスキー場のゲレンデからロッジに入ったり、夏に冷房の効いた部屋や車内から屋外に出たりしたときに、極端な温度差によりレンズや本機の内部に結露（暖かい水蒸気が急速に冷やされて水滴になること）することがあります。できるだけディスクやカード挿入部のふたは開けないでください。レンズが結露した場合は、乾いたやわらかい布でふき取ってください。外部が乾いても内部に結露が残っている場合があります。電源を切った状態でなるべく乾燥した場所に１〜２時間以上置き、乾いてからお使いください。

### 長時間連続して使うことはできません

・ 本機は、監視カメラやモニターとして長時間連続して使用することはできません。長時間連続して使用した結果、温度が一定限度を超えて上昇すると、記録／再生動作が遅くなったり、その他の不具合が発生することがあります。この場合は、電源を切ってしばらくたってから使用してください。

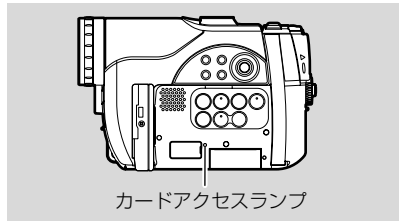
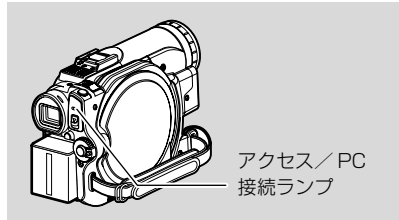
### アクセス／PC接続ランプやカードアクセスランプが点灯または点滅しているときは、本機の電源を切らないでください

・ アクセス／PC接続ランプやカードアクセスランプが点灯または点滅しているときは、ディスクやカードにデータが書き込まれたり、読み出されたりしています。このときに以下のことをするとデータが壊れるおそれがあります。

　・バッテリーパックを取り外す
　・AC アダプター／チャージャーとの接続を外す
　・ＰＣ 接続ケーブルを抜き差しする（DZ-GX20/MV780）
　・ディスクやカードを取り出す
　・強い振動や衝撃を加える
　・液晶モニターを激しく開閉する
　・撮影終了後もしばらくアクセス／PC接続ランプが点灯します。この間は、強い振動や衝撃を加えたり、バッテリーや AC アダプター／チャージャーとの接続を外したりしないでください。

アクセス／ PC 接続ランプ

カードアクセスランプ

ディスク使用時、アクセス／ PC 接続ランプが点灯または点滅しているときに、万一電源を切ってしまった場合は、ディスクを入れたまま、再度電源を入れてください。ディスクの修復を行ないます（☞ P.202）。

### 本体ケースをベンジンやシンナーなどでふかないでください

・ 本体ケースの塗装がはがれたり、変形することがあります。
・ 化学ぞうきんをご使用の場合は、その注意書きに従ってください。

### 別売アクセサリーの説明書もお読みください

・ 別売のアクセサリーについては、それぞれの注意書きや取扱説明書の指示に従ってください。

### お買い上げ時バッテリーパックは充電されておりません

・ 充電してからお使いください（☞ P.43）。
・ 充電後も時間が経つと放電します（バッテリーの特性を保護するため、自然に放電するように作られています）。

**ディスクの出し入れは、充電されたバッテリーパックが取り付けてあるか、ACアダプター／チャージャーを使ってコンセントから電源をとっていないとできません**

**電源を切る時は必ず電源スイッチを「切」にしてください**

・ 電源が入ったままバッテリーパックやACアダプター／チャージャーを取り外すと、本機の故障の原因となります。

## 保管上の注意

**非常に高温になるところに長時間放置しないでください**

・ 締め切った車内やトランク内は、非常に高温になります。そのような場所に置いたままにすると、本機が故障したり、本体が変形したりするおそれがあります。また、直射日光が当たるところや熱器具の近くにも置かないでください。

**湿気やほこりの多いところで保管しないでください**

・ 本機の内部にほこりが入ると、故障の原因となります。また、湿気が多いと、レンズにカビが生えて使えなくなることがあります。押入れや戸棚に保管するときは、乾燥剤（シリカゲル）と一緒に箱に入れることをおすすめします。

**強力な磁気や激しい振動のあるところに置かないでください**

・ 故障の原因となります。

**バッテリーパックは、本機から取り外して涼しいところで保管してください**

・ 取り付けたままにしたり、高温のところで保管すると、バッテリーパックの寿命を縮める原因となります。

## ご注意いただきたいこと

**試し撮りをしましょう**

・ 本番前に必ず試し撮りをして、正常に記録されることを確認してください。本機の故障のため正常に記録できなかったデータは復元できません。
また、試し撮りは録画した内容を消去することができるDVD-RAMディスクをお使いになることをおすすめします。

**録画内容の補償はできません**

・ 本機やディスク、カードの不具合により、正常に記録されなかったり、再生できなくなった記録内容の補償はご容赦ください。また、お客様が撮影された映像や音声に関しても、当社は一切責任を負いません。
・ お客様または第三者が本機やディスク、カードの使いかたを誤ったりしたとき、録画した内容が消失することがあります。録画した内容の消失による損害の補償については、ご容赦ください。

**著作権について**

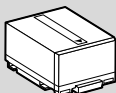
・ お客様が他のデジタル／アナログのメディア／機器から本機のディスクやカードに記録したデータは、個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断で使用することはできません。また、実演や興業、展示物などは、個人として楽しむ目的でも撮影を制限している場合がありますので、ご注意ください。

**業務用として使わないでください**

・ 本機は一般のご家庭での撮影／再生を目的として作られています。

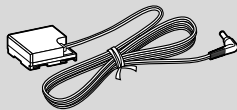
# 付属品の確認

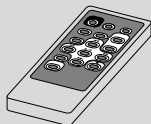
箱を開けたら、付属品がすべてそろっているか、必ず確認してください。

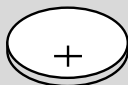
バッテリーパック
（型番：DZ-BP14S）

本機の充電式バッテリーです。充電してからお使いください。

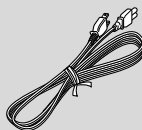
ACアダプター／チャージャー
（型番：DZ-ACS2）

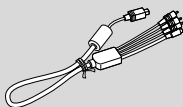
家庭用コンセントから電源をとるときに使用します。バッテリーパックを充電するときにも使用します。

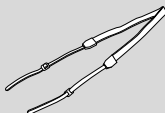
DC パワーコード

家庭用コンセントから電源をとるときに、本機とACアダプター／チャージャーとを接続します。

リモコン（型番：DZ-RM4J）

本機を離れたところから操作するときに使用します。
DZ-MV730 には同梱されていません。

リモコン用リチウム電池
（型番：CR2032）

リモコン用の電池です。
DZ-MV730 には同梱されていません。

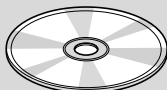
電源コード

家庭用コンセントと AC アダプター／チャージャーとを接続します。

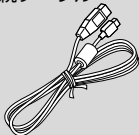
AV ／ S 入出力ケーブル

本機の映像と音声をテレビで見るときや、他のビデオ機器に映像と音声を入出力するときに使用します。

ショルダーストラップ

本機を肩から下げるために取り付けます。

レンズキャップ
レンズキャップひも

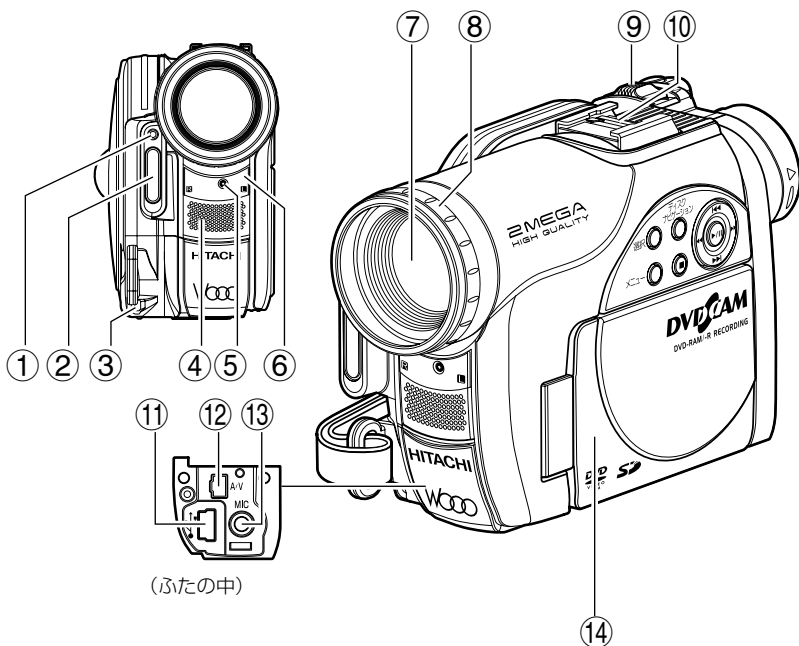
撮影していないときは、レンズ保護のためレンズキャップを付けてください。

ソフトウェア CD-ROM

パソコンと接続するときに使います。
DZ-MV730 には同梱されていません。

PC 接続ケーブル

パソコンと接続するときに使います。
DZ-MV730 には同梱されていません。

ディスククリーニングクロス

ディスクのクリーニングに使います。

# 各部の名称



（ふたの中）

① **受光センサー（DZ-GX20）**
内蔵ビデオフラッシュの発光量を制御するためのセンサーです。撮影時は手などで覆わないように気を付けてください。

② **内蔵ビデオフラッシュ（DZ-GX20）（P.83）**

③ **レンズキャップひも取付口（P.37）**

④ **ステレオマイク（P.57）**

⑤ **録画ランプ（P.56、93、106、111）**
録画中、赤く点灯します。

⑥ **リモコン受信部（DZ-GX20/MV780）（P.38）**

⑦ **光学 10 倍ズームレンズ（DZ-GX20/MV780）**
**光学 16 倍ズームレンズ（DZ-MV730）（P.62）**

⑧ **レンズフード（P.63）**
市販のテレコンバージョンレンズ、ワイドコンバージョンレンズをお使いのときは、取り外してください。

⑨ **ズームレバー（P.62、78）**
T 側に押すと望遠に、W 側に押すと広角になります。

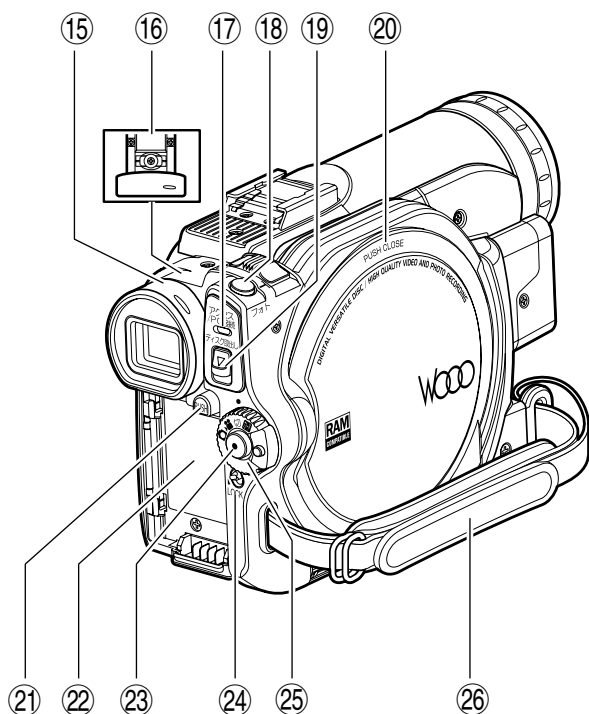
⑩ **アクセサリーシュー（DZ-GX20/MV780）（P.83）**
別売のビデオフラッシュを、ここに取り付けます。（詳しくは、取り付ける機器の取扱説明書をご覧ください）。

⑪ **PC 接続端子（DZ-GX20/MV780）（P.167）**

⑫ **AV ／ S 入出力端子（P.85、88）**

⑬ **外部マイク端子（P.82）**

⑭ **2.5 型カラー液晶モニター（P.36、39、40）**

DZ-GX20、DZ-MV780 および DZ-MV730 は外観が異なりますが、操作方法は同じです。
本文中のイラストは、DZ-GX20 で説明しています。

⑮ **ビューファインダー（P.36、40）**

⑯ **視度調節つまみ（P.40）**
ビューファインダーのピントを調節します（ビューファインダーを引き出して、操作してください）。

⑰ **アクセス／PC 接続ランプ（DZ-GX20/MV780）**
**アクセスランプ（DZ-MV730）（P.50）**
ディスクへのアクセス（書き込みまたは読み出し）時や、PC接続時に点滅または点灯します。

⑱ **フォトボタン（P.58）**

⑲ **ディスク取出しボタン（P.51）**
ディスクホルダーを開けるときに押し下げます。

⑳ **ディスク挿入部（P.51）**

㉑ **バッテリーイジェクトボタン（P.44）**
バッテリーを取り外すときに押します。

㉒ **バッテリー取り付け部（P.44）**

㉓ **録画ボタン（P.56）**

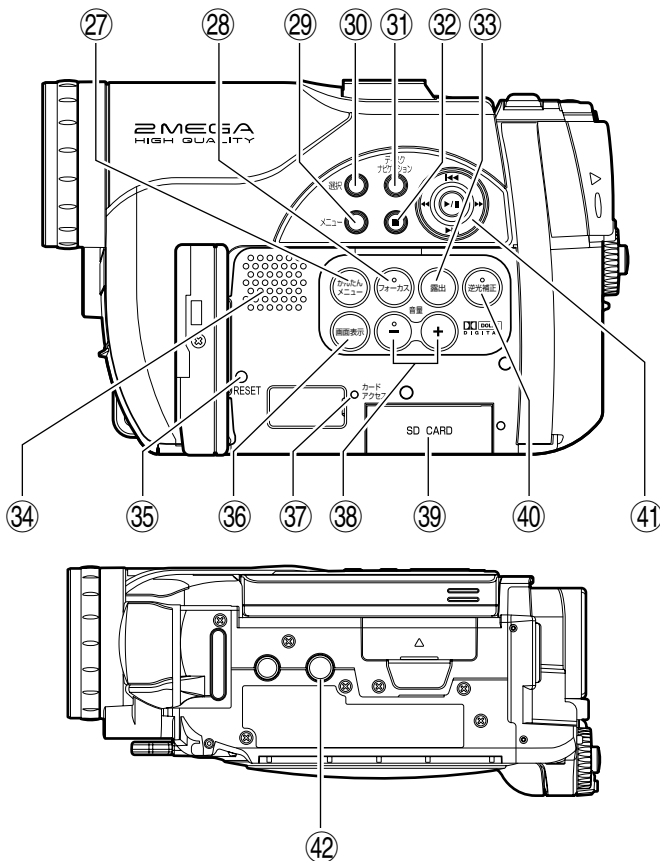
㉔ **LOCK スイッチ（P.56）**
「 」のときに、誤って電源スイッチが「 」に切り替わるのを防ぐため、LOCK スイッチを （上）へ移動させておくと便利です。
「 」のときにLOCK スイッチは上に動かすことができません。

㉕ **電源スイッチ（P.49）**

㉖ **グリップベルト（P.36）**

㉗ **かんたんメニューボタン（P.70）**
よく使う機能のみを表示する、かんたんメニューを表示します。

㉘ **フォーカスボタン（P.78）**
マニュアルフォーカスとオートフォーカスの切り替えをします。

㉙ **メニューボタン（P.92、94、119）**
カメラの機能などを設定するためのメニューやディスクナビゲーションのメニューを表示します。

㉚ **選択ボタン（P.116、128）**

㉛ **ディスクナビゲーションボタン（P.113）**

㉜ **停止／キャンセルボタン（P.64、71）**
再生を終了します。

㉝ **露出ボタン（P.80）**
露出を調整するときに押します。

㉞ **スピーカー（P.64）**

㉟ **RESET ボタン（P.215）**
すべての設定を工場出荷状態に戻します。

㊱ **画面表示ボタン（P.59、61）**
再生中の映像の詳細や、カメラの設定状態を表示したり、消したりできます。

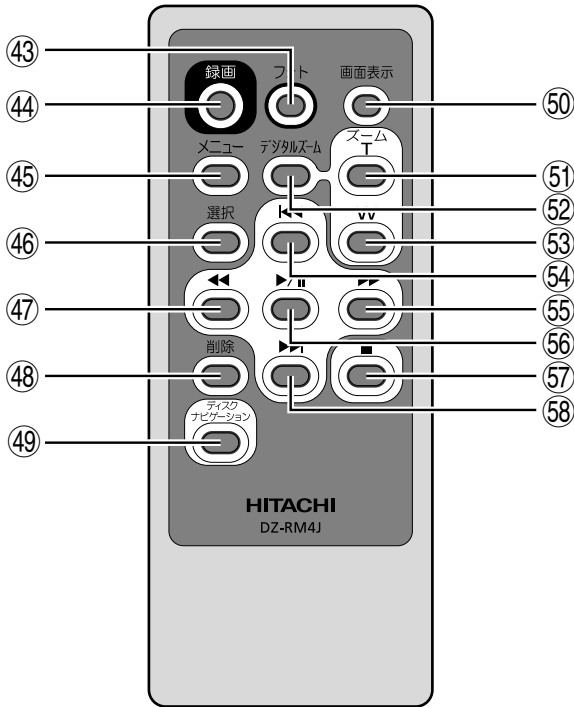
㊲ **カードアクセスランプ（P.50）**

㊳ **音量ボタン／⊖ ⊕ ボタン（P.64、78、80）**
スピーカーから聞こえる音量などを調節します。

㊴ **カード挿入部（P.55）**

㊵ **逆光補正ボタン（P.81）**
逆光のときに押します。

㊶ **I◀◀／▶▶I／◀◀／▶▶／▶/II（P.41、64、65、66、71）**
シーンやメニューを選んだり、決定、再生、一時停止したりします。

㊷ **三脚ネジ穴**
三脚に取り付けるときに使用します。

㊸ フォトボタン（P.58）
㊹ 録画ボタン（P.56）
㊺ メニューボタン(P.92､94､119)
㊻ 選択ボタン（P.116、128）
㊼ 逆方向サーチボタン（P.65、71）
㊽ 削除ボタン（P.119）
㊾ ディスクナビゲーションボタン（P.113）
㊿ 画面表示ボタン（P.59、61）
51 ズームＴボタン（P.62）
52 デジタルズームボタン（P.62）
53 ズームＷボタン（P.63）
54 逆方向スキップボタン（P.66、71）
55 正方向サーチボタン（P.65、71）
56 再生／一時停止ボタン（P.64、71）
57 停止ボタン（P.64、71）
58 正方向スキップボタン（P.66、71）

※リモコンのボタンは、本機のボタンと同じ動作をします。

RAM R

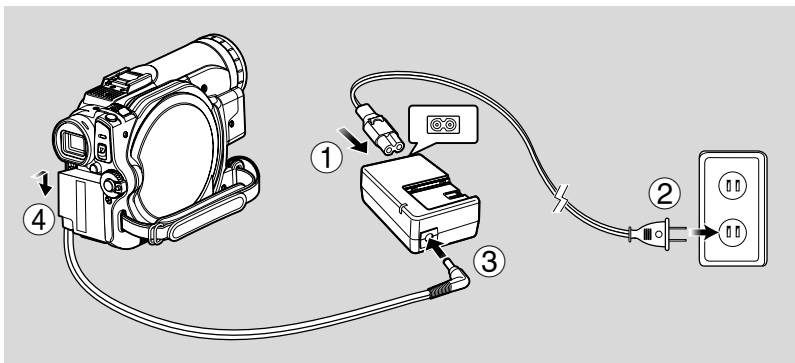
# とにかく撮って見る―ディスク編（動画・静止画）

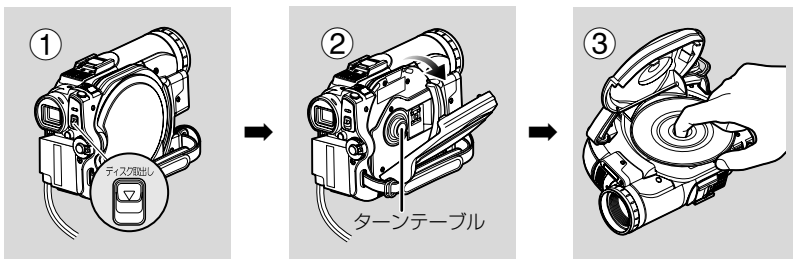
**始める前に**

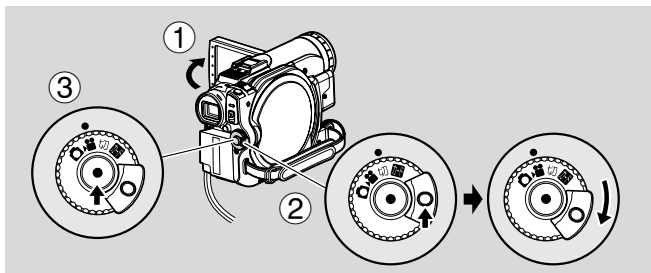
- 試し撮りは録画した内容を自由に消去できるDVD-RAMディスクをおすすめします（☞ P.29）。

DVD-RAM には、動画と静止画が撮影できます。
DVD-R には、動画だけ撮影できます。



## 1 電源をつなぐ（☞ P.48）

## 2 ディスクを入れる（☞ P.51）

① 「ディスク取出し」ボタンを 1 回押し下げて手をはなす
② ふたが開くところまで、手でゆっくり開く
③ ディスクを中央のターンテーブルに「カチッ」と音がするまで押し込んで固定し、ディスク挿入部のふたを閉める
このとき、ディスクの記録面やピックアップレンズには絶対に触らないでください。

## 3 撮影する（☞ P.56）

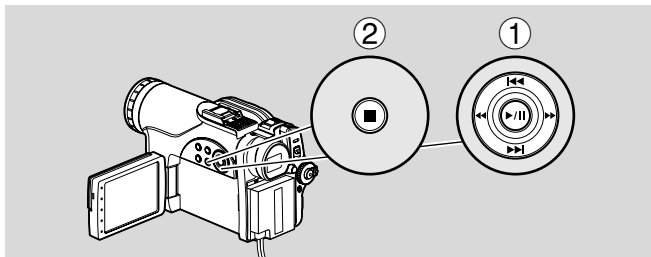
① 液晶モニターを開く（☞ P.39）、もしくはビューファインダーを引き出す（☞ P.40）
② 電源スイッチ右側のボタンを押しながら「🎥」、静止画撮影の場合は「📷」にする（DVD-R は「🎥」のみ）
③ 動画の場合は「録画」ボタンを押す
録画が始まります。もう 1 回押すと止まります。
静止画の場合は「フォト」ボタンを押す
「フォト」ボタンを半分まで押す（半押し）とピントが合い、●IIが紫色に変わります。そのまま「フォト」ボタンを完全に押し込む（全押し）と撮影できます。

ご注意 • 初期化されていないディスクをお使いになるときは、初期化が必要です。初期化していないディスクを本機に入れるとメッセージが表示されますので、画面の指示に従い初期化してください（☞ P.52、147）。DVD-RAMは、初期化すると録画された内容はすべて消去されます。誤って初期化しないよう、よく確認してから行なってください（☞ P.147）。

ヒント

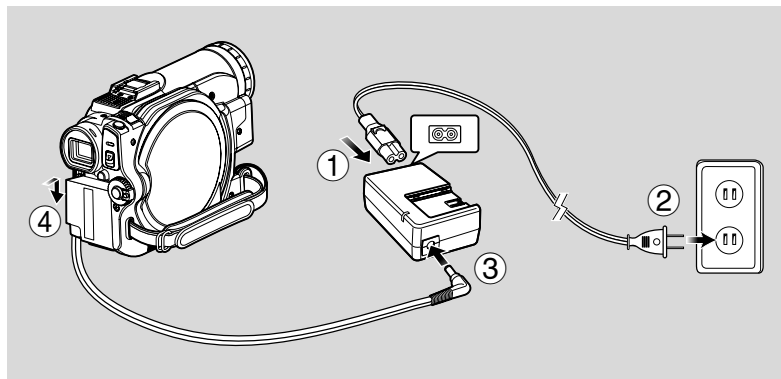
- 「🎥」で撮影できない（☞ P.200「チェック 1」）。
- 「📷」で撮影できない（☞ P.200「チェック 2」）。

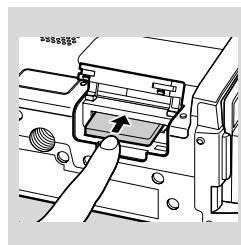
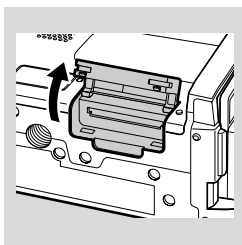
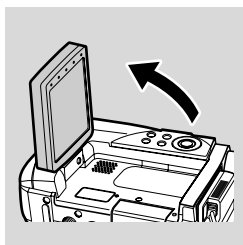
## 4 液晶モニターで見る（☞ P.39）

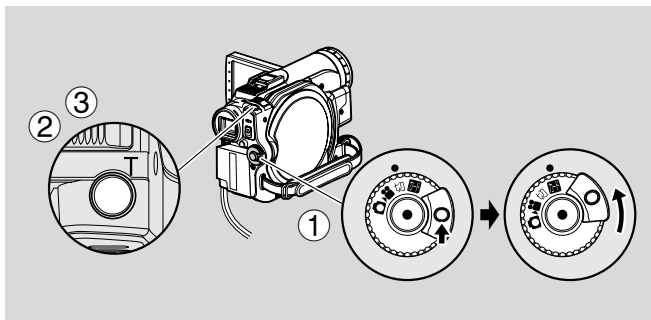
① 録画終了後に▶/IIを押す
撮影したシーンが再生されます。
② 再生を停止するには、■（停止／キャンセル）ボタンを押す

カード

# とにかく撮って見る—カード編（静止画）

別売のカードには静止画だけ撮影できます。

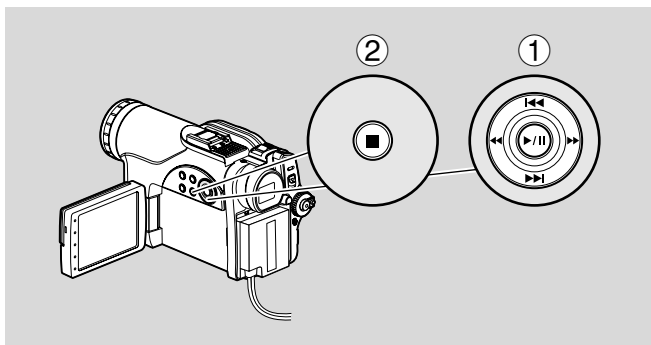
**1 電源をつなぐ**（☞ P.48）

**2 カードを入れる**（☞ P.55）

① 液晶モニターを開く（☞ P.39）
② 電源を切った状態で、カード挿入部のふたをあける
③ カードを入れる
④ ロックされるところまで差し込み、カード挿入部のふたを閉める

## 3 撮影する（☞ P.58）

① 電源スイッチ右側のボタンを押しながら「カード」にする
② 「フォト」ボタンを半分まで押す（半押し）
ピントが合うと●IIが紫色に変わります。
③ 「フォト」ボタンを完全に押し込む（全押し）

ヒント

- 暗いところでは内蔵ビデオフラッシュが発光する場合があります（DZ-GX20）（☞ P.83）。
- 本機で使用できるカードについて（☞ P.29）。
- 「カード」で撮影できない（☞ P.200「チェック2」）。

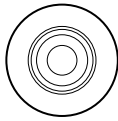
## 4 液晶モニターで見る（☞ P.39）

① 記録一時停止状態のときに▶/IIを押す
撮影したシーンが再生されます。
② 再生を停止するには、■(停止／キャンセル）ボタンを押す

# ディスクやカードについて

本機で使用できるディスク、カードそれぞれの特長は以下の表の通りです。

| 特長＼種類 | DVD-RAM | DVD-R | SD メモリーカード |
|---|---|---|---|
| 映像の消去・編集 | ○ | × | ○ |
| 他の DVD 機器で見る | 対応機で可能 ※1 | ○ ※2 | × ※4 |
| 初期化 | 不要 ※3 | 必要 | 不要 ※3 |
| ファイナライズ | 不要 | 必要 | 不要 |

※1： DVD-RAMが再生可能なDVDプレーヤーにはRAM COMPATIBLE PLAYERのロゴ、またDVDレコーダーにはRAM COMPATIBLE RECORDERのロゴが記載されています。ただし、8 cm DVD-RAM ディスクに対応していない機器では再生できません。
※2： ファイナライズ（☞ P.199「用語解説」）が必要です（☞ P.152）。再生できない DVD プレーヤーや DVD レコーダーもあります。
※3： 初期化済みで販売されているメディアを使用した場合。初期化フォーマットが異なる場合は、本機で初期化して使うことができます。
※4： SD メモリーカード対応の DVD 機器もあります。

## 使用できるディスクについて

| 使用できるディスクとマーク（ロゴ） | |
|---|---|
| DVD-RAM Ver2.1<br>(8 cm) | DVD RAM RAM4.7 |
| DVD-R<br>[for General Ver2.0 (8 cm)] | DVD R R4.7 |

角型カートリッジ／キャディケース、丸型ホルダーに入ったディスクは、そのまま使用できません。角型カートリッジ／キャディケース、丸型ホルダーから取り出してから使用してください。その際、汚れや傷をつけないよう十分に注意してください（☞ P.193、194）。

- ディスクは本機と組合せ動作が確認されている日立マクセル製のHGタイプの片面ディスクをお使いになることをおすすめします。HG タイプの両面ディスクをお使いになる場合は、取り扱いに十分ご注意ください。日立マクセル製 HG タイプのディスク以外をお使いになると、本機の性能が十分発揮されないことがあります。
- DVD-R に関しては、P.30 をお読みください。

## DVD-R ディスクについて

DVD-Rに静止画の撮影はできません。また、録画した映像やデータの消去もできません。本機では、DVD-R で最適な録画を行なうため、ディスクの出し入れや電源の入／切を行なったあとの録画の際にディスクの書き込み調整を行ないます。ディスク調整のための書き込み領域がなくなると録画できなくなることがありますので、録画をともなうディスクの出し入れ、および電源の入／切は 1 枚の DVD-R に対して、100 回以上行なわないようにしてください。
また、他の機器でDVD-RにVRモードが使用できる場合がありますが、本機では対応しておりません。

- 初期化されていないDVD-R をお使いになるときは、初期化が必要です(☞ P.52)。
- 本機で記録したディスクで、ファイナライズしていないディスクは、DVDレコーダーなどの記録できる機器に入れないでください。記録データが壊れることがあります（本機の未ファイナライズディスクの再生機能がある機器を除く)。
- 本機で記録したファイナライズしていない DVD-R に、DZ-GX20/MV780/MV730 以外の DVD カメラで記録やファイナライズすると、記録データが壊れることがあります。
- パソコンなどで編集してファイナライズしたり、DVD レコーダーでファイナライズしたDVD-Rは、ご使用になる編集ソフトやディスクの記録状態によっては、本機で再生できない場合があります。
- DZ-GX20/MV780/MV730以前に発売された日立製DVDカメラで記録されたファイナライズしていないDVD-Rを本機に入れると、自動的にディスクナビゲーション画面が起動します。録画やファイナライズすることはできません。
- 他社製の DVD レコーダーなどで記録したファイナライズされていないDVD-Rを本機に入れないでください。ディスクが使えなくなる場合があります。

## 本機で使用できないディスクの例

以下のディスクは、本機で使用できません。

- DVD-RAM (2.6GB) Ver. 1.0
- DVD-R (3.9GB) Ver. 1.0
- DVD-R (4.7GB) for Authoring Ver. 2.0
- DVD-RW
- DVD+RW
- DVD+R
- CD-ROM
- DVD-ROM
- DVD ビデオ
- CD-R
- CD-RW
- CD
- LD
- DVD-R（二層）
- MO
- MD
- iD
- フロッピーディスク
- 直径 8cm 以外のディスク

- パソコンやDVD レコーダーで記録されたディスクは、本機で再生できない場合があり、“このディスクは使用できません”と表示されたり、青色のサムネイル(☞ P.31 図 1*) が表示されたり、正常に再生できない場合があります。

## ディスクの取り扱いについて

### ●ディスクの扱いかた

DVD-RAM や DVD-R は、非常に繊細な記録メディアです。
下記の注意事項をよくお読みになり、正しくお使いください。

・ 貴重な映像を撮影する場合は、新品のディスクをお使いください。
・ ディスクの記録面に触ったり、汚れや傷をつけないでください。

・ **ディスクにゴミ・傷・汚れ・ソリ**があると、以下のような現象が発生する場合があります。
  – 再生映像のブロックノイズ
  – 再生映像の一瞬停止
  – 再生中の音の途切れ、異常音
  – 青色のサムネイル表示*(図1参照)
  – ディスクを正しく認識しない
  – 初期化ができない
  – 映像と音声がずれる

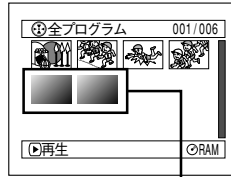
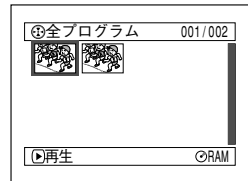



図 1　*

ブロックノイズ

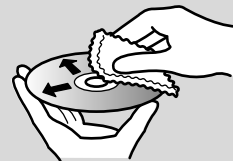
ディスクが正常な場合でも、まれに上記のような現象が発生することがあります。
アクセスランプが点灯しているときに、強い振動・衝撃を加えることや、極端な高低温、結露しやすい環境でのご使用は避けてください。

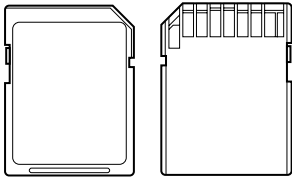
・ ディスクのゴミや傷など記録できない部分を避けて記録することがあります(自動で一時停止(●II)し、自動で記録(● 記録)を再開します)。
  その結果、数秒から数分程度記録が中断し、右図のように一回の記録で複数のサムネイル(☞ P.113)ができます。この場合、記録可能な時間が減少します。
・ ディスク取り出し時、取り出し口の金属やディスクが高温になっている場合がありますので、ご注意ください。

(一回の記録でも2つ以上のサムネイルになることがあります。)

### ●ディスクの保管のしかた

・ 保管するときは、購入時のプラスチックケースに入れてください。
・ 結露させないでください。
・ 以下のような場所には置かないでください。
  – **直射日光が長時間当たるところ**
  – **湿気、ほこりが多いところ**
  – **暖房器具などの熱が当たるところ**

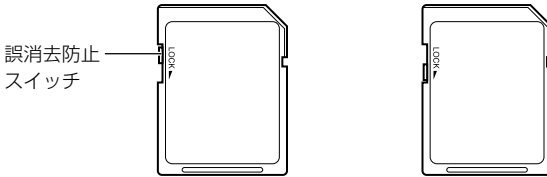
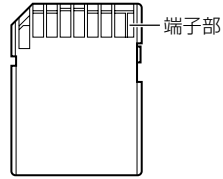
## ディスクのクリーニングについて

ディスクに付着した汚れは、付属のディスククリーニングクロスで図のように軽くふき取ってください。強くこすると、傷の原因になります。なお、溶剤類(シンナー、水、帯電防止剤、洗剤など)は使用しないでください。汚れたディスククリーニングクロスは、中性洗剤で軽く洗うことにより、ふき取り性能が改善されます(洗剤が残らないよう、よくすすいでください)。

ディスククリーニングクロスで
内周から外周方向へ軽くふく

## 使用できるカードについて

本機で使用できるのは、SD メモリーカードです。
また、専用のアダプターを使うことにより、miniSD メモリーカードをSDメモリーカードとしてお使いいただけます。

### ●カードの扱いかた

- 正規のカード以外は使用しないでください。
- 貴重な映像を記録する場合は、必ず新品のカードをお使いください。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- ラベルの貼り付け部には、専用ラベル以外は貼り付けないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保管は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下、暖房器具の近くなど、気温の高いところ
  - 湿気、ほこりが多いところ
- 誤消去防止スイッチをロックしておくと、再生はできますが記録や消去、編集ができなくなります。

端子部

ロックがかかっている状態

## ディスク、カードの共通注意事項

- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップをとっておくことをおすすめします。
- 以下の場合はデータが壊れたり、消失したりすることがありますので、注意してください。
  - 読み込み中や書き込み中にディスクを取り出したり、カードを抜いたり、本機の電源を切った場合
  - 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使用した場合
  - 写真店や DPE サービスに出す場合
- ディスクやメモリーカードを譲渡、廃棄するときのご注意
  - ビデオカメラやパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、ディスクおよびメモリーカード内のデータは完全には消去されません。譲渡、廃棄の際は、ディスクおよびメモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のデータ消去専用ソフトなどを使ってディスクおよびメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。ディスクおよびメモリーカード内のデータは、お客様の責任において管理してください。

# ディスクやカードの記録容量



## 動画の記録時間

記録画質により、記録できる時間が変わります。記録画質の設定はP.100をご覧ください。
ディスク1枚（片面）の動画の記録時間（動画のみを記録した場合）は、以下の通りです。

| 記録画質 | 動画の記録時間 | こんなときにお使いください |
|---|---|---|
| XTRA | 約18分※1 | より高画質 |
| FINE | 約30分※2 | 高画質 |
| STD | 約60分※3 | 標準画質 |

※1： 可変ビットレート（撮影する被写体により約3Mbps～約10Mbpsの間で自動的に変わりますので18分以上記録できることもあります）
※2： 固定ビットレート約6Mbps
※3： 固定ビットレート約3Mbps

- SDメモリーカードには、動画は記録できません。
- DVD-RAMをご使用のときは途中で記録画質／ワイドモードの変更ができますが、DVD-Rをご使用のときは途中で記録画質／ワイドモードの変更はできません。
- 高温の環境でXTRAモードをご使用し記録した場合、本機が高温になり最大転送レートが約6Mbpsに制限され、最高画質が得られないことがあります。
- 記録したディスクを高温の環境でご使用した場合、正常に再生できないことがあります。電源を切って、しばらくたってからお使いください。

## 静止画の記録枚数（ディスク）

### ●片面の記録枚数

DZ-GX20の場合：約750枚　記録可能（外部入力時：最大999枚）
DZ-MV780/MV730の場合：最大999枚　記録可能（外部入力時：最大999枚）
※　ただし、999枚記録した後でもディスク容量に空きがあれば、動画の記録はできます。

## 静止画の記録枚数（カード）

### ●何も記録していないカードをご使用のとき

記録画質によって、撮影できる枚数が変わります。
記録画質の設定はP.103をご覧ください。

DZ-GX20の場合

| 容量＼記録画質 | FINE | NORM | ECO |
|---|---|---|---|
| 16MB | 約13枚 | 約18枚 | 約27枚 |
| 32MB | 約29枚 | 約38枚 | 約58枚 |
| 64MB | 約60枚 | 約80枚 | 約120枚 |
| 128MB | 約120枚 | 約160枚 | 約240枚 |
| 256MB | 約240枚 | 約320枚 | 約480枚 |
| 512MB | 約480枚 | 約640枚 | 約960枚 |
| 1GB | 約900枚 | 約1,200枚 | 約1,800枚 |

（枚数は目安です）

DZ-MV780の場合

| 容量＼記録画質 | FINE | NORM | ECO |
|---|---|---|---|
| 16MB | 約27枚 | 約36枚 | 約54枚 |
| 32MB | 約58枚 | 約76枚 | 約116枚 |
| 64MB | 約120枚 | 約160枚 | 約240枚 |
| 128MB | 約240枚 | 約320枚 | 約480枚 |
| 256MB | 約480枚 | 約640枚 | 約960枚 |
| 512MB | 約960枚 | 約1,280枚 | 約1,920枚 |
| 1GB | 約1,800枚 | 約2,400枚 | 約3,600枚 |

（枚数は目安です）

DZ-MV730の場合

| 容量＼記録画質 | FINE | NORM | ECO |
|---|---|---|---|
| 16MB | 約108枚 | 約216枚 | 約432枚 |
| 32MB | 約232枚 | 約464枚 | 約928枚 |
| 64MB | 約480枚 | 約960枚 | 約1,920枚 |
| 128MB | 約960枚 | 約1,920枚 | 約3,840枚 |
| 256MB | 約1,920枚 | 約3,840枚 | 約7,680枚 |
| 512MB | 約3,840枚 | 約7,680枚 | 約15,360枚 |
| 1GB | 約7,500枚 | 約15,000枚 | 約30,000枚 |

（枚数は目安です）

外部入力の場合（DZ-GX20、DZ-MV780、MV730）

| 容量＼記録画質 | FINE | NORM | ECO |
|---|---|---|---|
| 16MB | 約108枚 | 約216枚 | 約432枚 |
| 32MB | 約232枚 | 約464枚 | 約928枚 |
| 64MB | 約480枚 | 約960枚 | 約1,920枚 |
| 128MB | 約960枚 | 約1,920枚 | 約3,840枚 |
| 256MB | 約1,920枚 | 約3,840枚 | 約7,680枚 |
| 512MB | 約3,840枚 | 約7,680枚 | 約15,360枚 |
| 1GB | 約7,500枚 | 約15,000枚 | 約30,000枚 |

（枚数は目安です）

・ 他の機器で使用したカードは、使えないことがあります。
・ カードに動画や音楽のデータが記録されていても、本機で見たり聴いたりすることはできません。また、そのようなファイルの表示もできません。
・ 残量表示で、カードの残量を確認してからご使用ください（☞ P.150「残量表示」）。
・ 本機で記録したデータを他機で再生する場合は、すべてのデータを再生できないことがあります。

## 静止画のサイズと画質について

本機で撮影できる静止画（JPEG）の画像サイズは、以下の通りです。

| 機種＼設定 | カメラ | 外部入力 |
|---|---|---|
| DZ-GX20 | 1,600 × 1,200 画素 | 640 × 480 画素 |
| DZ-MV780 | 1,280 × 960 画素 | 640 × 480 画素 |
| DZ-MV730 | 640 × 480 画素 | 640 × 480 画素 |

カードをお使いのときの静止画（JPEG）1 枚のファイルサイズおよび記録画質は、以下の通りです。

| 画　質 | ファイルサイズ | | | | こんなときにお使いください |
|---|---|---|---|---|---|
| | DZ-GX20 | DZ-MV780 | DZ-MV730 | 外部入力時（DZ-GX20、DZ-MV780、DZ-MV730） | |
| FINE | 約 1,024KB | 約 512KB | 約 128KB | 約 128KB | 画質重視のとき |
| NORM | 約 768KB | 約 384KB | 約 64KB | 約 64KB | 標準画質 |
| ECO | 約 512KB | 約 256KB | 約 32KB | 約 32KB | 枚数重視のとき（画質はやや劣ります） |

DVD-RAM をお使いのときは、画質を切り替えることはできません。

カードをお使いのときは、画質を切り替えることができます（☞ P.103）。

DVD-RAMに「📷」で記録すると、「カード」のFINEのファイルサイズより同等以上のファイルサイズになります。

※ JPEG…Joint Photographic Experts Group の略です。
静止画画像の圧縮規格の 1 つであり、一般的なパソコンで利用できるため、デジタルスチルカメラなどでも広く採用されています。本機で DVD-RAM の「📷」で記録する場合、JPEG 静止画とテレビなどへの出力時に使用する DVD ビデオレコーディング（DVD-VR）規格（☞ P.198「用語解説」）の静止画を同時に記録しています。なお、SD メモリーカードにはJPEG静止画のみを記録します。

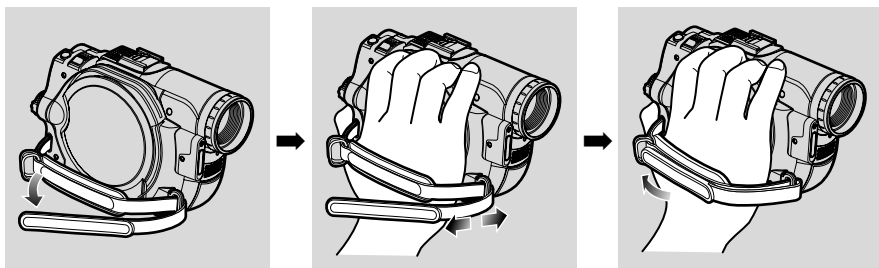
- DVD-R には、静止画は記録できません。
- 「カード」を記録する場合は、各画質においてファイルサイズを制限しているため、DVD-RAM ディスク「📷」で記録するときよりも画質が落ちる場合があります。

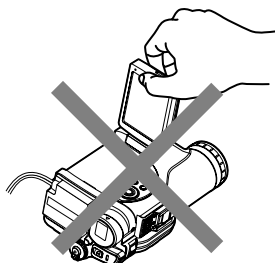
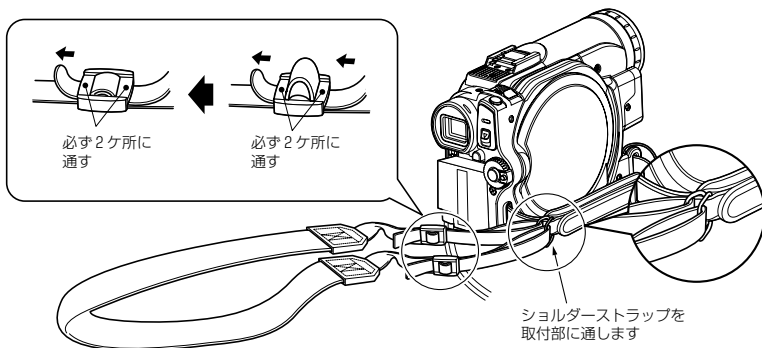
# 本体の準備

## グリップベルトの調整

**本機の下側から、グリップベルトに右手を差し入れる**

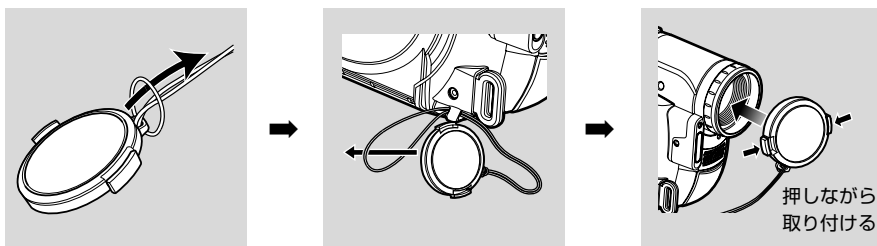
「録画」ボタン、ズームレバーが押しやすい位置にしてください。

本機がぐらついたり、グリップベルトがきついときは、グリップベルトの長さを調節してください。

ご注意

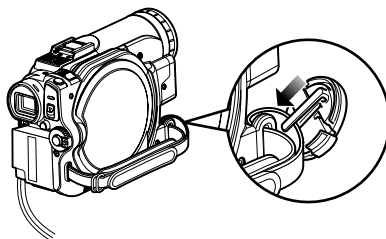
- ビューファインダーや液晶モニターをつかんで持ち上げないでください。ビューファインダーや液晶モニターが外れて、本機が落下することがあります。

## ショルダーストラップを取り付ける

## レンズキャップを取り付ける

1 レンズキャップひもの短い方をレンズキャップに取り付ける

2 ひもの長い方を本機の取付口に取り付ける

3 レンズキャップの両サイドを押しながらレンズに取り付ける

- 本機を使用しないときは、レンズ保護のために必ずレンズキャップを付けてください。

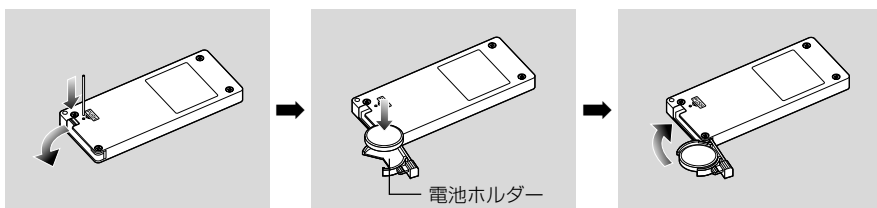
ヒント

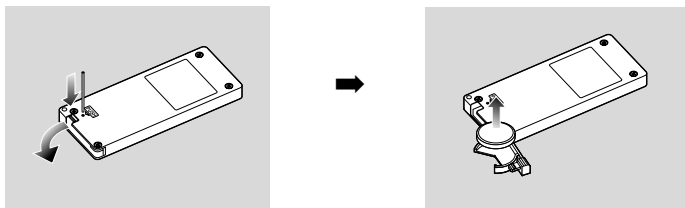
- 撮影するときは、レンズキャップ内側のつめを使用してハンドストラップに取り付けておくと便利です。

## リモコンに電池を入れる

リモコンは、付属のリチウム電池を入れて使用します。

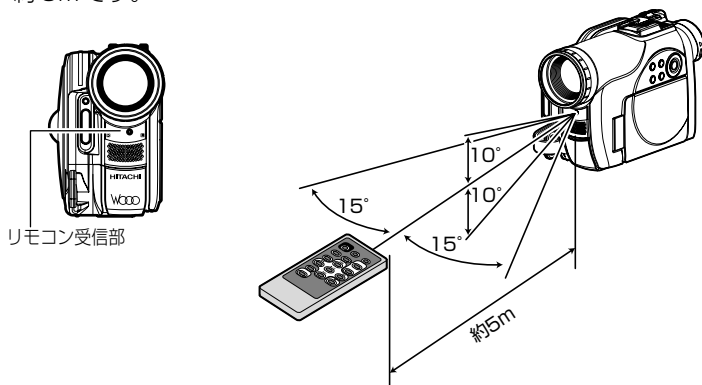
1 細い棒などをPUSHの穴に挿入しながら、電池ホルダーを手前に引き出す

2 ⊕(プラス)面を下にして入れる

3 電池ホルダーをスライドしてとじる

## リモコンから電池を取り外す

**1** 細い棒などを PUSH の穴に挿入しながら、電池ホルダーを手前に引き出す。

- 取り外した電池の取り扱いについては、P.11、P.13 をご覧ください。

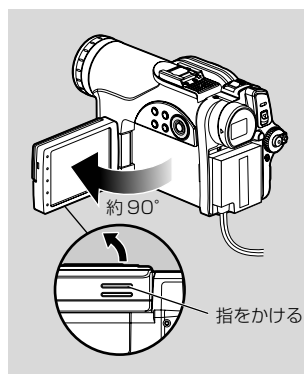
### ●リモコンの使いかた

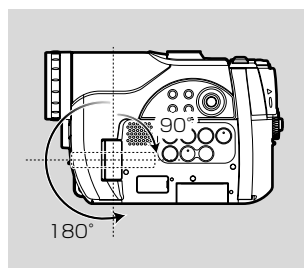
リモコンは本機のリモコン受信部に向けて操作してください。リモコンの操作可能距離は、約 5m です。

- リチウム電池の寿命は約 1 年です。電池が消耗すると、リモコンのボタンを押しても本機が動作しなくなります。その場合は、新しい電池にお取り換えください。
- リモコンで操作するときは、本機のリモコン受信部が直射日光や強い照明などに向かないようにご注意ください。リモコン受信部にリモコンの赤外線よりも強い光が当たっていると操作できません。
- リモコンと本機のリモコン受信部との間に障害物があると、正常に動作しない場合があります。
- リモコンコードは日立製ビデオのリモコンコード「VTR2」です。日立のビデオなどをリモコンコード「VTR2」でお使いのときは、ビデオもリモコンで動作してしまいますので、ビデオのリモコンコードを別のコードに変更してください。
- リモコンおよびリチウム電池は DZ-GX20/MV780 のみの付属品です。

## 液晶モニターで映像を見る

液晶モニターを開くと、液晶画面で映像を確認できるようになります。

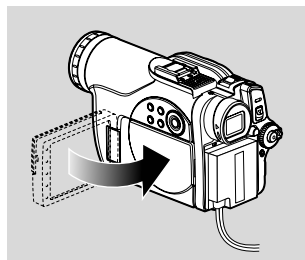
**1 液晶モニターを開く**

液晶モニターの底部に指をかけるところがあります。
その部分に指をひっかけて開いてください。
液晶モニターは約 90˚まで開くことができます。
液晶画面が見やすくなるように、角度をかえてください。

### ●液晶モニターの動く範囲

液晶モニターは、約 90˚まで開くことができます。この状態で手前へ約 90˚、反対側へは約 180˚まで回転させることができます。
撮影時に液晶モニターを約180˚回転させて前に向けると、ビューファインダーにも映像が表示されます。このとき液晶モニターの映像は鏡のように左右反対に映ります（☞ P.61）。

- 液晶モニターに何も表示されない（☞ P.201「チェック 7」）。
- 液晶モニターが白く点灯する（☞ P.95）。

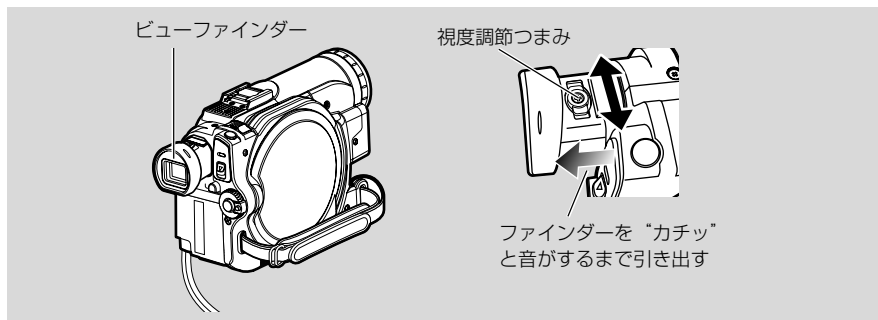
ご注意
- 液晶モニターの角度を変えるときは、必ず液晶モニターが約90˚開いた状態で行なってください。
- 液晶モニターを約180˚回転させた状態で本体に密着させて、長時間使用することはおやめください。本体と液晶モニターが熱くなり、故障の原因になります。

## 液晶モニターを閉じる

**1** **液晶モニターを内側に向けて、本体側へ倒す**
液晶モニターを閉じるときは、液晶モニターを本機と垂直（開いたときの状態）にしてから閉じます。
「カチッ」とロックされるまで閉じてください。

- 液晶モニターを閉じるときは、必ず本機と液晶モニターを垂直にしてから閉じてください。液晶モニターが傾いていると、本機側へ閉じることはできません。
- 液晶モニターが本機にしっかりロックされないと、ビューファインダーには何も表示されません。

## ビューファインダーで映像を見る

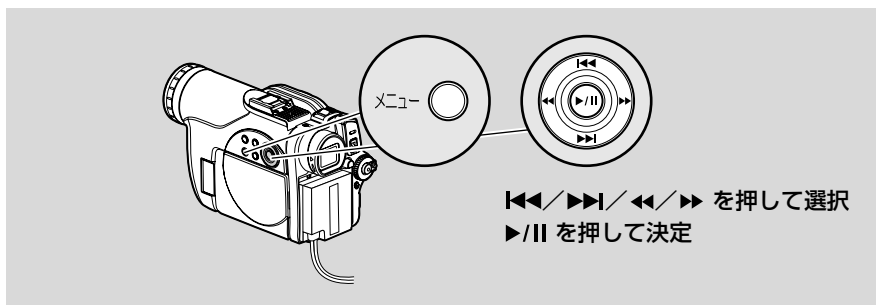
**1** **ビューファインダーを引き出す**

**2** **視度調節つまみを動かして調節する**

ヒント

- ビューファインダーに何も表示されない（☞ P.201「チェック6」）。

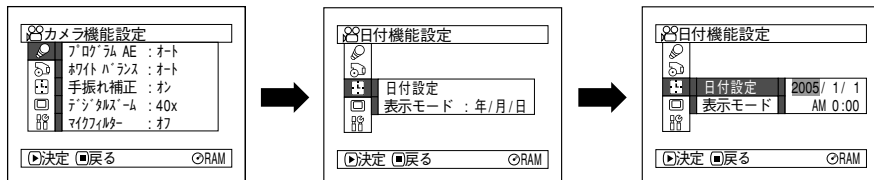
- 液晶モニターが開いているときは、ビューファインダーには何も表示されません。ただし、開いている液晶モニターを180°回転させて前に向けると、ビューファインダーにも映像が表示されます。
- 液晶モニターの開閉に関係なくビューファインダーを表示させたいときには、「LCD／EVF設定」をご覧ください（☞ P.109）。
- ビューファインダーを引き出さないとピントが合いません。

## 日付と時刻を設定する

一度設定した日付や時刻を修正する場合も、下記の手順で同様に行なえます。

**1 電源を入れる**

**2 「メニュー」ボタンを押す**
メニュー画面が表示されます。

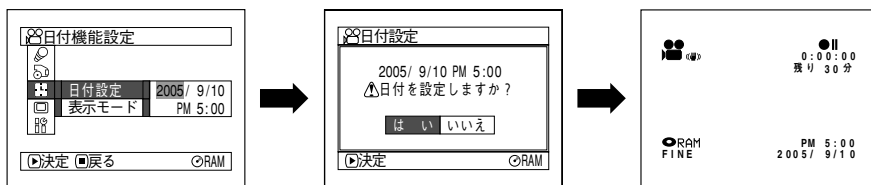
**3 ⏮／⏭ を押して「日付機能設定」を選ぶ**

**4 ⏩ を押して「日付設定」を選ぶ**

**5 ⏩ を押して「年」に合わせ、⏮／⏭ を押して数字を変更する**

**6 ⏩ を押して「月」に合わせ、⏮／⏭ を押して数字を変更する**
同様の手順で「日」「時刻」を希望の数字に設定してください。
設定を途中でやめたい場合は、■(停止／キャンセル）ボタンを押してください。

**7 希望の日付と時刻にしたら ▶/II を押して決定する**
「日付設定」の確認画面が表示されます。

**8 表示してある日付と時刻でよければ「はい」を選び、▶/II を押して決定する**

日付が設定され、記録一時停止状態に戻ります。
「いいえ」を選ぶと、メニュー画面に戻ります。

- 本機は、日付と時刻を記憶しておくための充電式電池を内蔵しています。
  内蔵電池がなくなると日付がリセットされてしまいます。3ヶ月に1回、ACアダプター／チャージャーを本機と接続してコンセントにつなぎ、電源を切ったまま24時間以上接続した状態にしておいてください。内蔵電池が充電されます。

## ●表示モードを切り替える

日付の表示方法を、「年／月／日」、「月／日／年」、「日／月／年」のどれかに変更できます。選択した日付の表示方法に応じて、時刻の表示方法も変わります。手順4で「表示モード」を選び、希望の表示にしてください。
日付と時刻の表示方法は、以下のような組み合わせになります。

| 日付の表示モード | 表示例 |
|---|---|
| 年／月／日 | PM5:00<br>2005/9/30 |
| 月／日／年 | 5:00PM<br>9/30/2005 |
| 日／月／年 | 17:00<br>30/9/2005 |

# バッテリーパックの準備

**お買い上げ時は、本機に付属のバッテリーパック(DZ-BP14S)は充電されていません。充電してからお使いください。**

以下のようなことは危険ですので、絶対に行なわないでください。
- バッテリーパックの端子間をショートさせる。
- バッテリーパックを分解／改造する。
- バッテリーパックを火中に投じる。

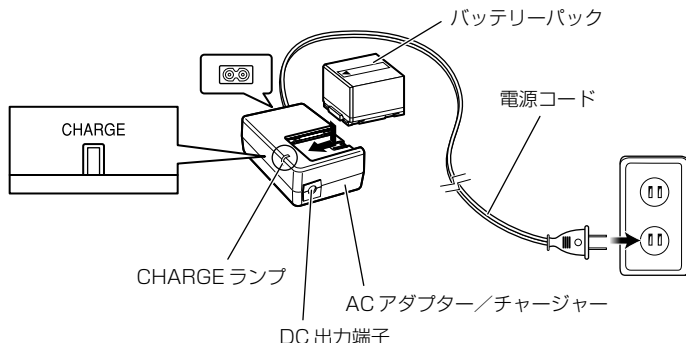
- バッテリーパックは、必ず本機専用のもの（同梱：DZ-BP14S、別売品：DZ-BP14SJ、DZ-BP21SJ、DZ-BP7SJ（DZ-GX20 では使用できません））をお使いください。異なるバッテリーパックをご使用になると、本機が故障したり、火災が発生するおそれがあります。
- バッテリーパックの充電は必ず指定の AC アダプター／チャージャー（DZ-ACS2）をお使いください。その他の充電器で充電すると、感電したり、火災が起きる可能性があります。
- 充電は、気温が 10℃～ 30℃のところで行なってください。
- **DC パワーコードを AC アダプター／チャージャーの DC 出力端子につないでいる間は、バッテリーパックの充電はできません。DC パワーコードを外してください。**

## バッテリーパックを充電する

バッテリーパックは、付属の AC アダプター／チャージャーを使って充電します。

**1** **電源コードを AC アダプター／チャージャーにつなぐ**

**2** **電源コードをコンセントに差し込む**

**3** **バッテリーパックを AC アダプター／チャージャーに取り付ける**

### ●バッテリーパックの充電の状態

バッテリーパックの充電状態は、ACアダプター／チャージャーのCHARGEランプの点灯で確認できます。

| 充電の状態 | CHARGEランプ |
|---|---|
| 充電中 | 点灯 |
| 充電完了 | 消灯 |

- 点滅した場合は、P.208の「故障かな…と思ったら」をご覧ください。

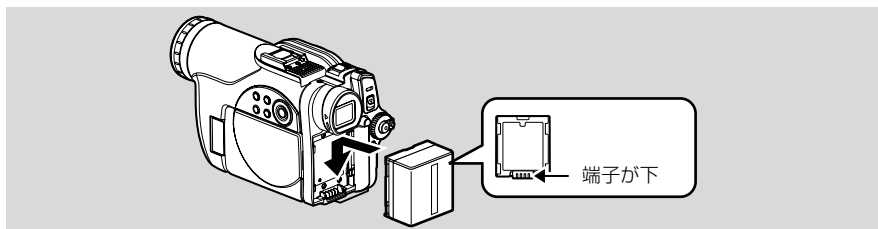
### ●バッテリーパックの充電時間の目安（約25℃の場合）

| バッテリー品番 | 充電時間 |
|---|---|
| DZ-BP14S（付属品） | 約165分 |
| DZ-BP14SJ（別売品） | |
| DZ-BP21SJ（別売品） | 約235分 |
| DZ-BP7SJ（別売品）<br>（DZ-GX20では使用できません） | 約90分 |

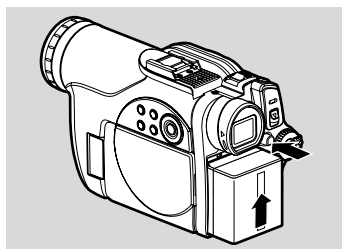
充電時間はバッテリーパックの残量により変わります。

## バッテリーパックを取り付ける

**1 本機のバッテリーパック取り付け部にバッテリーパックを押しあて、カチッと音がするまで下へずらす**

このとき、バッテリーパックの向きをまちがえないように注意してください。

## バッテリーパックを取り外す

**1 「バッテリーイジェクト」ボタンを押しながら、バッテリーパックを上にスライドさせる**

バッテリーパックが外れます。
このとき取り外したバッテリーパックが落下しないように注意してください。

## バッテリーパックでの連続使用時間

（ズームなどの操作をまったくしない場合）

満充電されたバッテリーパックで連続使用できる時間は、以下の表を目安にしてください。

### ● DZ-BP14S（付属品）、DZ-BP14SJ（別売品）

| 動画画質 | | GX20 | MV780 | MV730 |
|---|---|---|---|---|
| XTRA モード | ビューファインダー使用時 | 約 125 分 | 約 145 分 | 約 170 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 110 分 | 約 125 分 | 約 145 分 |
| FINE モード | ビューファインダー使用時 | 約 125 分 | 約 145 分 | 約 170 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 110 分 | 約 125 分 | 約 145 分 |
| STD モード | ビューファインダー使用時 | 約 140 分 | 約 170 分 | 約 210 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 125 分 | 約 145 分 | 約 170 分 |

時間は参考値です。記録する内容により連続使用時間が変わります。

### ● DZ-BP21SJ（別売品）

| 動画画質 | | GX20 | MV780 | MV730 |
|---|---|---|---|---|
| XTRA モード | ビューファインダー使用時 | 約 185 分 | 約 215 分 | 約 255 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 165 分 | 約 185 分 | 約 215 分 |
| FINE モード | ビューファインダー使用時 | 約 185 分 | 約 215 分 | 約 255 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 165 分 | 約 185 分 | 約 215 分 |
| STD モード | ビューファインダー使用時 | 約 210 分 | 約 255 分 | 約 315 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 185 分 | 約 215 分 | 約 255 分 |

時間は参考値です。記録する内容により連続使用時間が変わります。

### ● DZ-BP7SJ（別売品）（DZ-GX20 では使用できません）

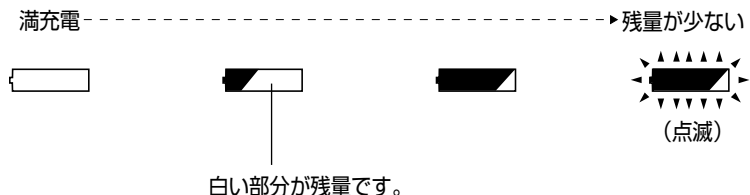
| 動画画質 | | MV780 | MV730 |
|---|---|---|---|
| XTRA モード | ビューファインダー使用時 | 約 70 分 | 約 85 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 60 分 | 約 70 分 |
| FINE モード | ビューファインダー使用時 | 約 70 分 | 約 85 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 60 分 | 約 70 分 |
| STD モード | ビューファインダー使用時 | 約 80 分 | 約 100 分 |
| | 液晶モニター使用時 | 約 70 分 | 約 85 分 |

時間は参考値です。記録する内容により連続使用時間が変わります。

**満充電のときの実際の連続使用時間の目安は、前ページの時間の約 1/2〜1/3です。**
前ページの表に示したバッテリーパックの連続記録時間は、撮影を開始してから、そのまま何も行なわずに撮影し続けた場合の記録時間です。実際の撮影では、「録画」ボタンやズームの操作、再生などを行なうため、バッテリーパックはこの2〜3倍消耗します。満充電された1個のバッテリーパックの使用時間を前ページの時間の約 1/2〜1/3とお考えのうえ、記録予定時間に見合った数のバッテリーパックをご用意ください。
ご使用条件によっては、連続使用時間が更に短くなる場合もあります（短い時間で録画や録画停止を繰り返すなど）。
また、気温の低い場所でお使いになるときは、バッテリーパックがより早く消耗しますので、ご注意ください。

- 充電中や充電直後および使用中は、バッテリーパックが温かくなりますが、故障ではありません。

## バッテリーパックの残量表示について

バッテリーパックを使用中は、ビューファインダー・液晶モニターにバッテリーパックの残量が次のように表示されます。

## バッテリーパックを上手に使うために

### お使いになる直前に充電してください

- バッテリーパックは本体から取り外していてもわずかに放電しています。
- バッテリーパックを取り付けたままにしておくと、電源を切っていても、ごくわずかな電力を消費します。

本機の使用後は充電しないで、お使いになる前の日などに充電することをおすすめします。
なお、メモリー効果はありませんので充電する前に放電したり、使い切ったりする必要はありません。

### 長期間使用しないときは

1年に1回程度満充電し、本機に取り付けた状態で使い切ってから、取り外して涼しい場所に再度保管することをおすすめします。

### 冷暗所で保管してください

使わないときは、本機から取り外して保管してください。
気温の高い場所で保管すると、バッテリーパックの寿命が短くなります。特に60℃以上になる環境（閉め切った車内など）で保管すると、バッテリーパックが故障するおそれがありますので、絶対におやめください。また、冷蔵庫などの冷たすぎる場所での保管は、使用時に結露することがありますのでおやめください。

### バッテリーパックの寿命について

バッテリーパックの寿命は、ご使用の環境や使用頻度によって大きく異なります。満充電したバッテリーパックの使用時間が著しく短くなったら、寿命と考えられます。新しいバッテリーパックをお求めください。

### バッテリーパックの廃棄方法

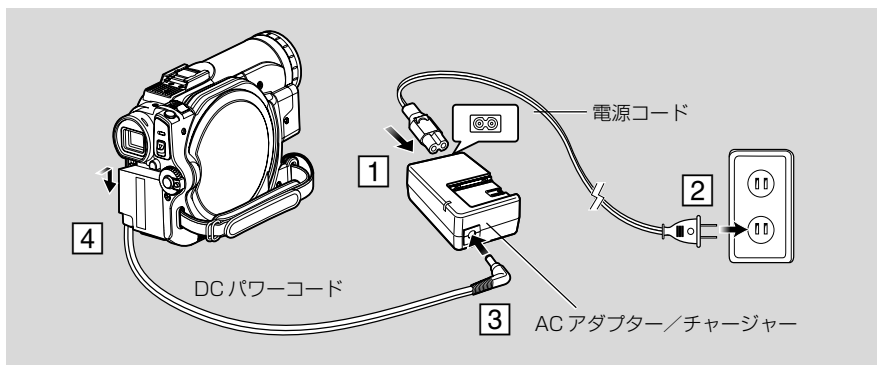
Li-ion

不要になった電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。
**充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店に関する問い合わせ先**
**小形二次電池再資源化推進センター　（2004年12月現在）**
**ホームページ：http://www.jbrc.com**

### パワーセーブとバッテリーの消耗

記録一時停止状態のときも、撮影時と同じくらいバッテリーは消耗しますので、撮影時以外はなるべく電源を切るようにしてください。
記録一時停止の状態が約5分続くと、自動的に電源が切れるようにパワーセーブを設定することができます。
パワーセーブを設定したり解除する方法は、P.110（パワーセーブ）をご覧ください。

## コンセントにつないで使う

付属の AC アダプター／チャージャーを使うと、家庭用コンセントが使えます。

**1 電源コードと AC アダプター／チャージャーをつなぐ**

**2 電源コードをコンセントに差し込む**

**3 DCパワーコードの片方の端子をACアダプター／チャージャーのDC出力端子に差し込む**

**4 DCパワーコードのカメラ接続側を、本機のバッテリーパック取付部に取り付ける**

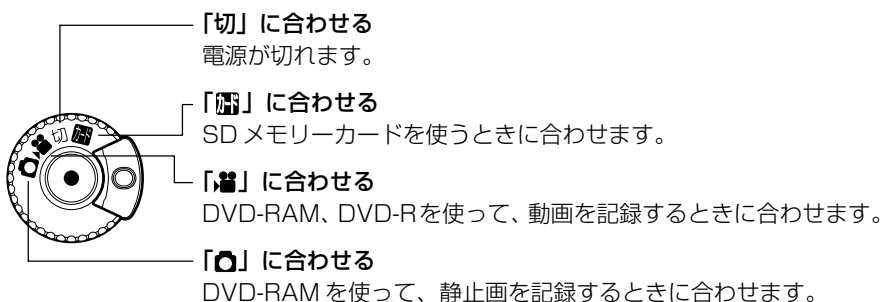
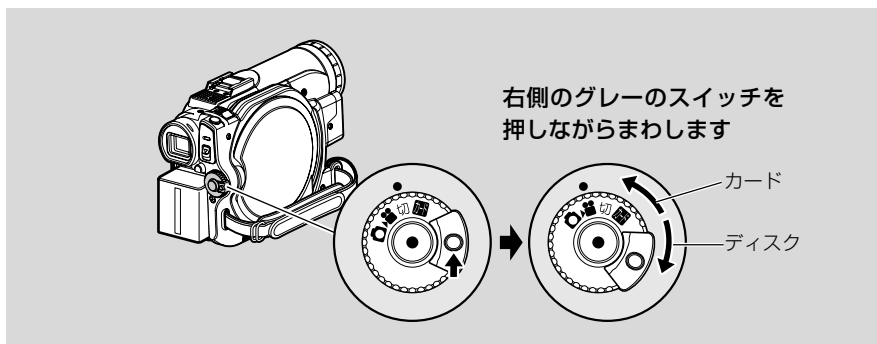
- AC アダプター／チャージャーは、必ず指定のものをお使いください。指定外のACアダプター／チャージャーを使用すると、感電したり火災が起きるおそれがあります。

# 電源を入れる／切る

**「切」に合わせる**
電源が切れます。

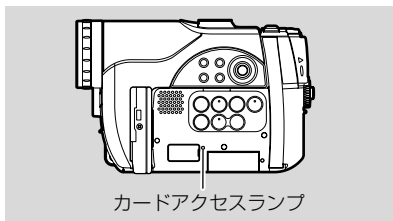
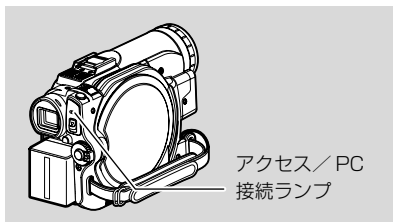
**「カード」に合わせる**
SD メモリーカードを使うときに合わせます。

**「」に合わせる**
DVD-RAM、DVD-Rを使って、動画を記録するときに合わせます。

**「」に合わせる**
DVD-RAM を使って、静止画を記録するときに合わせます。

再生する場合や、ディスクをお使いのときは「 」または「」、カードをお使いのときは「カード」に合わせてください。

- 一度電源を入れてディスクを認識させておくと、次に電源を入れたとき、すぐに記録ができます。
- ディスクを入れてから長時間経過したときは、ディスクを認識しなおすので、時間がかかります（☞ P.201「チェック4」）。
- 電源を入れたあとにディスクナビゲーション画面を表示させるには、しばらく時間がかかります。



- 電源を入れるとアクセスランプが点灯または点滅し、ディスクやカードの認識をします。この間は録画などの操作はできません。
  数秒後にアクセスランプが消灯し操作ができるようになります。
  －アクセスランプが消灯しない（☞ P.201「チェック4」）。
- 電源を入れたときに本機の自己診断機能が働き、メッセージが表示されることがあります。表示されたときは、P.202の「メッセージが表示されたら」をご覧になり、正しく対処してください。
- アクセスランプが点灯または点滅しているときは、液晶モニターの激しい開閉はしないでください。

# ディスクを入れる／取り出す

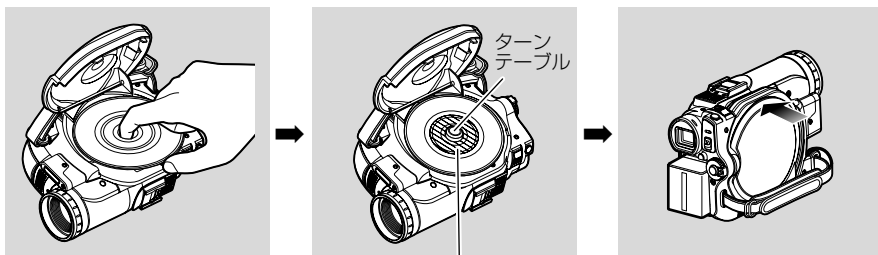
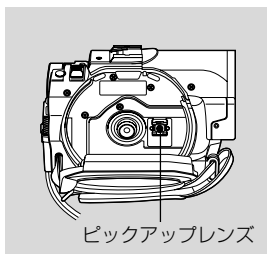
## ディスクを入れる

**1 「ディスク取出し」ボタンを 1 回押し下げて手をはなす**

アクセス／PC接続ランプが点滅して、しばらくするとディスク挿入部（グリップベルト側）のふたが開きます。

**2 ふたが完全に開くところまで、手でゆっくり開く**

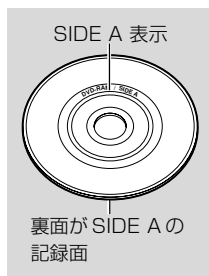
**3 ディスクを中央のターンテーブルに「カチッ」と音がするまで押し込んで固定する**

- 記録面を内側（本体側）にしてください。
- ディスクの記録面やピックアップレンズには絶対触らないでください。
- ディスクの記録面に付着した汚れは、付属のディスククリーニングクロスで拭き取っておいてください。
- 傷や汚れのあるディスクは使用しないでください。

ディスクの斜線の部分を押してください。

**4 ディスク挿入部（グリップベルト）ふたの「PUSH CLOSE」部を「カチッ」と音がするまで、押して閉じる**

この後、自動的にディスク認識動作を行いますので、アクセス／PC接続ランプが点灯している間は、電源を抜いたり、振動や衝撃を加えないでください。

- ディスク挿入部のふたが開いていると、液晶モニターは表示されたままで、アクセス／PC 接続ランプが点滅し、電源スイッチが「切」状態でも電源は切れません。しばらくたってもふたが開いたままの場合、自動的に電源が切れます。

＊ディスクの記録面とは

- 片面ディスクの場合
  レーベル印刷面の反対側が記録面です。
- 両面ディスクの場合
  「SIDE A」表示面の反対側が「SIDE A」の記録面です。
  「SIDE A」と表示されている面が「SIDE B」の記録面です。

- 撮影するまでに時間がかかる（☞ P.201「チェック4」）

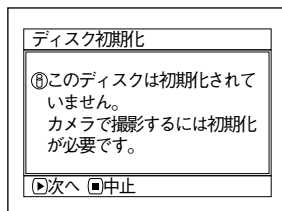
- ディスクの出し入れは、充電されたバッテリーパックが取り付けてあるか、ACアダプター／チャージャーを使ってコンセントから電源をとっていないとできません。
- 放電したバッテリーパックを使用したときに、ディスクの出し入れができない場合があります。その場合は、充電したバッテリーパックまたは、ACアダプター／チャージャーを使用してください。
- ディスクがターンテーブルに正しく取り付けられていないと、ふたが閉まりにくくなります。無理に閉めようとすると故障の原因になりますので、正しく装着し直してください。
- 片面ディスクの場合、レーベル印刷面を内側にして本機に挿入すると、エラーメッセージが表示されます。いったん取り出して、記録面を内側にしてもう一度装着してください。P.202の「メッセージが表示されたら」を参照してください。

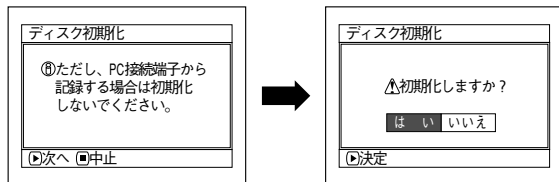
## ●両面ディスクをお使いの場合

両面ディスクは、表と裏に記録できます。しかし、片面の記録／再生が終了後、自動的に反対面には切り替わりません。一度ディスクを本機から取り出し、ディスクを裏返してご使用ください。
両面ディスクを使うときは、記録面に汚れや傷をつけやすいので、必ずピックアップレンズ側の記録面に汚れや傷がないことを確認してから、汚れや傷をつけないよう十分に注意して使用してください。ディスクの汚れは、付属のディスククリーニングクロスでふき取ってください（☞ P.31）。

## ●新品のDVD-Rをお使いの場合

ディスクの認識を開始します。
終了後、ディスク初期化のメッセージが表示されます。

ディスク初期化
Ⓘこのディスクは初期化されていません。
カメラで撮影するには初期化が必要です。
▶次へ ■中止

**本機で撮影に使う場合**

**1 メッセージを確認して、▶/IIを押す**
最後に「初期化しますか？」と表示されます。

DZ-MV730では表示されません。

**2 「はい」を選んで、▶/IIを押す**
ディスクが初期化されます。
終了すると、「DVD-Rディスクの場合、一旦記録した後の動画画質、ワイドモードの変更はできません」と表示されます。

**3 メッセージを確認後、▶/IIを押す**

＊ 初期化後はパソコンからデータを記録することはできなくなります（☞ P.53）。
＊ 動画画質については、P.100（動画画質）をご覧ください。
＊ ワイドモードについては、P.101（ワイドモード）をご覧ください。

**パソコンからのデータを記録する場合（☞ P.173）**

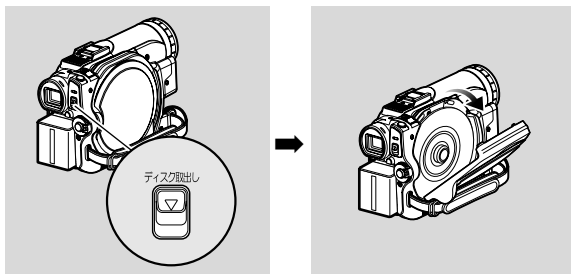
メッセージが表示されているときに■(停止／キャンセル）ボタンを押すか、「初期化しますか？」と表示されたときに「いいえ」を選び、決定してください。

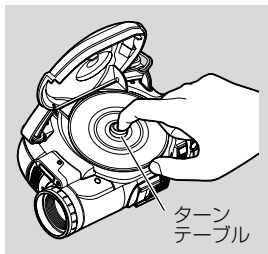
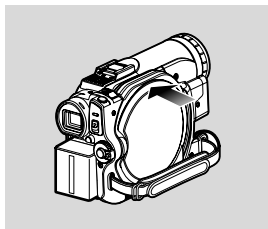
＊ パソコンからの記録をしていない場合は、電源を入れ直すかディスクを入れ直すと、新品のディスクを入れたときと同じ状態になり、ディスクの認識から始まります。

- 初期化すると、パソコンのアプリケーション（DVDfunSTUDIO）から記録ができなくなります。

## ディスクを取り出す

**1 「ディスク取出し」ボタンを 1 回押し下げて手をはなす**
しばらくするとディスク挿入部（グリップベルト）のふたが開きます（このとき電源が入っていた場合は、液晶モニターまたはビューファインダーの「EJECT」表示が点滅します）。

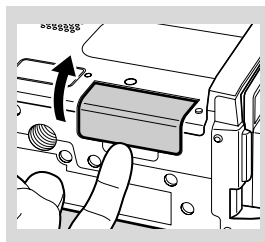
**2 ふたが 完全に開くところまで、手でゆっくり開く**

## 3 ディスクを取り出す

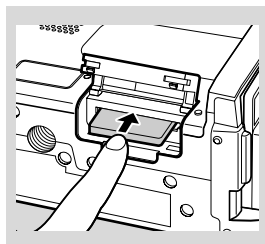
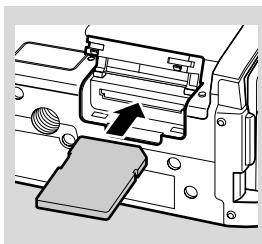
ターンテーブルの中央部分を押さえながら、端の方からつまみあげるようにして取り出します。

## 4 ディスク挿入部（グリップベルト）のふたの「PUSH CLOSE」部を「カチッ」と音がするまで、ゆっくり押して閉じる

- ディスク取り出し中は、確実に電源が切れるまでバッテリーパックやACアダプター／チャージャーを取り外さないでください。ふたが開かなくなる場合があります。そのときは、再度バッテリーパックやACアダプター／チャージャーを取り付け、ディスク取出しボタンを1回押し下げて手をはなしてください。
- ディスク挿入部には、8cmDVD-RAM、8cmDVD-R以外のものを入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを出し入れするときには、レーザーピックアップ部のレンズをのぞき込まないでください。視力に障害を起こす原因となります。

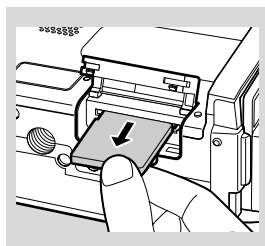
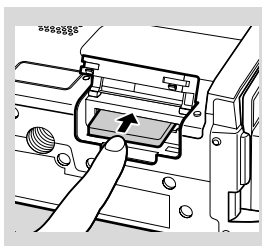
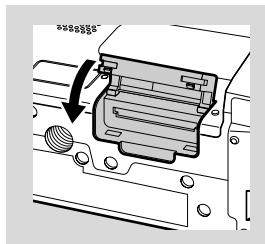
# カードを入れる／取り出す

**1** **液晶モニターを開く**

**2** **電源を切る**

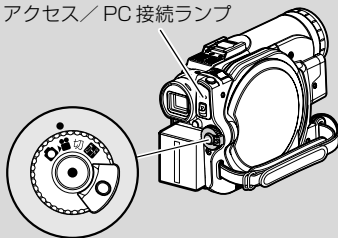
**3** **カード挿入部のふたを開ける**

**4** **カードを入れる**

端子部が内側になるように差し込んでください。
ロックされるところまで差し込んでください。

**カードを取り出す**

カード中央部を押してください。
指ではさめるくらいカードが出てきます。

**5** **カード挿入部のふたを閉じる**

- カードは本製品に含まれていません。お客様の必要に応じてお買い求めください。
- カードの容量と記録可能な静止画の枚数についてはP.34をご覧ください。

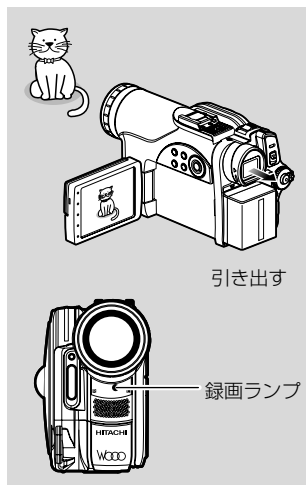
RAM R

# 動画を撮る

1 回押しで録画開始
もう 1 回押しで録画
一時停止

**1** **レンズキャップを外し、本機を被写体に向ける**

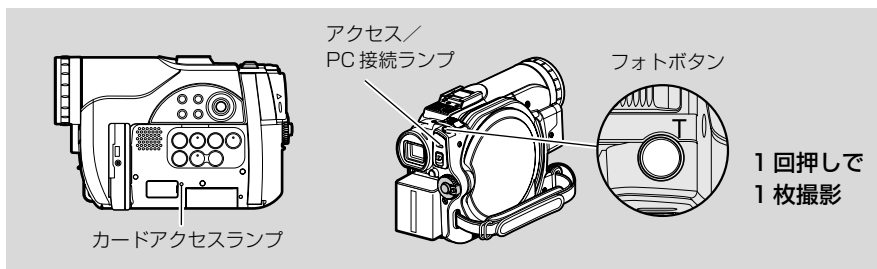
**2** **電源を入れる**
電源スイッチを「🎥」に合わせてください。
アクセス／PC接続ランプが消灯してから、次の操作をしてください。
ビューファインダーまたは液晶モニターで映像を確認してください。
ビューファインダーご使用の場合は、引き出し、液晶モニターを閉じてご使用ください。

**3** **「録画」ボタンを押す**
ビューファインダーまたは液晶モニターの「●II」が「●記録」に変わり、録画が開始します。
また、録画ランプが赤く点灯して、録画中であることをお知らせします。

**4** **もう一度、「録画」ボタンを押す**
録画一時停止します。
「ディスクに保存中です」という表示が消えると、録画終了です。

ヒント

- 動画の録画ができない（☞ P.200「チェック 1」）。
- 録画するまでに時間がかかる（☞ P.201「チェック 4」）。
- カメラが動作しない（☞ P.201「チェック 5」）。
- 画面表示について（☞ P.59）。
- 「🎥」のときに、誤って電源スイッチが「📷」に切り替わるのを防ぐため、LOCK スイッチを LOCK（上）へ移動させておくと便利です。

- 録画一時停止にしたあと、すぐに「録画」ボタンを押したときは録画できますが、「ディスクに保存中です」とメッセージが表示されている間は録画されません。メッセージが消えたあとから録画されます。
- 「ディスクに保存中です」とメッセージが表示されているときに、電源を切らないでください。
- 動画の最短録画時間は、約３秒です。
- 音声は本機の前面にあるステレオマイクから録音されます。ふさがないよう、気をつけてください。
- カウンター表示は、録画一時停止ごとに 0:00:00 にリセットされます。
- 未ファイナライズの DVD-R を他の機器に入れないでください。ディスクが使えなくなる場合があります（本機の未ファイナライズディスクの再生機能がある機器を除く）。
- 他社製の DVD レコーダーなどで記録した、ファイナライズしていない DVD-R を本機に入れないでください。ディスクが使えなくなる場合があります。
- 初期化されていない DVD-R をお使いになるときは、初期化が必要です(☞P.52)。

# 静止画を撮る

**1** **レンズキャップを外し、本機を被写体に向ける**

**2** **電源を入れる**
**DVD-RAM をお使いのときは「📷」に合わせてください。**
**カードをお使いのときは「カード」に合わせてください。**
アクセスランプが消灯してから次の操作をしてください。
ビューファインダーまたは液晶モニターで映像を確認してください。
ビューファインダーをご使用の場合は、引き出し、液晶モニターを閉じてご使用ください。

**3** **「フォト」ボタンを半分まで押す（半押し）**
ピントが画面中央にある被写体に自動的に合い、画面の●II が紫色に点灯します（マニュアルフォーカス選択時はピントは変化しません）。

**4** **「フォト」ボタンを完全に押し込む（全押し）**
画面がいったん黒くなり、その後撮影された画面が表示されます。 緑色の●II になったら、次の撮影ができます。
「ディスクに保存中です」と表示されている間は、次の撮影はできません。

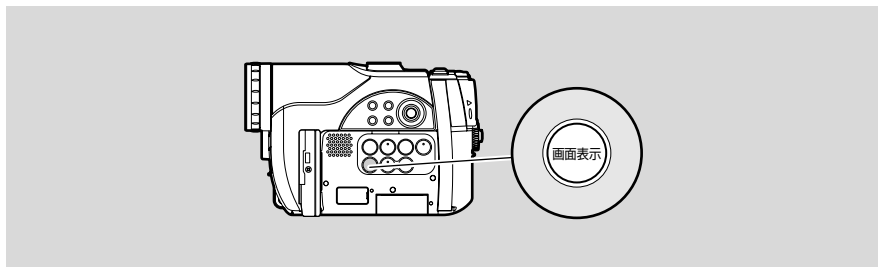
ヒント

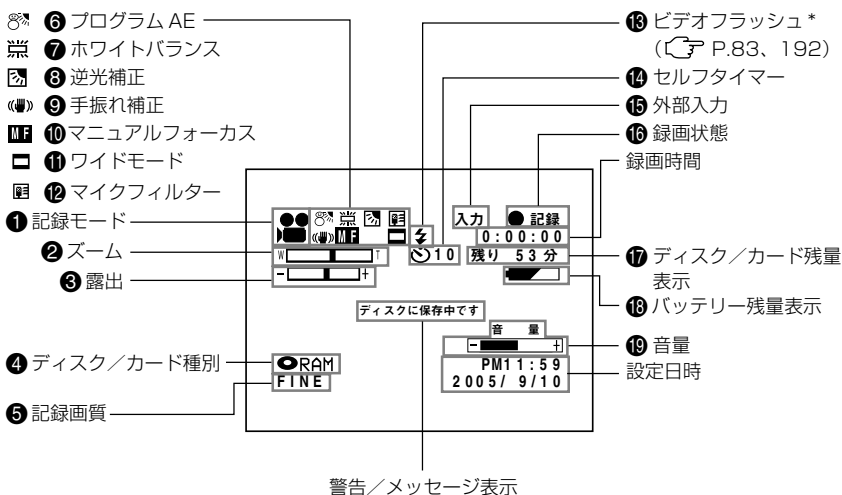
- 被写体を中央に配置しないで撮る場合は、最初に被写体を画面中央に捉えて「フォト」ボタンを半押しにし、撮影したい構図を決めて「フォト」ボタンを全押しするようにします。
- 静止画についての詳しい内容はP.35「静止画のサイズと画質について」をご覧ください。
- 静止画が撮影できない（☞ P.200「チェック 2」）。

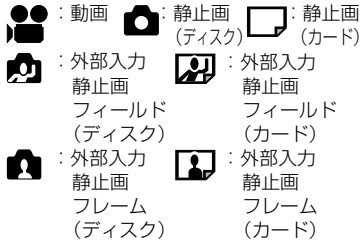
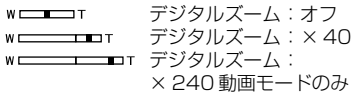
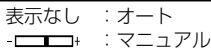
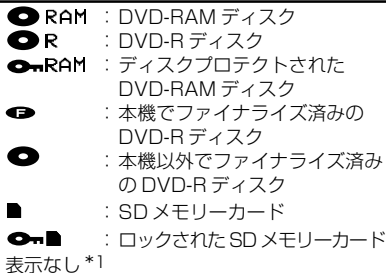
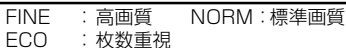
ご注意
- 手振れにより撮影した映像にぶれが生じることがあります。
- 手持ちで撮影するときは、本機を両手で支えるようにしてください。
- ズームの倍率を大きくして撮影するときは、本機を三脚などで固定することをおすすめします。
- 半押しせずに一度に全押しした場合、撮影はできますが、ピントが合わないことがあります。
- アクセスランプが点灯または点滅しているときに、電源操作やカードの取り出しなどを行なった場合、カードの破損やカード内のデータが破壊されることがあります。
- 動画撮影時と静止画撮影時では、撮影できる画面の範囲が変わります。
- ピントが合いにくいときは、マニュアルフォーカスを選択し、手動でピントを合わせてから撮影してください(☞ P.78)。
- 液晶モニターやビューファインダーなどのモニター映像と記録映像に差が生じることがあります。

RAM R カード

# 画面表示について

ビューファインダーや液晶モニターには、撮影時のいろいろな情報が表示されます。
画面表示ボタンを押して、すべての情報を表示したり、一部表示にしたりできます。

## 撮影時の表示について

詳細については次ページをご覧ください。

＊ DZ-MV730では表示されません。
• 上記の画面は説明の例です。
実際の表示とは異なります。

❶ 記録モード（P.56、58、103、105）

：動画　：静止画（ディスク）　：静止画（カード）

：外部入力 静止画 フィールド（ディスク）　：外部入力 静止画 フィールド（カード）

：外部入力 静止画 フレーム（ディスク）　：外部入力 静止画 フレーム（カード）

❷ ズーム（P.62）

デジタルズーム：オフ
デジタルズーム：× 40
デジタルズーム：× 240 動画モードのみ

❸ 露出（P.80）

表示なし　：オート
：マニュアル

❹ ディスク／カード種別

RAM　：DVD-RAM ディスク
R　：DVD-R ディスク
RAM　：ディスクプロテクトされた DVD-RAM ディスク
：本機でファイナライズ済みの DVD-R ディスク
：本機以外でファイナライズ済みの DVD-R ディスク
：SD メモリーカード
：ロックされた SD メモリーカード
表示なし *1

❺ 動画記録画質（ディスク使用時）（P.100）

XTRA　：より高画質
FINE　：高画質　STD：標準画質

静止画記録画質（カード使用時）（P.103）

FINE　：高画質　NORM：標準画質
ECO　：枚数重視

❻ プログラム AE（P.94）

表示なし：オート　：スポーツ
：ポートレート　：スポットライト
：サーフ&スノー　：ローライト

❼ ホワイトバランス（P.96）

表示なし：オート　：セット
：屋外　：屋内
：蛍光灯

❽ 逆光補正（P.81）

表示なし　：逆光補正オフ
：逆光補正オン

❾ 手振れ補正 *2（P.98）

表示なし　：手振れ補正オフ
：手振れ補正オン

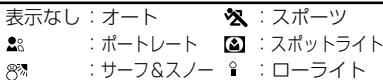
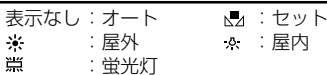
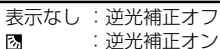
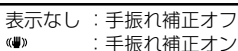
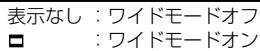
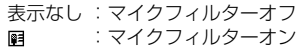
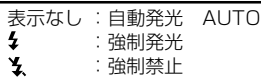
❿ マニュアルフォーカス（P.78）

表示なし　：オート　MF：マニュアル

⓫ ワイドモード（動画モードのみ）（P.101）

表示なし　：ワイドモードオフ
：ワイドモードオン

⓬ マイクフィルター（動画モードのみ）（P.99）

表示なし　：マイクフィルターオフ
：マイクフィルターオン

⓭ ビデオフラッシュ（静止画モードのみ）*3（ビデオフラッシュ（別売）取り付け時）（P.83）

表示なし　：自動発光　AUTO
：強制発光
：強制禁止

⓮ セルフタイマー（静止画モードのみ）（P.106）

表示なし　：セルフタイマーオフ
：セルフタイマーオン 10 秒よりカウントダウン

⓯ 外部入力（P.104）

入力　：AV 入力　S 入力：S ビデオ入力

⓰ 録画状態

● 記録：記録中
● Ⅱ　：記録一時停止中（緑色点灯）静止画撮影時、フォーカスロック（紫色点灯）
表示なし *4

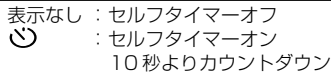
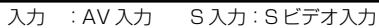
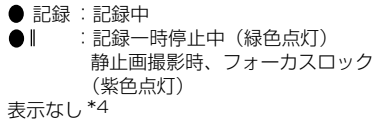
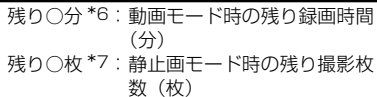
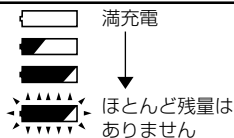
⓱ ディスク／カードの残量 *5

残り○分 *6：動画モード時の残り録画時間（分）
残り○枚 *7：静止画モード時の残り撮影枚数（枚）

⓲ バッテリー残量表示（P.46）

満充電
↓
ほとんど残量はありません

⓳ 音量（P.64）

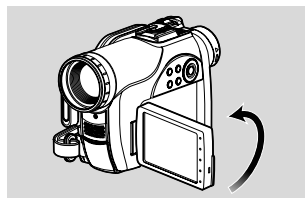
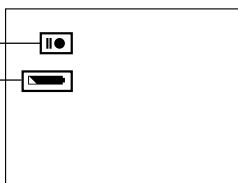
音量の調節は外部入力時と再生時に有効です

＊1：本機では使えないディスクやカードが入っていると表示されません。
＊2：DZ-GX20/MV780 では、動画モードの場合のみ表示されます。
＊3：DZ-MV730 では表示されません。
＊4：ディスクやカードを入れていない状態や、初期化されていないディスク、プロテクトされたディスクやロックされたカード、残量がないディスクやカードが入っている状態のときは表示されません。
＊5：プロテクトされたディスクやカード、ファイナライズした DVD-R は、残量が表示されません。
＊6：XTRA モードで撮影した場合、表示より長く撮影できることがあります。
＊7：表示される枚数は目安です。撮影条件によっては、枚数が減らないことがあります（DVD-R をお使いのときは表示されません）。

### ●画面表示モードを切り替える

「画面表示」ボタンを押して、表示モードを切り替えることができます。
①：すべての情報が表示されます。
②：記録モード・カメラの状態表示が表示されます。
警告がある場合には警告表示されます。
①と②が交互に入れ替わります。

ヒント
- 日付や時刻は映像には録画されません。ただし、データとして記録されていますので、再生時やディスクナビゲーション画面で確認できます。

### ●対面撮影時の画面表示について

液晶モニターには、動作状態が表示されます。
バッテリー残量表示は、バッテリーの残りがほとんどない状態でのみ表示されます。
また、このときのバッテリー表示は点滅表示されます。

対面撮影時は警告／メッセージ表示（☞ P.59）は表示されません。
その代わりに下記の画面表示を点滅して動作状態をお知らせします。
液晶画面を対面撮影状態から 180°回転して元に戻すと、警告／メッセージ表示が確認できます。

### ●対面撮影時の液晶画面上の表示

| 画面表示 | 説　明 |
|---|---|
| (鍵ディスクマーク) | • ディスクプロテクトされたディスクが入っています。<br>• ロックされたカードが入っています。 |
| (カードマーク) | • 使用できないカードが入っています。 |
| (ディスクマーク) | • DVD-R を使って静止画を撮影しようとしています。<br>• 使用できないディスクが入っています。 |
| ● | • 記録中（赤い点灯表示）。<br>• ディスクの残量がほとんどありません（赤い点滅表示）。 |
| II● | • 記録一時停止中（緑の点灯表示）。<br>• フォーカスロック中（紫の点灯表示）。<br>• ディスクまたはカードの残量がほとんどありません（赤い点滅表示）。<br>• ディスクまたはカードの残量がありません（緑の点滅表示）。<br>• コピーガードがかかっている映像を録画しようとしています（緑の点滅表示）。 |

- 液晶画面を対面撮影状態にすると、ビューファインダーでも映像を確認できます。

ご注意
- 対面撮影時の液晶モニターの映像は、鏡のように左右反対に表示されます。
- 対面撮影時でもマニュアルフォーカスや露出、画面表示モードを切り替えることはできますが、画面には表示されません。
- プログラム AE をローライトモードに設定して対面撮影状態にすると、液晶モニターは白く点灯します（☞ P.95）。

# ズームの操作

## 大きく撮る（デジタルズーム）

デジタルズームを設定して本機のズームレバーを「T 側」に倒し続けると、途中から自動的にデジタルズーム（DZ-GX20/MV780 では光学 10 倍、DZ-MV730 では光学 16 倍を超えたところから）になります。倍率は240倍まで設定することができます。

**1** 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「デジタルズーム」を選ぶ

**2** 設定したい倍率を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

ズームレバーを動かすと、デジタルズームバーが表示されます。

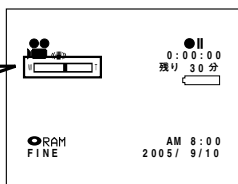
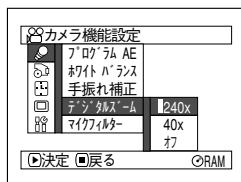
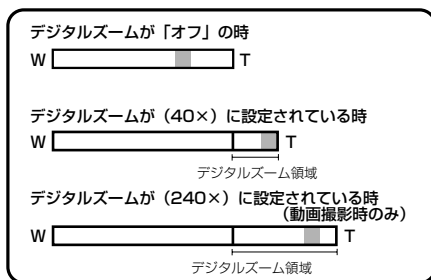
デジタルズームバー

デジタルズームが「オフ」の時
W T

デジタルズームが（40×）に設定されている時
W T
デジタルズーム領域

デジタルズームが（240×）に設定されている時
（動画撮影時のみ）
W T
デジタルズーム領域

カメラ機能設定
プログラム AE
ホワイト バランス
手振れ補正
デジタルズーム 240x
マイクフィルター 40x
オフ
決定 戻る RAM

0:00:00
残り 30 分
RAM
FINE
AM 8:00
2005/ 9/10

ヒント

- デジタルズームの設定は、電源を切っても記憶されています。
- リモコンの「デジタルズーム」ボタンを押しても切り替えることができます。ボタンを押すたびに動画撮影の場合は「オフ」→「40x」→「240x」に、静止画撮影の場合は「オフ」↔「40x」に切り替わります。

ご注意
- 静止画撮影時は、240倍の設定をしても最大40倍までのデジタルズームになります。
- ズームを行なったときに、一瞬ピントがずれることがあります。
- デジタルズームが加わると、画質が粗くなります。

## 至近距離からの撮影（接写）

小さい被写体を至近距離から撮影するときは、レンズ面に約2cmまで近づいて、画面いっぱいに拡大して撮影できます。

**1 被写体に本機を向け、ズームレバーを「W」側いっぱいにする**

ヒント

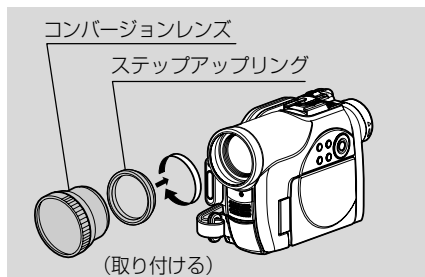
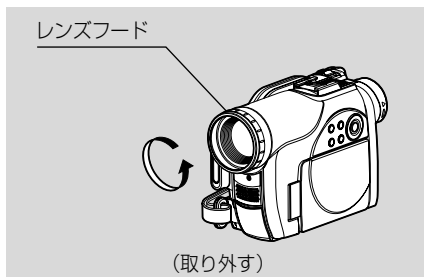
- 接写をするときは光量不足になりがちです。画面が暗いときは、被写体に照明を当ててください。

- ズームは使用できますが、被写体までの距離により、ピントが合わなくなることがあります。

## より広角に、より望遠で撮影する

テレコンバージョンレンズやワイドコンバージョンレンズをお使いになると、より広角に、より望遠で撮影することができます。DZ-GX20/MV730はフィルター径34 mm、ネジピッチ0.5 mmのものを、DZ-MV780はフィルター径30.5 mm、ネジピッチ0.5 mmのものをご使用ください。
別売のテレコンバージョンレンズ（DZ-TL1）やワイドコンバージョンレンズ（DZ-WL1）を装着するときは、別売のステップアップリング（DZ-GX20/MV730用→DZ-SR3437、DZ-MV780用→DZ-SR3037）をお使いください（☞ P.192）。

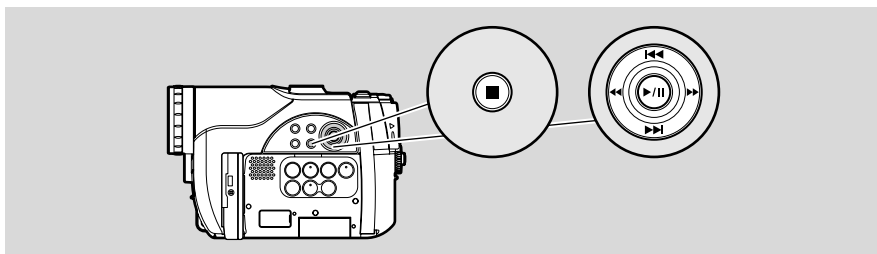
**1 本機のレンズフードを外し、ステップアップリングを取り付ける**

**2 コンバージョンレンズのレンズキャップを外し、ステップアップリングのネジに取り付ける**

- テレコンバージョンレンズ ..................... より望遠で撮影するときにご使用ください。
- ワイドコンバージョンレンズ ................. より広角で撮影するときにご使用ください。

- 取り外したレンズフードは、紛失しないようにご注意ください。
- テレコンバージョンレンズ（DZ-TL1）を装着した場合は、T端（望遠側）のピントの合う範囲が約5mから無限遠の範囲になります。
- コンバージョンレンズを装着した場合は、ズームしたときにW側（広角側）で多少画面の四隅が暗くなることがあります。
- レンズを交換する際に、本機が落下しないようご注意ください。
- 市販のフィルターなどを取り付けたときには、取り外したレンズフードを取り付けないでください。
- コンバージョンレンズを装着した場合、内蔵ビデオフラッシュは使用できなくなります(DZ-GX20)。「フラッシュ」の設定は「オフ」にしてください（☞ P.83）。

# 再生する

**始める前に**

- 本機で録画したディスクまたはカードを入れてください（☞ P.56、58）。
- 電源を入れてください（☞ P.49）。

RAM　R　カード

## 再生する

**1** **記録一時停止状態のときに ▶/II を押す**

最後に撮影したシーンが再生されます（「シーン」については、P.113、P.199「用語解説」を参照してください）。
再生が終わると、最後の場面で再生一時停止状態になります。
最後の場面で再生一時停止状態が約５分続くと、自動的に記録一時停止状態に戻ります。

**2** **■（停止／キャンセル）ボタンを押す**

再生を停止します。
記録一時停止状態に戻ります。

 ヒント

- 動画を再生中は、スピーカーから再生中の音声を聞くことができます。音量は、「音量」ボタンの ⊖ ⊕ で調節してください。
- 再生を一時停止するときは、▶/II を押します。もう一度押すと、再生に戻ります。
- 再生を途中で止めて撮影をしても、最後のシーンのあとに記録します（上書きしてしまうことはありません）。

ご注意

- パソコンなどで編集した画像データや画像データの種類によっては、記録した画像が表示されなかったり、記録した音声が再生されなかったりすることがあります。
- 他のDVDカメラやDVDレコーダーで録画した画像データは、本機で再生されない場合があります。
- 再生するデータのサイズによっては、再生画像を表示するまでに時間がかかる場合があります。
- アクセスランプが点灯または点滅しているときに、電源操作やカードの取り出しなどを行なった場合、カードの破損やカード内のデータが破壊されることがあります。

RAM R カード

## ディスクやカードの先頭から再生する

ディスクやカードの最初から再生したい場合は、ジャンプ機能（☞ P.67）やディスクナビゲーション機能（☞ P.113）をお使いください。

RAM R

## 動画のサーチ再生

再生中に ▶▶ または ◀◀ を押し続けると、サーチ再生をします。
▶▶ を押し続ける ..................... 早送り再生します。
◀◀ を押し続ける ..................... 早戻し再生します。
見たい場面になったら、◀◀／▶▶ から手を離してください。
そこから通常の再生になります。

RAM R

## 動画のコマ送り／コマ戻し／スロー再生

**再生中、▶/II を押して再生一時停止状態にします。**
◀◀／▶▶ を押すと、コマ送り／コマ戻し／スロー再生をします。
▶▶ を 1 回押す ................. 映像がひとコマ進みます。
◀◀ を 1 回押す ................. 映像がひとコマ戻ります。
▶▶ を押し続ける ............. 正方向にスロー再生します。
◀◀ を押し続ける ............. 逆方向にスロー再生します。
コマ送り／コマ戻し／スロー再生を行なったあとは、再生一時停止状態になります。

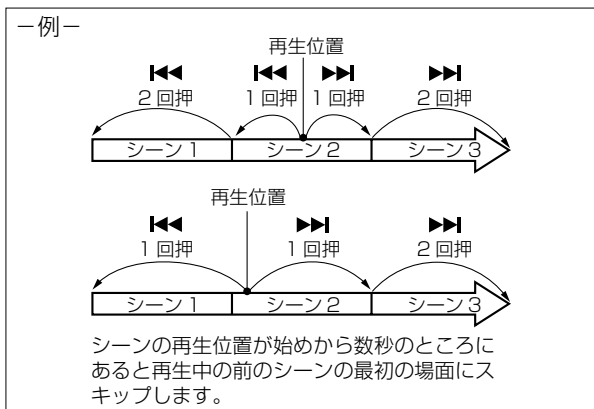
- スロー再生では、動きの激しい被写体の画像がブレることがあります。
- コマ送り／コマ戻し／スロー再生の間隔は以下のようになっています。
  正方向コマ送りとスロー：約 0.03 秒ごと
  逆方向コマ送りとスロー：約 0.5 秒ごと
- サーチ再生／スロー再生中は、音声は出ません。

RAM R

## 動画のスキップ再生

再生中に ⏮／⏭ を押すと、シーンのスキップ再生をします。

⏭ を 1 回押す .............. 再生中のシーンの次のシーンの先頭にスキップして、再生します。

⏮ を 1 回押す .............. 再生中のシーンの先頭に戻って再生します。

⏭ を押し続ける ........... 再生中の次のシーンから、連続頭出しが始まります。見たい場面が表示されたら、⏭ から手を離してください。再生が始まります。

⏮ を押し続ける ........... 再生中の前のシーンから逆方向に、連続頭出しが始まります。見たい場面が表示されたら、⏮ から手を離してください。再生が始まります。

ヒント

- 正常に動作しない（☞ P.201「チェック 3」）。

ご注意
- 再生一時停止中にスキップ再生すると、スキップしたシーンで再生一時停止状態になります。
- 最後のシーンで下に動かすと、最後の場面で再生一時停止状態になります。

RAM カード

## 静止画の再生

**再生中、⏮／⏭ を押すと、スキップ再生します。**

⏭ を 1 回押す ............... 順番に 1 画面ずつ表示します。

⏮ を 1 回押す ............... 1 画面ずつ戻って表示します。

**[ディスクをお使いのとき]**

⏮／⏭ から手を離したところから、連続再生します。

**[カードをお使いのとき]**

⏮／⏭ から手を離したところの画像が表示され、再生一時停止状態になります。連続表示させたい場合は、スライドショーを設定してください（☞ P.155）。

RAM　R　カード

## 指定した場面へジャンプする（ジャンプ）

**1　再生時に「メニュー」ボタンを押す**

**2　ジャンプしたい項目を選び、▶/IIを押して決定する**

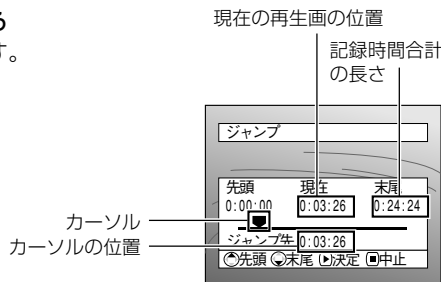
先頭：ディスクの先頭にジャンプして、再生一時停止します。

末尾：最後のシーンの末尾にジャンプして、再生一時停止します。

指定：任意の場面にジャンプして、再生一時停止します。詳細は下記を参照してください。

### ●ジャンプ先を指定する

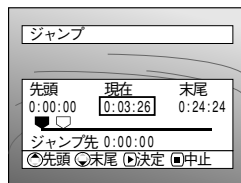
**1　上の手順で「指定」を選び、決定する**

ジャンプ先指定の画面が表示されます。

**2　⏮／⏭／⏪／⏩ で任意の時間を選ぶ**

⏮ を押す ..... ディスクの先頭を選択します。

⏭ を押す .... 最後のシーンの末尾を選択します。

⏪／⏩ ........... ・1 回押す　：10秒(カードは1枚）単位でカーソルを移動します。

・押し続ける：1分(カードは10枚）単位でカーソルを移動します。

（シーンの先頭を選択した場合）

**3　▶/II を押して決定する**

指定した位置にジャンプして、再生一時停止します。

▶/II をもう 1 回押すと、再生を開始します。

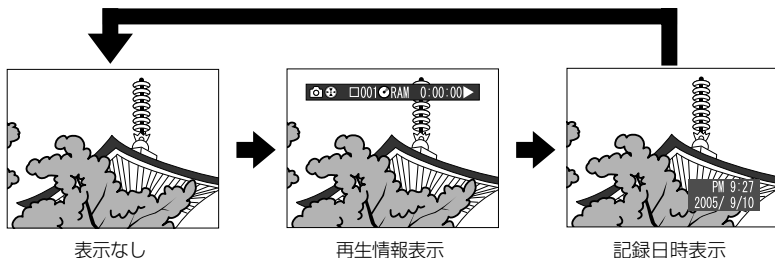
ヒント

- ディスクナビゲーション機能や「選択」ボタンを使って複数シーンを選択している場合は、「先頭へ」と選んだとき、選択しているシーンの先頭へジャンプします（☞P.146）。
- 複数シーンを選択している場合は、「記録時間合計」の長さは、選択したシーンの合計時間の長さが表示されます。
- 途中でやめたい場合は、ジャンプする前に■(停止／キャンセル）ボタンを押してください。
- カードの場合は、先頭、現在、末尾、ジャンプ先の表示部に枚数が表示されます。

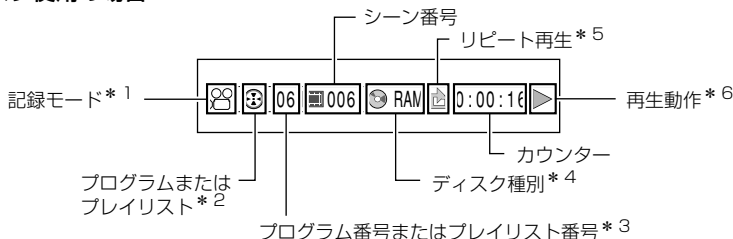
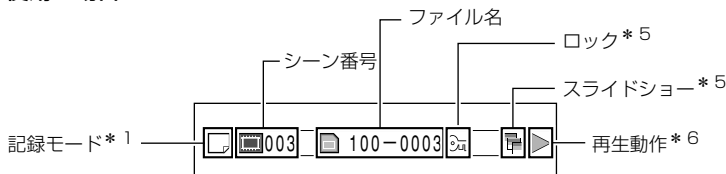
ご注意　• カーソルの位置は目安です。カーソルは同じ間隔で移動しない場合があります。

# 画面表示について

## 再生時の表示について

再生する映像に重なって、いろいろな情報が表示されます。
「画面表示」ボタンを押すごとに、下記のように切り替わります。

### ●画面表示モード

再生情報表示：再生中の状態を表示します。

**ディスク使用の場合**

**カード使用の場合**

＊1　ディスクのときは、：動画または：静止画
　　カードのときは、：静止画のみ表示されます。
＊2　：プログラムまたは：プレイリスト
＊3　再生中のプログラムやプレイリスト番号（全プログラムを再生中は表示されません）
＊4　P.60 のディスク種別を参照ください。
＊5　設定されているときに表示されます（P.127、154、155）。
＊6　▶：再生中　❚❚：再生一時停止中　▶▶：正方向サーチ再生中
　　◀◀：逆方向サーチ再生中　▶▶❚：正方向スキップ再生中　❚◀◀：逆方向スキップ再生中
　　❚❚▶：正方向コマ送り再生中　◀❚❚：逆方向コマ送り再生中
　　操作のしかたは P.64 からの「再生する」を参照してください。
　　最初の場面では ❚◀ マークが表示されます。
　　最後の場面では ▶❚ マークが表示されます。

・　記録日時表示：記録始めの日時が表示されます。再生しても、日時表示は進みません。
・　表示なし：再生中の画面には何も表示されません。ただし、再生動作を切り替えたときは、再生動作のマークが約３秒間表示されます。

ヒント

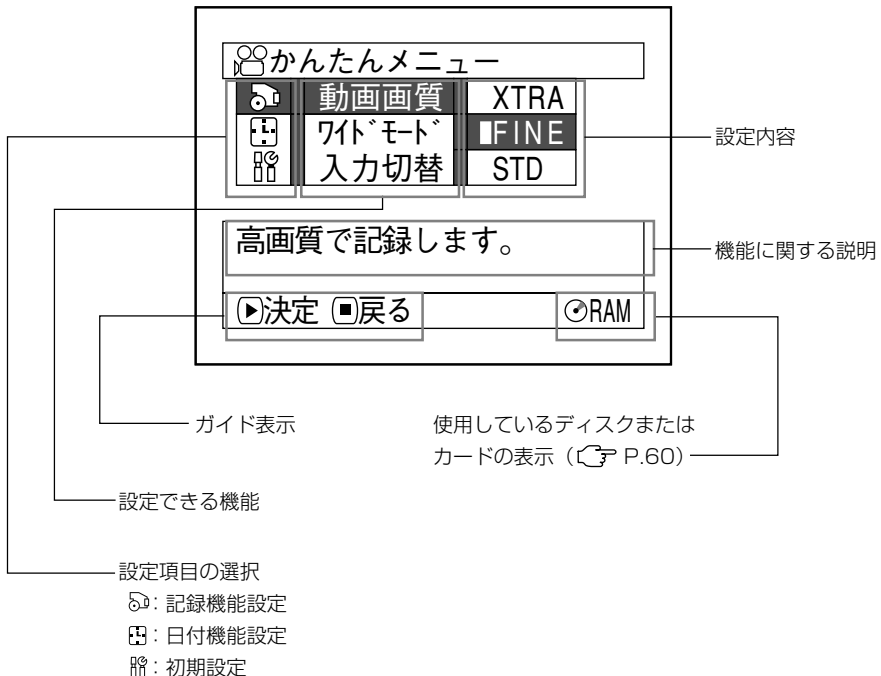
- プログラムやプレイリストについてはP.113からの「ディスクナビゲーション機能を使う」を参照してください。

# かんたんメニューの流れを確認する

本機のメニューには、二通りの表示方法があります。
・かんたんメニュー：基本的な項目だけを表示する初心者向けのメニュー
・通常メニュー：すべての項目を表示する使い慣れた方向けのメニュー（☞ P.92）

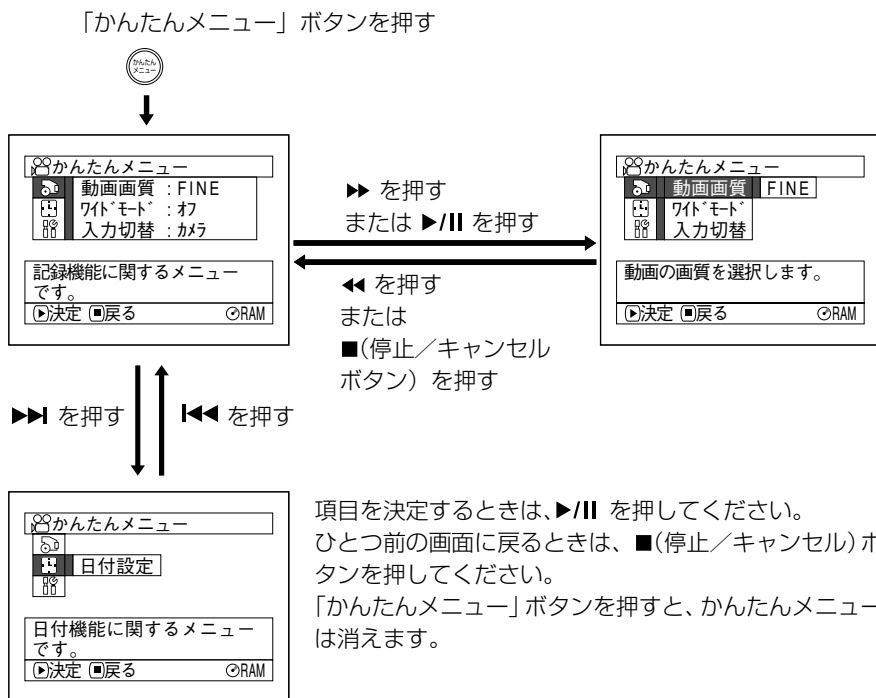
## カメラ編

カメラの画像が液晶モニターに表示されているときにかんたんメニューボタンを押すと、かんたんメニューが表示されます *。
かんたんメニューでは、基本的な機能の項目のみが表示され、カーソルが選択している機能に関する説明がメニュー下部に表示されます（通常メニューでは機能に関する説明は表示されません）。
項目を選択するときは、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を押します。決定するときは、▶/II を押してください。
設定方法は、次のページをご覧ください。
* 録画中、メニューは表示されません。

### 〈メニュー画面の見かた〉

## ●メニュー操作

メニューのなかのいろいろな設定は、本機の I◀◀／▶▶I／◀◀／▶▶／▶/II を使って選択／決定することができます。

「かんたんメニュー」ボタンを押す

項目を決定するときは、▶/II を押してください。
ひとつ前の画面に戻るときは、■(停止／キャンセル)ボタンを押してください。
「かんたんメニュー」ボタンを押すと、かんたんメニューは消えます。

通常メニュー（☞ P.92）やディスクナビゲーションメニュー（☞ P.118）も、同様の操作で選択／決定してください。

- 録画中に「かんたんメニュー」ボタンを押しても、動作しません。
- メニュー表示は、約 1 分間操作しないと消えます。

# 動画撮影のときのかんたんメニューの流れ

RAM R

ここでは、DVD-RAM を使用したときのメニューを表示しています。
各機能の詳細については、通常メニューで説明しています。各参照ページをご覧ください。

RAM

# 静止画撮影のときのかんたんメニューの流れ（ディスク）

ここでは、DVD-RAM を使用したときのメニューを表示しています。
各機能の詳細については、通常メニューで説明しています。各参照ページをご覧ください。

• **記録機能設定**

かんたんメニュー
入力切替 :カメラ
セルフタイマー :オフ
記録機能に関するメニューです。
決定 戻る RAM

かんたんメニュー
入力切替 カメラ
セルフタイマー
入力する映像を選択します。
決定 戻る RAM

(☞ P.104)

かんたんメニュー
入力切替 カメラ 外部 S外部
セルフタイマー
カメラ撮影に設定します。
決定 戻る RAM

かんたんメニュー
入力切替
セルフタイマー オフ
セルフタイマーの設定をします。
決定 戻る RAM

(☞ P.106)

かんたんメニュー
入力切替
セルフタイマー オン オフ
セルフタイマーを解除します。
決定 戻る RAM

• **日付機能設定**

かんたんメニュー
日付設定
日付機能に関するメニューです。
決定 戻る RAM

(☞ P.41)

かんたんメニュー
日付設定 2005/ 9/10 AM 8:00
日付と時刻の設定をします。
決定 戻る RAM

• **初期設定**

かんたんメニュー
言語切替 :日本語
デモモード :オート
設定リセット
初期設定メニューです。
決定 戻る RAM

かんたんメニュー
言語切替 日本語
デモモード
設定リセット
表示言語を選択します。
決定 戻る RAM

(☞ P.112)

かんたんメニュー
言語切替 日本語 English
デモモード
設定リセット
表示言語を選択します。
決定 戻る RAM

かんたんメニュー
言語切替
デモモード オート
設定リセット
デモモードの設定をします。
決定 戻る RAM

(☞ P.196)

かんたんメニュー
言語切替 オート オフ スタート
デモモード
設定リセット
電源を入れて3分後に始まります。
決定 戻る RAM

(☞ P.112)

かんたんメニュー
言語切替
デモモード
設定リセット
日付以外のメニュー設定を初期状態に戻します。
決定 戻る RAM

• DVD-R では、静止画は記録できません。

# 静止画撮影のときのかんたんメニューの流れ（カード）

各機能の詳細については、通常メニューで説明しています。各参照ページをご覧ください。

## ディスクナビゲーション編

ディスクナビゲーション画面が液晶モニターに表示されているときにかんたんメニューボタンを押すと、かんたんメニューが表示されます。
かんたんメニューでは、基本的な機能の項目のみが表示され、カーソルが選択している機能に関する説明がメニュー下部に表示されます。

**1** 「ディスクナビゲーション」ボタンを押す

**2** シーンを選び、「かんたんメニュー」ボタンを押す

RAM

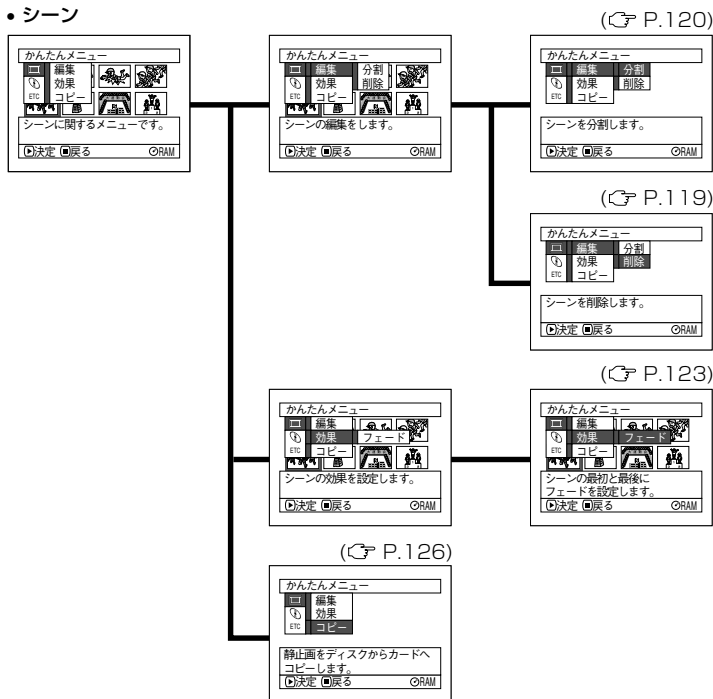
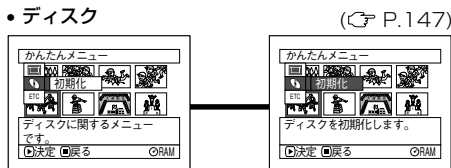
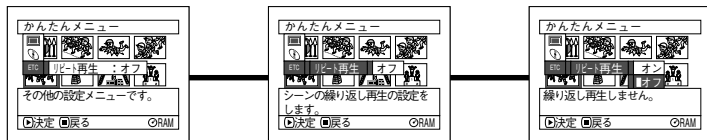
# かんたんメニューの流れ（DVD-RAMディスク）

各機能の詳細については、通常メニューで説明しています。各参照ページをご覧ください。

- シーン

- ディスク

(☞ P.147)

かんたんメニュー
初期化
ディスクに関するメニューです。
決定 戻る RAM

かんたんメニュー
初期化
ディスクを初期化します。
決定 戻る RAM

- **その他の設定**

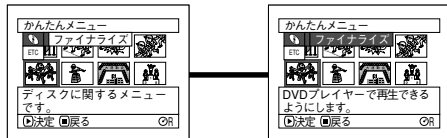
（☞ P.154）

R

## かんたんメニューの流れ（DVD-R ディスク）

各機能の詳細については、通常メニューで説明しています。各参照ページをご覧ください。

- **ディスク**

（☞ P.152）

- **その他の設定**

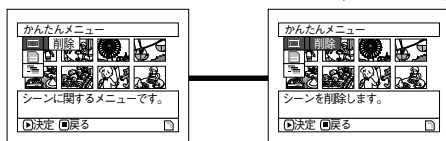
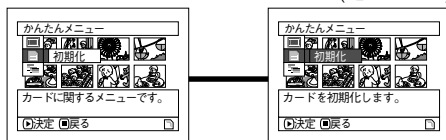
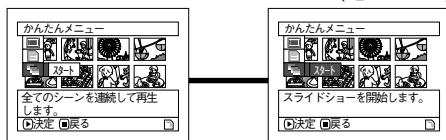
（☞ P.154）

ご注意
- ファイナライズ済みの DVD-R では、ファイナライズは表示されません。

カード

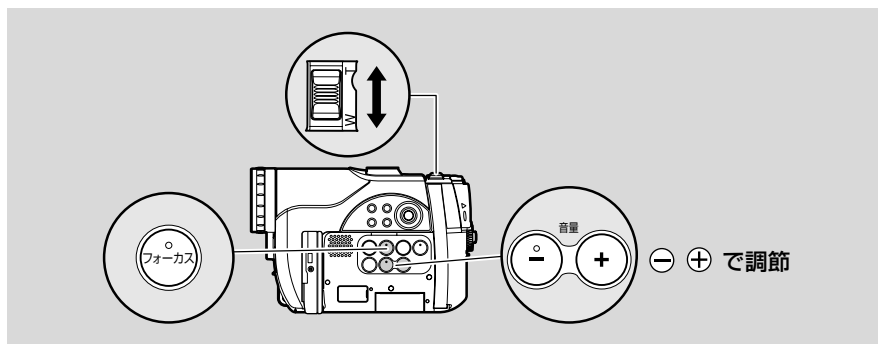
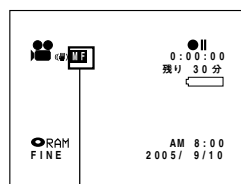
# かんたんメニューの流れ（カード）

各機能の詳細については、通常メニューで説明しています。各参照ページをご覧ください。

(☞ P.119)

(☞ P.147)

(☞ P.155)

# ピントを手動で合わせる(マニュアルフォーカス)

通常は、ピントが自動で合うようになっています（オートフォーカス)。
撮影状況に応じて、ピントを手動で合わせることができます（マニュアルフォーカス)。

## ●ピントの合う範囲

・ T側（望遠側）では、レンズ面より約1mから無限遠
・ W側（広角側）では、レンズ面より約2cmから無限遠

**1 撮影時に、「フォーカス」ボタンを押す**
画面に「MF」と表示されます。
「フォーカス」ボタンを押すたびに、「マニュアルフォーカス」と「オートフォーカス」が切り換わります。「オートフォーカス」のときは、画面には何も表示されません。

マニュアルフォーカスの表示

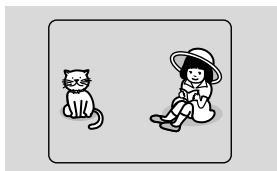
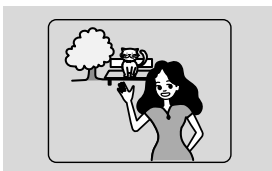
**2 ズームレバーを「T」側に倒す**
被写体を大きく写します。

**3 ⊖ ⊕ ボタンでピントを調整する**
ビューファインダーや液晶モニターで映像を確認しながら調整してください。

ご注意
• ピントを手動で合わせるときは、必ず被写体を大きく写して行なってください。W側のほうでピントを合わせると、T側にしたときにピントがずれることがあります。

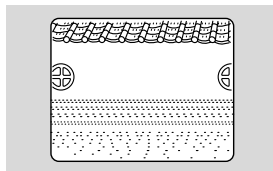
ヒント

• マニュアルフォーカスの設定は、電源を切ると「オート」に戻ります。

オートフォーカス使用時に、次のようなときは、ピントが合わないことがありますので、手動でピントをあわせてください。

①中央に被写体がないとき

②遠くと近くの両方に被写体があるとき

③ネオンサインやスポットライトなど、輝いたり、強い光が反射するもの

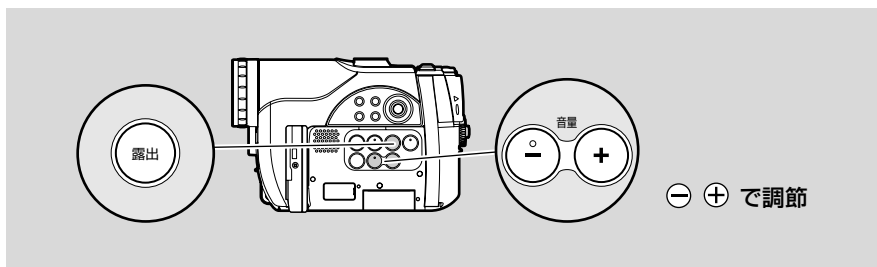
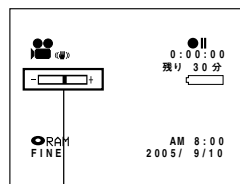
④ 水滴や汚れの付いたガラス越しの被写体

⑤ 動きの速い被写体

⑥白い壁など明暗差がほとんどない被写体

⑦ 暗い被写体

⑧ 夜景

# 撮影画像の明るさを調整する（露出）

通常は、自動で露出を調整するようになっています。撮影状況に応じて、手動で露出を調整することもできます。

**1** **撮影時に、「露出」ボタンを押す**
画面に露出バーが表示されます。

露出バー

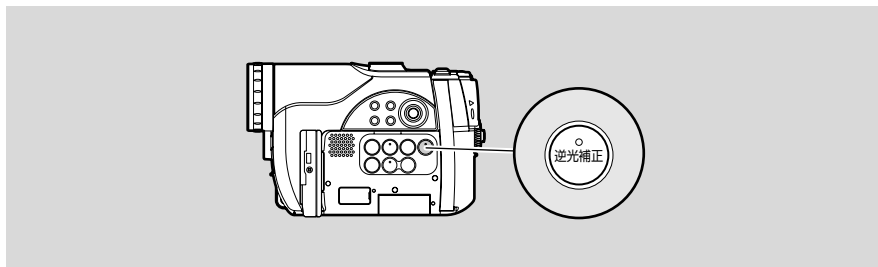
**2** **⊖ ⊕ ボタンで調整する**
ビューファインダーや液晶モニターで映像を確認しながら、調整してください。

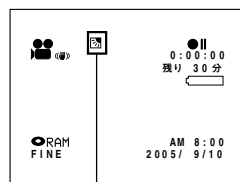
ヒント

- 「露出」ボタンを押すたびに、手動調整と自動調整が切り替わります。自動調整のときは、画面には何も表示されません。
- 露出の設定は、電源を切ると自動調整に戻ります。

RAM R カード

# 逆光を補正する

逆光のとき、被写体が暗くならないように補正できます。

**1** **撮影時に「逆光補正」ボタンを押す**

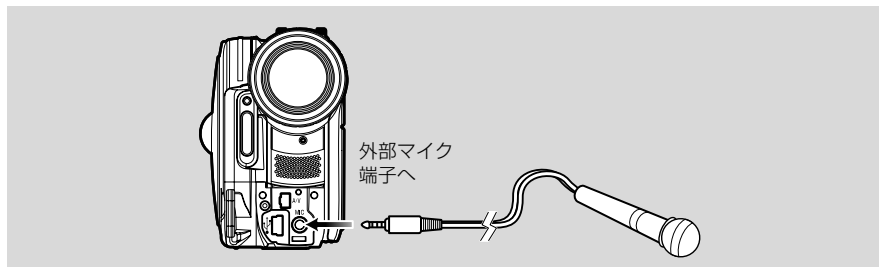
逆光補正アイコンが表示されます。

逆光補正アイコン

ヒント

- 「逆光補正」ボタンを押すたびに、オン／オフが切り替わります。
- 「逆光補正」の設定は、電源を切ると「オフ」に戻ります。

# 外部マイクを使う

市販の外部マイクを接続して録画すると、よりクリアな音声で録画できます。市販の外部マイクを、本機の外部マイク接続端子に接続します。外部マイクのスイッチを入れてから録画を開始してください。

使用できる外部マイクについては「主な仕様」（☞ P.218）を参照してください。

- ご使用の外部マイクのプラグの形状によってはAV／S入出力ケーブルをAV／S入出力端子に差したままではご使用できない場合があります。
  そのような場合には、AV／S入出力ケーブルを抜いて外部マイクをご使用してください。
- プラグインパワータイプ（カメラから電源を供給するタイプ）のマイクはご使用できません。

RAM カード

# ビデオフラッシュについて

## ●内蔵ビデオフラッシュ（DZ-GX20 のみ）

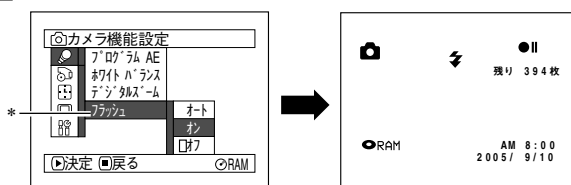
薄暗いところや逆光時の静止画撮影をするときは、自動的にフラッシュが発光したり、明るさにかかわらず常時フラッシュが発光するようにしたり、暗いところでもフラッシュを使わずに撮影することもできます。

| 設定 | 画面表示 | 発光方法 |
| --- | --- | --- |
| オート (AUTO) | フラッシュが必要な場面で「フォト」ボタンを押すと ⚡ | 薄暗いところや逆光時に自動的に発光します |
| オン (ON) | ⚡ | 明るさにかかわらず、常に発光します |
| オフ (OFF) | ⚡（オフ） | 発光しません |

（　）内は別売ビデオフラッシュの設定

**1** 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「フラッシュ」を選ぶ

**2** フラッシュの設定を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

*DZ-GX20の静止画のときに表示されます（別売ビデオフラッシュが接続されているときは表示されません）。

## ●別売ビデオフラッシュ

本機では別売のビデオフラッシュ（DZ-FLH3）（☞ P.192）を使用して、静止画撮影をすることができます。使いかたは別売のビデオフラッシュの取扱説明書をご覧ください。

• DZ-MV730 では、別売のビデオフラッシュをご使用になれません。

- 内蔵ビデオフラッシュの設定は、電源を切っても変わりません。いつも決まった設定で撮影するのでなければ、「オン」や「オフ」に変更して撮影したあとは、「オート」に戻してから電源を切ることをおすすめします。
- 暗いところで撮影する場合は、シャッタースピードが遅くなるので、手振れにご注意ください。特にフラッシュを使わない場合は、手振れしやすくなります。
- ビデオフラッシュを使用しても薄暗いところでは、ピントが合わないことがあります。薄暗いところでの撮影には、ライトで被写体に光を当てることをおすすめします。
- 充電中は「 」が点滅します。
- 「 」表示の点滅中は撮影しても発光しません。

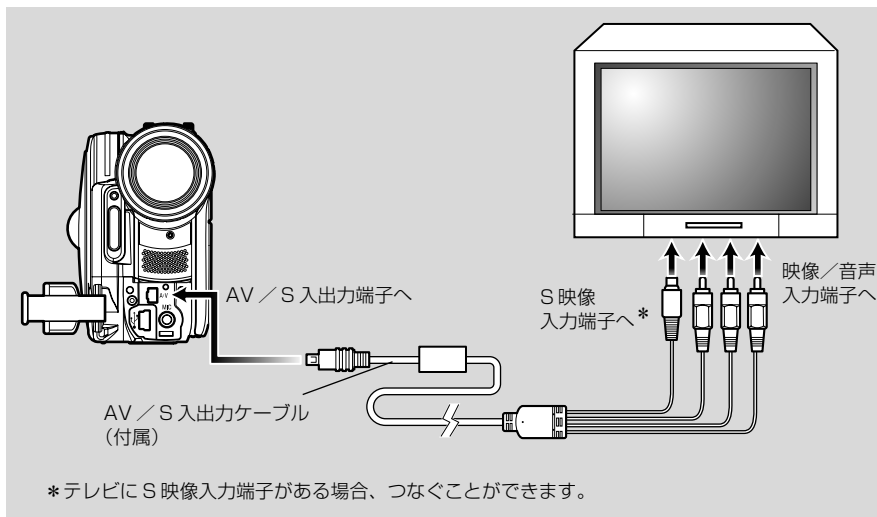
- 内蔵ビデオフラッシュは、コンバージョンレンズを装着している場合、使用できません。「フラッシュ」の設定は「オフ」にしてください（P.63）。
- 内蔵ビデオフラッシュは、被写体によって異なりますが、適正な光量調整ができる距離は、約 1m ～ 2.5m 程度です。
- フラッシュは、発光時に自動的に光量の調整を行いますが、被写体までの距離が遠いときや近いときには、光量調整が十分にできないことがあります。
- 静止画を接写するときは、フラッシュは「オフ」に設定してください。被写体が近すぎると白とびするおそれがあります。
- ビデオフラッシュを人の目の前に近づけて使用しないでください。目の近くで発光させると視力障害を起こす危険があります。特に乳幼児を撮影するときには 1m 以上離れてください。
- 自動車内の運転者に向けてビデオフラッシュを使用しないでください。運転者に向けてビデオフラッシュを使用すると目がくらみ事故を起こす原因になります。
- 可燃性、爆発性ガスのある場所でビデオフラッシュを使用しないでください。引火、爆発の原因になります。
- DZ-GX20 の場合、DZ-FLH3 を取りつけると内蔵フラッシュは動作しません。

RAM　R　カード

# テレビで見る

## テレビにつなぐ

付属のAV／S入出力ケーブルを使って本機とテレビを下の図のように接続します。

ヒント

- S端子を使うと、よりきれいな映像をお楽しみいただけます。

ご注意
- 接続する前に、必ずテレビの音量が下がっていることを確認してください。テレビのスピーカーから「ピーッ」という音（ハウリング☞ P.199「用語解説」）が出ることがあります。
- AV／S入出力ケーブルはななめに差し込むと端子を破損するおそれがあります。まっすぐに差し込んでください。

## テレビで見る

**1 テレビの電源を入れ、テレビの入力切替を「ビデオ」にする**

テレビの入力切替の方法は、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

**2 本機の電源スイッチを入れる**

本機の映像がテレビに表示されます。
同時に本機の液晶モニターまたはビューファインダーでも映像を確認できます。

**3 再生や撮影、編集を行なう**

再生や撮影、ディスクナビゲーションでの編集など、テレビ画面で確認しながら操作できます。

- 音量の調整はテレビ側で行なってください。
- テレビで見ながら操作するときはリモコンを使うと便利です。ただし、当社製のビデオデッキをお使いの場合は、本機のリモコンで動作することがあるので、その場合はビデオのリモコンコードを「VTR2」以外に変更してお使いください。
- テレビの画面に再生中や録画中の情報も表示されますが、録画中の情報のみ表示しないようにすることもできます。P.107の「画面表示出力」の設定をご覧になり、切り替えてください。

ご注意

- 複製禁止（コピーガード）処理されたディスクを再生すると、テレビに映像は表示されません。
- ワイドテレビ（画面比率16：9）をお使いで、テレビの設定がワイドモードに設定してあるとき、ディスクナビゲーション画面を表示すると表示が画面に収まらない場合があります。テレビのワイドモードの設定を解除してください（設定の方法はテレビの取扱説明書をご覧ください）。

RAM R

# DVD レコーダー／プレーヤーで見る

## DVD-RAM の場合

本機で記録したDVD-RAMは8cmDVD-RAM対応のDVDレコーダー（☞ P.198「用語解説」）や、8cmDVD-RAM対応のDVDプレーヤー（☞ P.198「用語解説」）で再生できます。

**1 DVD レコーダー／プレーヤーに入れて再生する**
DVD レコーダー／プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

- 他の機器で再生するときは、本機のディスクナビゲーション表示とは異なることをご了承ください。

## DVD-R の場合

**1 DVD-R をファイナライズする**
DVD プレーヤーで見るには「ファイナライズ」（☞ P.199「用語解説」）が必要です。P.152 をご覧ください。
ファイナライズしたディスクには、記録することができません。
本機で記録したディスクは、本機でファイナライズしてください。

**2 DVD プレーヤーに入れて再生する**
DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

- ファイナライズしていないDVD-RはDVDレコーダーに入れないでください。ディスクが使えなくなる場合があります（本機の未ファイナライズディスクの再生機能がある機器を除く）。
- 他社製のDVDレコーダーなどで記録した、ファイナライズしていないDVD-Rを本機に入れないでください。ディスクが使えなくなる場合があります。
- 本機で記録したDVD-Rは、DVDプレーヤーや他の8cmDVD-R対応機器での再生に対応しておりますが、すべての再生を保証するものではありません。
ご使用いただくDVDプレーヤーやDVD-Rの記録状態によっては、再生できない場合もあります。この場合、DVD-Rは本機で再生してください。また、DVDプレーヤーで再生した場合、シーンの間で一瞬止まることがあります。

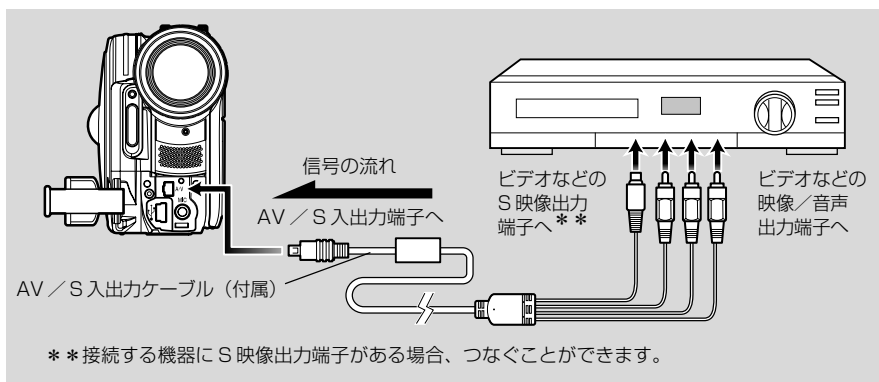
RAM カード

# 映像を録画（ダビング）する

始める前に

- 本機と他の機器を接続するときは、両方とも電源を切って接続してください。
- 本機に記録可能なDVD-RAMまたはカード*を入れてください（☞ P.29、32）。
  *静止画のみ記録できます。動画の記録はできません。

## 他のビデオ機器から録画（ダビング）する

他のビデオ機器から本機のディスクまたはカードに録画（ダビング）することができます。付属のAV／S入出力ケーブルを使って、本機と他のビデオ機器を下図のように接続します。

＊＊接続する機器にS映像出力端子がある場合、つなぐことができます。

**1 本機の入力切替を「外部」にする**
P.104「入力切替」を参照して、切り替えてください。
S入力をする場合は、「S外部」にしてください。

**2 接続した機器の電源を入れ、再生を開始する**
本機の液晶モニターに映像が映ります。

**3 本機の「録画」ボタンを押す**
本機で録画が始まります。
録画するときの操作方法は、「動画を撮る」と同じです（☞ P.56）。
静止画を記録する場合は「フォト」ボタンを押してください。

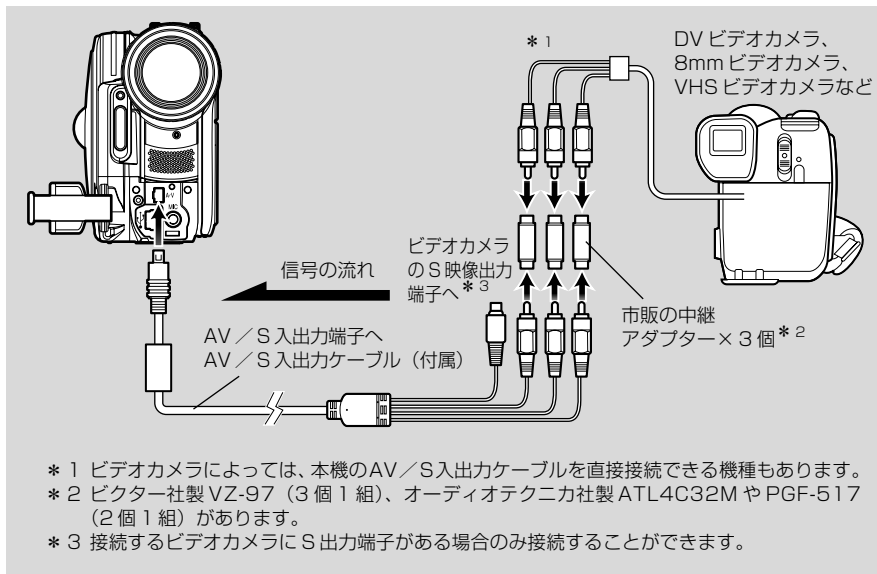
- S端子を使うと、よりきれいな映像をお楽しみいただけます。
- スピーカーより音声がでます（音量が大きいと映像にノイズが入る場合があります）。
- 「入力切替」の設定は、電源を切ると「カメラ」に戻ります。

ご注意

- 他の機器から本機に録画中に途中で電池が切れないよう、必ずACアダプター／チャージャーを使って、コンセントから電源をとってください。
- 当社製のビデオデッキをお使いの場合は、本機のリモコンで動作することがあります。当社製のビデオデッキから映像を録画する場合は、ビデオのリモコンコードを「VTR2」以外に変更してお使いください。
- 録画した内容は、カメラで撮影した映像を再生するときと同様に再生することができます。
- 個人でビデオカメラに撮影した映像以外は、ほとんどの場合が著作権保護のための複製禁止信号（コピーガード信号）により録画が禁止されています。本機では“記録はできません”と表示され、録画できません。

  DVDビデオ・LD・ビデオソフトテープ・デジタル衛星放送（一部）などが著作権保護された代表的な映像です。
- 個人でビデオカメラに撮影した映像など複製禁止信号のない映像であっても、信号の状態によっては正常に録画できないことがあります。
- 記録中にテレビなどのチャンネルを切り替えたり、ビデオセレクター（☞ P.199「用語解説」）などで信号を切り替えたりして入力信号が途切れると、正常に録画できません。
- CPRM対応のディスクを使っても、本機で「1回だけコピー可能」の映像を記録することはできません。

## 他のビデオカメラから録画（ダビング）する

他のビデオカメラから本機のディスクまたはカード*に録画（ダビング）することができます。
付属のAV／S入出力ケーブルを使って、本機と他のビデオカメラを下図のように接続します。
*静止画のみ記録できます。動画の記録はできません。

＊1 ビデオカメラによっては、本機のAV／S入出力ケーブルを直接接続できる機種もあります。
＊2 ビクター社製VZ-97（3個1組）、オーディオテクニカ社製ATL4C32MやPGF-517（2個1組）があります。
＊3 接続するビデオカメラにS出力端子がある場合のみ接続することができます。

**1 本機の入力切替を「外部」にする**
P.104「入力切替」を参照して、切り替えてください。
S入力をする場合は、「S外部」にしてください。

**2 接続した機器の電源を入れ、再生を開始する**
本機の液晶モニターに映像が映ります。

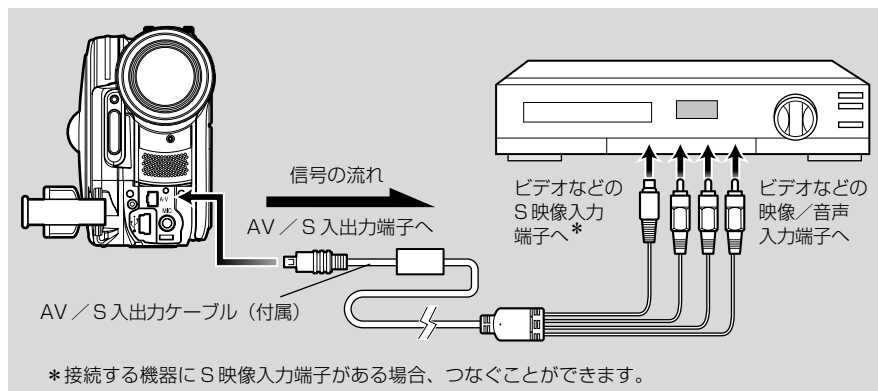
**3 本機の「録画」ボタンを押す**
本機で録画が始まります。
録画するときの操作方法は、「動画を撮る」と同じです（☞ P.56）。

ヒント

- S端子を使うと、よりきれいな映像をお楽しみいただけます。
- スピーカーより音声がでます（音量が大きいと映像にノイズが入る場合があります）。
- DVD-RAMやカードをお使いになると、静止画の録画ができます。詳細については、P.105の（静止画外部入力）を、操作のしかたについては、P.58の「静止画を撮る」を参照してください。

## 他のビデオ機器に録画（ダビング）する

本機で再生して他のビデオ機器に録画（ダビング）することができます。
付属のAV／S入出力ケーブルを使って、本機と他のビデオ機器を下図のように接続します。

＊接続する機器にＳ映像入力端子がある場合、つなぐことができます。

**1** 「ディスクナビゲーション」ボタンを押す

**2** 再生したいシーンを選ぶ

**3** 接続したビデオ機器のチャンネルを外部入力に合わせる

**4** 本機の再生ボタンと接続した機器の録画ボタンを押す
本機で再生が始まり、接続した機器に録画（ダビング）されます。

- S 端子を使うと、よりきれいな映像をお楽しみいただけます。
- スピーカーより音声がでます（音量が大きいと映像にノイズが入る場合があります）。
- ディスクナビゲーション機能のプレイリストで、あらかじめ本機で録画したシーンの中からダビングしたいシーンを集めたリストを作成すると便利です（☞ P.135）。

ご注意
- 本機から他のビデオ機器に録画中に途中で電池が切れないよう、必ずACアダプター／チャージャーを使って、コンセントから電源をとってください。
- 当社製のビデオデッキをお使いの場合は、本機のリモコンで動作することがあります。本機から当社製のビデオデッキ映像を録画（ダビング）する場合は、ビデオのリモコンコードを「VTR2」以外に変更してお使いください。

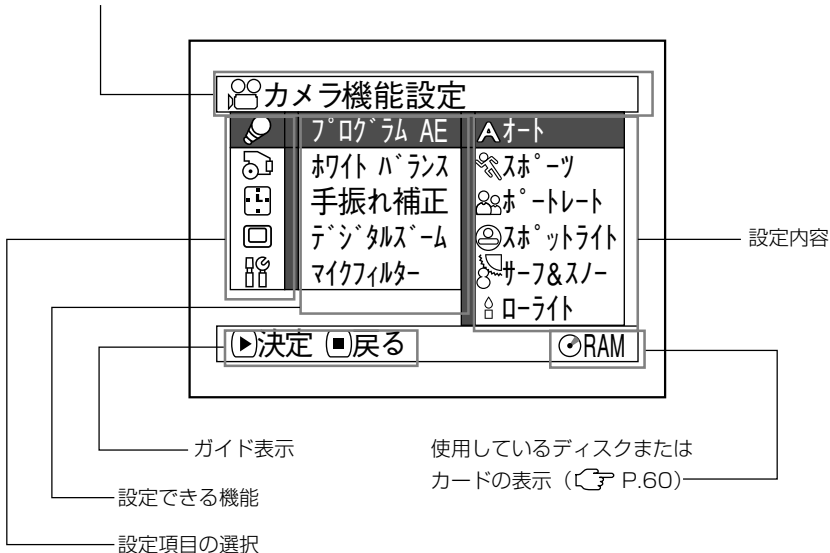
# 通常メニューの流れを確認する

本機のメニューには、二通りの表示方法があります。
・かんたんメニュー：基本的な項目だけを表示する初心者向けのメニュー（☞ P.70）
・通常メニュー：すべての項目を表示する使い慣れた方向けのメニュー

## カメラ編

カメラの画像が表示されているときにメニューボタンを押すと、通常メニューが表示されます *。
項目を選択するときは、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を押します。決定するときは、▶/II を押してください。
設定方法については、P.71 をご覧ください。
ここで説明している画面はDVD-RAMを使用したときのメニューです。DVD-Rやカードをご使用のときや、ディスクが入っていないときは表示されない項目もあります。
* 録画中、メニューは表示されません。

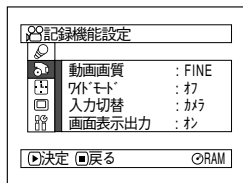
### 〈メニュー画面の見かた〉

設定項目の選択
：カメラ機能設定
：記録機能設定
：日付機能設定
：LCD ／ EVF 設定
：初期設定

## ●通常メニューの流れ

内容の詳細については、各参照ページをご覧ください。

### • カメラ機能設定（外部入力のときは、表示されません）*8

プログラム AE (P.94)
ホワイトバランス (P.96)
手振れ補正 *1 (P.98)
デジタルズーム (P.62)
マイクフィルター *2 (P.99)
フラッシュ *3 (P.83)

### • 記録機能設定

動画画質 *4 (P.100)
ワイドモード *5 (P.101)
入力切替 (P.104)
静止画外部入力 *6*9 (P.105)
セルフタイマー *7 (P.106)
画面表示出力 *8*9 (P.107)

### • 日付機能設定

日付設定 (P.41)
表示モード *9 (P.42)

### • LCD/EVF 設定 *8

調節 (P.108)
EVF 表示 (P.109)

### • 初期設定



操作音 *9 (P.110)
パワーセーブ *9 (P.110)
録画ランプ *9 (P.111)
言語切替 (P.112)
デモモード (P.196)
設定リセット (P.112)

*1 DZ-GX20/MV780は「」のときに表示されます。
*2 「」のときに表示されます。
*3 DZ-GX20 の静止画のときに表示されます（別売ビデオフラッシュが接続されているときは表示されません）。
*4 DVD-RAM「」のときは表示されません。「カード」のときは「静止画画質」が表示されます（P.103）。
*5 「」、「カード」または外部入力のときは表示されません。
*6 DVD-RAM「」または「カード」で入力切替が「外部」または「S外部」のときに表示されます。
*7 DVD-RAM「」、「カード」のときに表示されます。
*8 入力切替が「カメラ」のときに表示されます。
*9 かんたんメニューのときは表示されません。

RAM R カード

# カメラ機能設定

**始める前に**

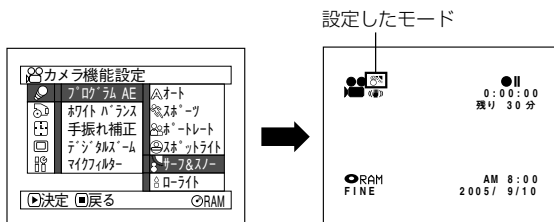
- 設定のしかたは、P.71をご覧ください。
- 外部入力のときは、表示されません。

## 状況に合った撮影モードを選ぶ（プログラムAE）

本機では、被写体と周囲の状況が自動で判別されて最適な映像が撮影されますが、状況に合った撮影モードを選ぶと、よりきれいに撮影できます。

**1** 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「プログラムAE」を選ぶ

**2** 設定したい撮影モードを選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

### ●撮影モード（☞ P.60）

**オートモード**

被写体と周囲の状況が自動で判断され、最適な映像が撮影されます。

**スポーツモード**

ゴルフやテニスなど激しい動きを撮影するときに、被写体のブレを少なくします。

**ポートレートモード**

人物や生物などを撮影するときに、背景をぼかして、被写体を浮かび上がらせます。

**スポットライトモード**

結婚式や舞台など被写体に強い光が当たっているときに、人物の顔などが白く飛んでしまうのを防ぎます。

**サーフ&スノーモード**

真夏の海辺やスキー場など照り返しが強い場所で、人物の顔などが暗くなるのを防ぎます。

**ローライトモード**

暗いところで撮影するとき、少ない明かりでも撮影できます。

撮影時に液晶モニターを180°回転させて液晶モニターの明かりで撮影することができます（☞ P.95）。

- 設定したモードは画面表示で確認できます。ただし「オート」のときは、何も表示されません。
- 設定した撮影モードは、電源を切っても記憶されています。

ご注意

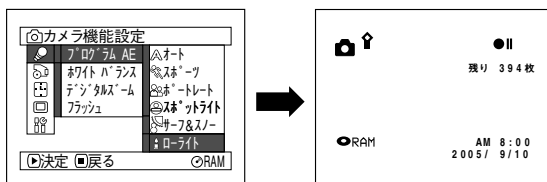
- 暗いところで撮影するとき、動きがある被写体や手振れがある場合では、残像が出ます（本機を三脚などで固定することをおすすめします）。
- 蛍光灯などの下でスポーツモードを使用すると、画面がちらつくことがあります。その場合は、オートモードで撮影してください。

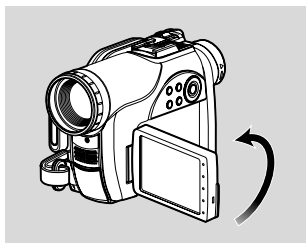
## 暗い場所を液晶モニターの明かりで撮る

撮影モードがローライトモードのとき、液晶モニターの明かりで撮影することができます。

**1** 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「プログラム AE」を選ぶ

**2** 「ローライト」を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

**4** 液晶モニターを開き、180°回転させて前に向ける

液晶モニターが白く点灯します。

- 映像はビューファインダーで確認してください。
- 暗い場所でも約 1 m の距離まで撮影できます。

ご注意

- 動きがある被写体や手振れがある場合では、残像が出ます（本機を三脚などで固定することをおすすめします）。
- ピントが合わせにくいときは、マニュアルフォーカスを選択して手動でピントを合わせてください（☞ P.78）。

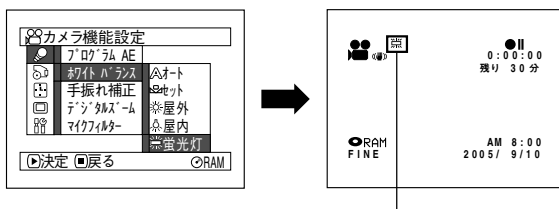
## 色合いを調整する（ホワイトバランス）

通常は、自動で色の調整をします。撮影状況に応じて、ホワイトバランスの設定を変えてください。

| モード | 設定内容 | 画面表示 |
|---|---|---|
| オート | ホワイトバランスが常に自動調整されます。 | なし |
| セット | 光源や状況に合わせて、手動で設定できます。（設定方法 ☞ P.97）。 | |
| 屋外 | 晴天下での撮影のときに合わせます。 | |
| 屋内 | 白熱球やハロゲンランプ、電球色系蛍光灯などのもとでの撮影のときに合わせます。 | |
| 蛍光灯 | 蛍光灯のもとでの撮影のときに合わせます。 | |

**1 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「ホワイトバランス」を選ぶ**

**2 モードを選んで、決定する**

**3 「メニュー」ボタンを押して終了する**

ホワイトバランスのモード

ヒント

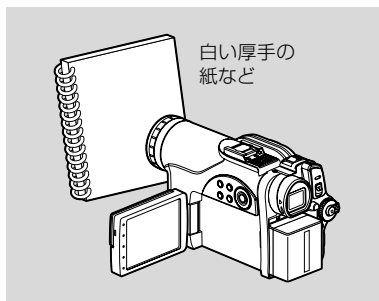
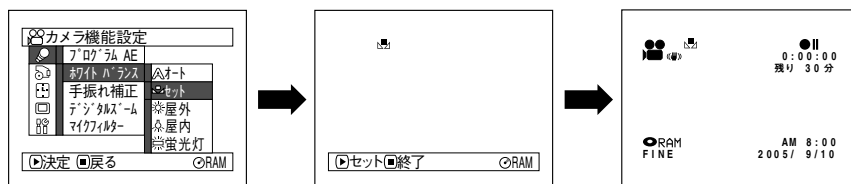
- ホワイトバランスのモードは、画面表示で確認できます。
- ホワイトバランスの設定は、電源を切っても記憶されています。

ご注意

- 赤外線センサー（☞ P.198「用語解説」）の前を手などでふさがないでください。
- テレコンバージョンレンズまたはワイドコンバージョンレンズをご使用の場合、撮影状況によっては、ホワイトバランスが動作しないことがあります。その場合は、撮影状況にあったモードに設定するか、手動でセットしてください。
- レンズキャップをつけたまま電源を入れると、ホワイトバランスが正しく働きません。必ず、レンズキャップを外してから電源を入れてください。

## ●ホワイトバランスを手動で設定する

**1 画面いっぱいに白い被写体を映す**

被写体は裏が透けないものをお使いください。
画面いっぱいに映し出すとき、ピントが合わない場合は「マニュアルフォーカス（☞ P.78）」で合わせてください。

**2 「メニュー」ボタンを押して、「ホワイトバランス」→「セット」を選び、決定する**

**3 表示が点滅から点灯に変わるまで、▶/IIを押し続ける**

表示が点灯に変わるとホワイトバランスの設定が完了します。

**4 ■（停止／キャンセル）ボタンを押して終了する**

- 「セット」のホワイトバランスは、次に設定し直すまで記憶されます。

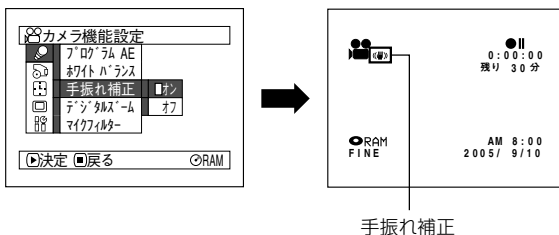
ご注意
- 色がついた被写体を使って設定すると、正しい色合いを設定できません。
- 入力切替設定がカメラ以外の場合は、ホワイトバランスのセットモードは設定できません（☞ P.104）。
- 暗い場所などでは、「セット」の設定がうまくできないことがあります。また、デジタルズームバーがデジタルズーム領域（☞ P.62）にあるときは、ホワイトバランスがセットできません。この場合は、表示が点滅したままになります。明るいところでデジタルズームを「オフ」にして設定してください。
- 撮影条件が変わった場合は、色合いを正確に合わせるために、設定し直してください。
- 電源を切っても設定は記憶されますが、次に電源を入れたとき、表示が点滅したままになります。必要に応じて設定し直してください。

## ぶれを少なくして撮る（手振れ補正）

ズーム（☞ P.62）で被写体を大きくして撮る場合でも、撮影した映像があまり振れないように自動で補正されます。

1 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「手振れ補正」を選ぶ

2 「オン」か「オフ」を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

- 手振れ補正が設定されているかどうかは、画面表示で確認できます。
- 手振れ補正の設定は、電源を切っても記憶されています。
- いつも「オフ」で撮影するのでなければ、撮影後は「オン」に戻してから電源を切ることをおすすめします。

ご注意
- 台の上に置いたり三脚を使用するときは、手振れ補正を「オフ」にすることをおすすめします。
- 手振れ補正が「オン」になっていると、実際の動きと画面の動きには若干の差が生じます。
- 手振れ補正が「オン」になっていても、手振れが大きすぎると補正されないことがありますので、本機を両手で支えて撮影することをおすすめします。
- テレコンバージョンレンズまたはワイドコンバージョンレンズをお使いのときは、手振れ補正が正しく動作しないことがあります。
- DZ-GX20/MV780 では、静止画モード時には手振れ補正を設定できません。

## 大きな倍率で撮る（デジタルズーム）

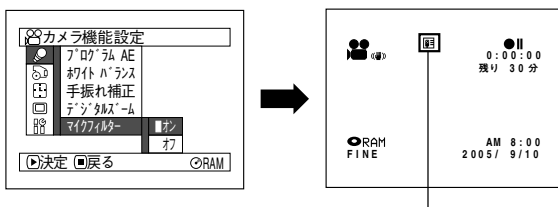
デジタルズームの設定は P.62 をご覧ください。

## 風の音を低減させて撮る（マイクフィルター）

本機の内蔵マイクで録音するとき、風の音を低減させることができます。
「マイクフィルター」を「オン」にしておくと、撮影時にマイクに入る音のうち低域の部分がカットされるため、対象の音が聞き取りやすくなります。

1 「メニュー」ボタンを押して、「カメラ機能設定」の「マイクフィルター」を選ぶ

2 「オン」を選び、決定する

3 「メニュー」ボタンを押して終了する

マイクフィルターアイコン

- マイクフィルターが設定されていることは、画面情報でも確認できます。
- マイクフィルターの設定は、電源を切っても記憶されています。

ご注意
- マイクフィルターは、動画撮影のときのみ働きます。
- マイクフィルターは、内蔵マイクのみ働きます。
- 外部マイクをご使用のときは働きません（☞ P.82）。

# 記録機能設定

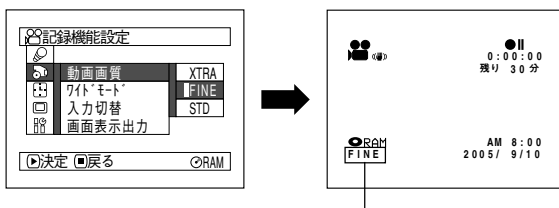
## 動画の画質を切り替える（動画画質）

RAM　R

本機では、動画の記録画質を切り替えることができます。
**大切な映像は「XTRA」か「FINE」で録画することをおすすめします（☞ P.33）。**

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／⏪／⏩ を使って「記録機能設定」の「動画画質」を選ぶ

**2** 設定したい画質を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

動画の記録画質

ヒント

- 動画画質の設定は、電源を切っても記憶されています。
- 下記のような撮影条件のときには、記録した映像にブロック状のノイズや被写体の輪郭にゆがみが出ますのでカメラはできるだけゆっくりと動かすようにしてください(特に「STD」での撮影では出やすくなります)。
  - ・　背景に複雑な絵柄（樹木やフェンスなど）がある場合（下図左）。
  - ・　本機を大きくまたは速く動かした場合。
  - ・　本機を動かさなくても被写体が著しく動いている場合。

（ブロック状のノイズが発生しやすい景色）

（ブロック状のノイズが発生しにくい景色）

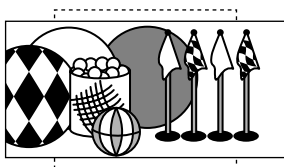
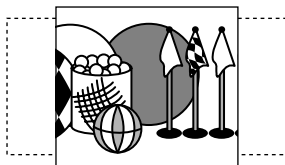
ご注意

- 動画画質の設定は、ディスクを入れ替えても変わりません。
- DVD-Rをお使いのときは、ディスクの途中で動画画質の設定を切り替えることはできません。最初に録画した動画画質での録画になります。
- 動画画質の設定は、動画の撮影のみ有効です。静止画の撮影では、表示されません。

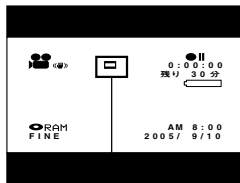
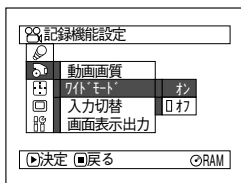
RAM R

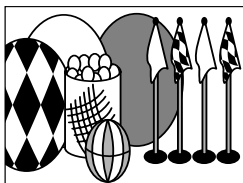
## ワイドテレビに対応した映像を撮る（ワイドモード）

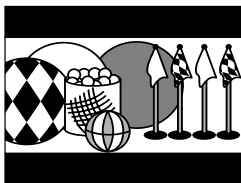
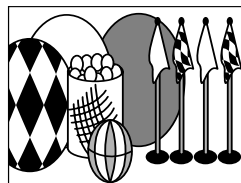
ワイドテレビ（画面比率16：9）でご覧になるときは、ワイドモード設定を「オン」にすると、画面比率を変えて撮影することができます（「オフ」時の画面比率は４：３)。

ワイドモード設定「オン」
（画面比率 16：9）

ワイドモード設定「オフ」
（画面比率４：３）

**1** **「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「記録機能設定」の「ワイドモード」を選ぶ**

**2** **「オン」を選び、決定する**

**3** **「メニュー」ボタンを押して終了する**

ワイドモードアイコン

ワイドテレビ以外のテレビでご覧になる場合は、「ワイドモード」設定「オフ」で撮影してください。「オン」で撮影すると、映像が縦長に記録されます。

「オン」で撮影した映像は、以下のように表示されます。

液晶モニターでの表示

ビューファインダーでの表示

- ワイドモードの設定は、電源を切っても記憶されています。

- 静止画撮影、外部入力、S外部入力、DVD-Rディスクでの「STD」記録時には対応していません。
- DVD-Rを使ってワイドモードで記録した後は、外部入力またはS外部入力に切り替えできません。
- DVD-Rにノーマルモードで記録した後は、ワイドモードへ切り替えられません。
- DVD-Rにワイドモードで記録した後は、ノーマルモードへ切り替えられません。
- ワイドモード設定「オン」(画面比率16：9)で撮影した映像は、ワイドモード設定にかかわらず記録したモードで再生されます。
- 日付やタイトル表示などの文字は、ワイドテレビ、本機の液晶モニターでは横長になります。
- ワイドモードをオンにしたときは、液晶モニターの上下に黒い帯が入ります(ただし、メニュー画面、ディスクナビゲーション画面、およびワイドモード設定「オフ」で撮影し再生しているときを除く)。
- ID-1/ID-2* には対応していません。
- S1またはS2入力端子に接続した場合は、自動的にテレビがワイドモードに切り替わります。詳しくはご使用のテレビの取扱説明書をご覧ください。
- ビデオセレクター(☞ P.199「用語解説」)をご使用の場合、自動的にテレビがワイドモードに切り替わらないことがあります。

* 画面の縦横比(16：9、4：3)をビデオ信号のすきまに記録するシステムです。

カード

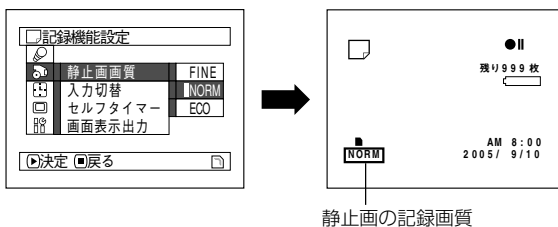
# 静止画の画質を切り替える（静止画画質）

カードをご使用のときのみ、静止画の記録画質を切り替えることができます。
大切な画像は「FINE」で録画することをおすすめします（☞ P.35「静止画のサイズと画質について」）。

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「記録機能設定」の「静止画画質」を選ぶ

**2** 設定したい画質を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

静止画の記録画質

ヒント

- 静止画画質の設定は、電源を切っても記憶されています。

RAM　R　カード

## 他の機器から映像を入力する（入力切替）

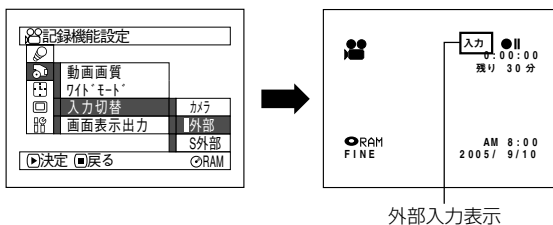
他の機器からの映像を本機に入力するときは、本機の設定を切り替えます。
他の機器との接続方法や、他の機器からの映像を録画する方法は、P.88からの説明を参照してください。

| 設　定 | 設定内容 | 画面表示 |
|---|---|---|
| カメラ | 通常はこちらに合わせます。 | なし |
| 外部 | 他の機器からの映像を入力するときに合わせます。 | 入力 |
| S 外部 | 他の機器からの映像をS入力するときに合わせます。 | S 入力 |

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「記録機能設定」の「入力切替」を選ぶ

**2** 設定したい入力モードを選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

外部入力表示

ヒント

- 入力切替の設定は、電源を切ると「カメラ」に戻ります。

## 外部入力映像の録画方式を切り替える（静止画外部入力）

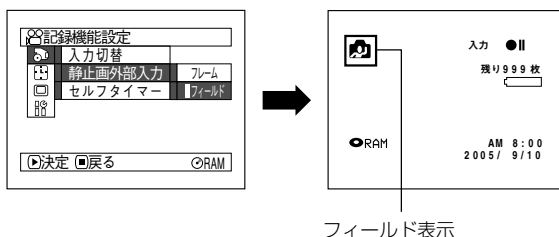
RAM　カード

DVD-RAMまたはカードをお使いのときに、入力切替が外部の場合、外部入力の映像を静止画で撮ることができます。静止画を撮るときの録画方式を2通りに切り替えられます。
動きの少ない映像は「フレーム」で撮ることもできますが、動きのある映像を録画するときは「フィールド」をおすすめします。

| 録画方式 | 設定内容 | 画面表示 | |
|---|---|---|---|
| | | DVD-RAM | カード |
| フレーム | 高画質ですが、動きの多い画像の録画には適しません。画面にぶれが生じやすくなります。動きの少ない画像の録画に適しています。 | | |
| フィールド | 画面のぶれは比較的少なく、動きの多い画像の録画に適しています。 | | |

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、I◀◀／▶▶I／◀◀／▶▶ を使って「記録機能設定」の「静止画外部入力」を選ぶ

**2** 設定したい録画方式を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

フィールド表示

ヒント

- 外部入力映像の静止画の録画方式は、画面表示で確認できます。
- 静止画外部入力の設定は、電源を切っても記憶されています。
- 他の機器との接続のしかたは、P.88「映像を録画（ダビング）する」をご覧ください。

RAM カード

# セルフタイマー

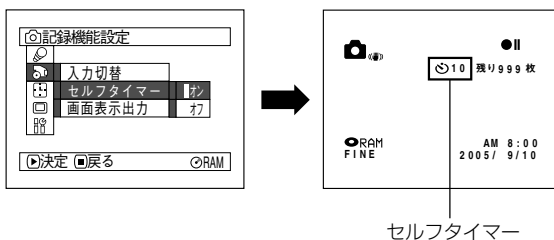
一般のカメラと同じようにセルフタイマーで撮影することもできます。

**静止画撮影のときのみ有効です。**

**1** **「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「記録機能設定」の「セルフタイマー」を選ぶ**

**2** **「オン」を選び、決定する**

「セルフタイマー」が設定されます。

**3** **「メニュー」ボタンを押して終了する**

**4** **「フォト」ボタンを押す**

本機の前面にある録画ランプが点滅します。

セルフタイマーの表示がカウントダウンして、約10秒後に静止画を撮影します。

ヒント

- セルフタイマーが設定されていることは、画面表示でも確認できます。
- セルフタイマーを解除したい場合は、設定を「オフ」にするか、一度電源を切ってください。
- セルフタイマーを中断する場合は、記録される前に、もう一度「フォト」ボタンを押すか、■(停止／キャンセル）ボタンを押してください。

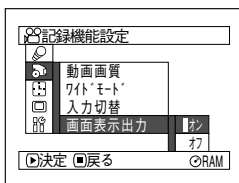
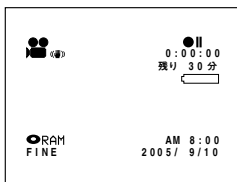
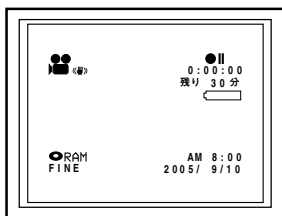
RAM　R　カード

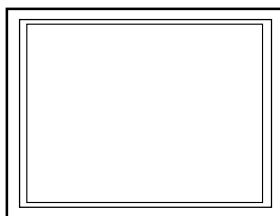
## 画面表示出力

本機をテレビにつないで見るときは、ビューファインダーや液晶モニターに表示される画面情報をテレビに表示しないようにできます（☞ P.85「テレビで見る」）。

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／⏪／⏩ を使って「記録機能設定」の「画面表示出力」を選ぶ

**2** 「オン」か「オフ」を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

液晶モニターまたはビューファインダー

「オン」を選択

テレビ画面

「オフ」を選択

テレビ画面

ヒント

- 画面表示出力の設定は、電源を切っても記憶されています。
- 「オフ」に設定しても、再生時の画面表示は表示されます。再生時の画面表示については P.68 をご覧ください。
- 画面情報はテレビ画面に表示されなくても、ビューファインダーや液晶モニターには表示されます。

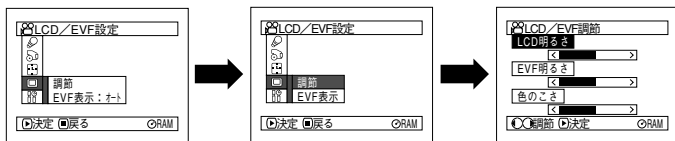
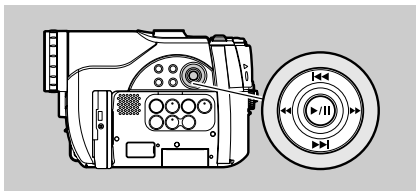
ご注意

- 画面表示出力は入力切替がカメラのときのみ有効です。
  外部入力のときは設定できません。

RAM R カード

# LCD/EVF 設定

## 液晶モニターの明るさを設定する（明るさ）

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「LCD/EVF 設定」の「調節」を選び、決定する

**2** 「LCD 明るさ」を選び、◀◀／▶▶ で調節する

◀◀ を押す ................ 暗くなります

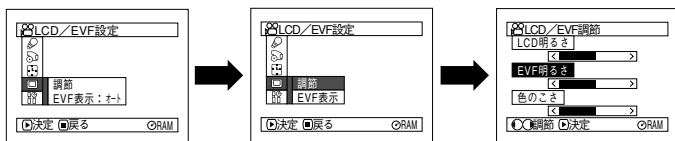
▶▶ を押す ................ 明るくなります

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

- 明るさの設定は、電源を切っても記憶されています。

## ビューファインダーの明るさを設定する（明るさ）

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「LCD/EVF設定」の「調節」を選び、決定する

**2** 「EVF 明るさ」を選び、◀◀／▶▶ で調節する

◀◀ を押す ................ 暗くなります

▶▶ を押す ................ 明るくなります

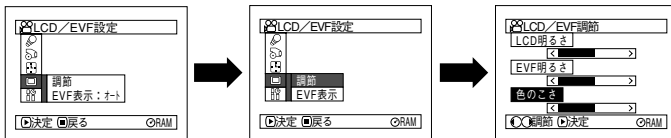
**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

- 明るさの設定は、電源を切っても記憶されています。

## 色のこさを設定する（色のこさ）

液晶モニターとビューファインダーの色のこさを調節できます。

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「LCD/EVF設定」の「調節」を選び、決定する

**2** 「色のこさ」を選び、◀◀／▶▶ で調節する

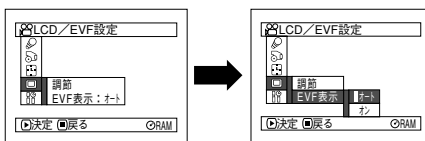
◀◀ を押す ................ 色がうすくなります
▶▶ を押す ................ 色がこくなります

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

- 色のこさの設定は、電源を切っても記憶されています。
- 液晶モニター／ビューファインダーの明るさや色のこさを変えても、録画映像の明るさや色のこさは変わりません。

## ビューファインダーを常時表示する

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「LCD/EVF設定」の「EVF 表示」を選ぶ

**2** 「オン」を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

液晶モニターの状態に関係なく、常にビューファインダーが表示されます。

ヒント

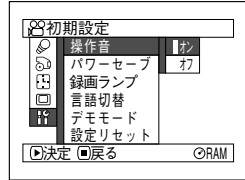
- EVF 表示の設定は、電源を切っても記憶されています。

# 初期設定

## 操作音を出す／消す

| 設　定 | 設定内容 |
|---|---|
| オン | 電源の入／切、動画モードで録画ボタンを押したときなどに、操作音が出ます。 |
| オフ | 操作音が出ません。 |

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／⏪／⏩を使って「初期設定」の「操作音」を選ぶ

**2** 「オン」か「オフ」を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

- 操作音の設定は、電源を切っても記憶されています。

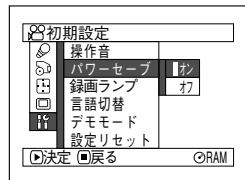


## 自動的に電源を切る（パワーセーブ）

| 設　定 | 設定内容 |
|---|---|
| オン | パワーセーブを設定します。記録一時停止で何も操作しない状態が約5分間続くと、自動的に電源が切れてバッテリーの消耗を防ぐことができます。 |
| オフ | パワーセーブを解除します。 |

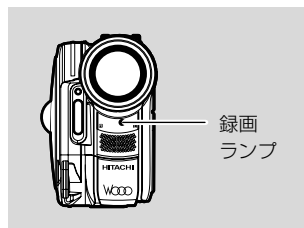
**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／⏪／⏩を使って「初期設定」の「パワーセーブ」を選ぶ

**2** 「オン」か「オフ」を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

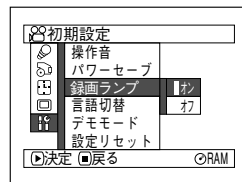
- パワーセーブの機能により電源が切れたあと電源を入れたいときは、一度電源スイッチを「切」にしてから電源を入れてください。
- パワーセーブの設定は、画面情報には表示されません。
- パワーセーブの設定は、電源を切っても記憶されています。

## 録画ランプ点灯／消灯

本機の前面にある録画ランプを消すことができます。

| 設　定 | 設定内容 |
|---|---|
| オン | 録画しているとき、録画中であることをお知らせするため、赤く点灯します。 |
| オフ | 録画中でも録画ランプは点灯しません。 |

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「初期設定」の「録画ランプ」を選ぶ

**2** 「オン」か「オフ」を選び、決定する

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

- 録画ランプの設定は、電源を切っても記憶されています。
- ガラスごしや水槽など反射するものを撮影するときなどにオフにすると、録画ランプの反射光が撮影されません。

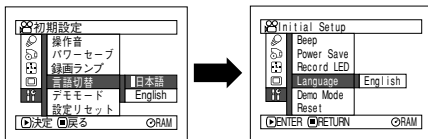
ご注意
- 録画ランプの設定は、画面情報には表示されません。
- 「オフ」に設定していてもセルフタイマーの表示がカウントダウン中は点灯します。

## 表示言語の切り替え（言語切替）

メニューの表示や情報表示の言語を英語に切り替えることができます。
ここでは、日本語表示から英語表示に切り替えてみましょう。

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「初期設定」の「言語切替」を選ぶ

**2** 「English」を選び、決定する
表示が英語に切り替わります。

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

- 表示言語の設定は、電源を切っても記憶されています。

ご注意 • 表示言語を英語にしても、「Language」の選択肢には「日本語」「English」と表示されます。

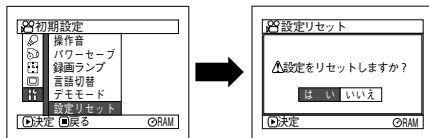


## メニューを初期状態に戻す（設定リセット）

カメラメニューの設定を初期状態（工場出荷時の設定値（☞ P.215)に戻すことができます（日付・時刻設定は戻りません)。

**1** 「メニュー」ボタンを押してから、⏮／⏭／◀◀／▶▶ を使って「初期設定」の「設定リセット」を選ぶ
「設定リセット」の確認画面が表示されます。

**2** リセットしてよい場合は、「はい」を選び、決定する
設定項目が初期状態になります。

**3** 「メニュー」ボタンを押して終了する

ヒント

- 設定リセットを途中でやめたい場合は、手順**2**の確認画面で、「いいえ」を選ぶか、■（停止／キャンセル）ボタンを押してください。